

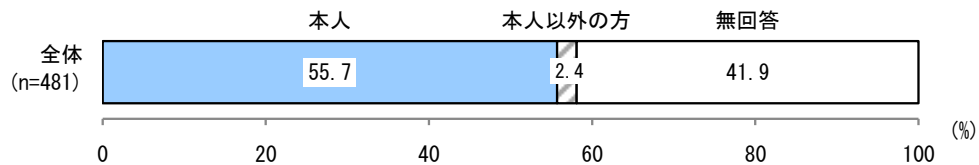
第3章 若年者調査の結果

1 回答者の基本属性

(1) 調査票の記入者

Q 調査票を記入された方をお教えてください。＜あてはまる方に○を付けてください。＞

【図 1-1 調査票の記入者】

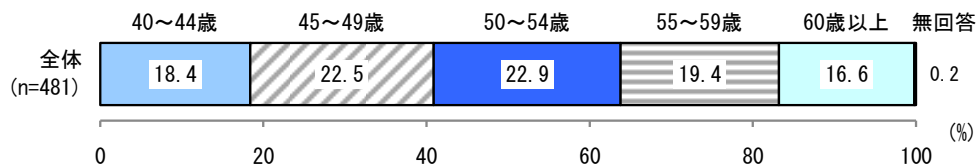


調査票の記入者は、「本人」が 55.7%、「本人以外の方」が 2.4%となっています。(図 1-1)

(2) 年齢

問 1 Q 1 あなた（あて名の御本人。以下の問も同じです。）の年齢をお教えてください。＜○は 1 つ＞

【図 1-2 年齢】

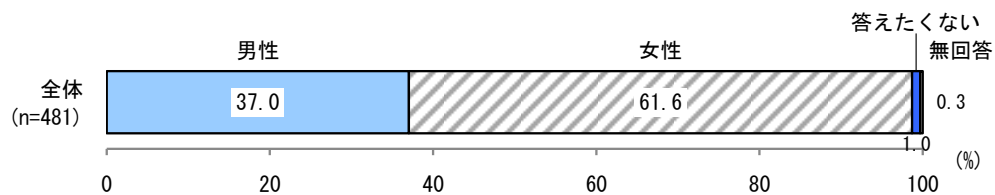


回答者の年齢は、「50～54 歳」が 22.9%で最も多く、次いで「45～49 歳」が 22.5%、「55～59 歳」が 19.4%となっています。(図 1-2)

(3) 性別

問 1 Q 2 あなたの性別をお教えてください。＜○は 1 つ＞

【図 1-3 性別】

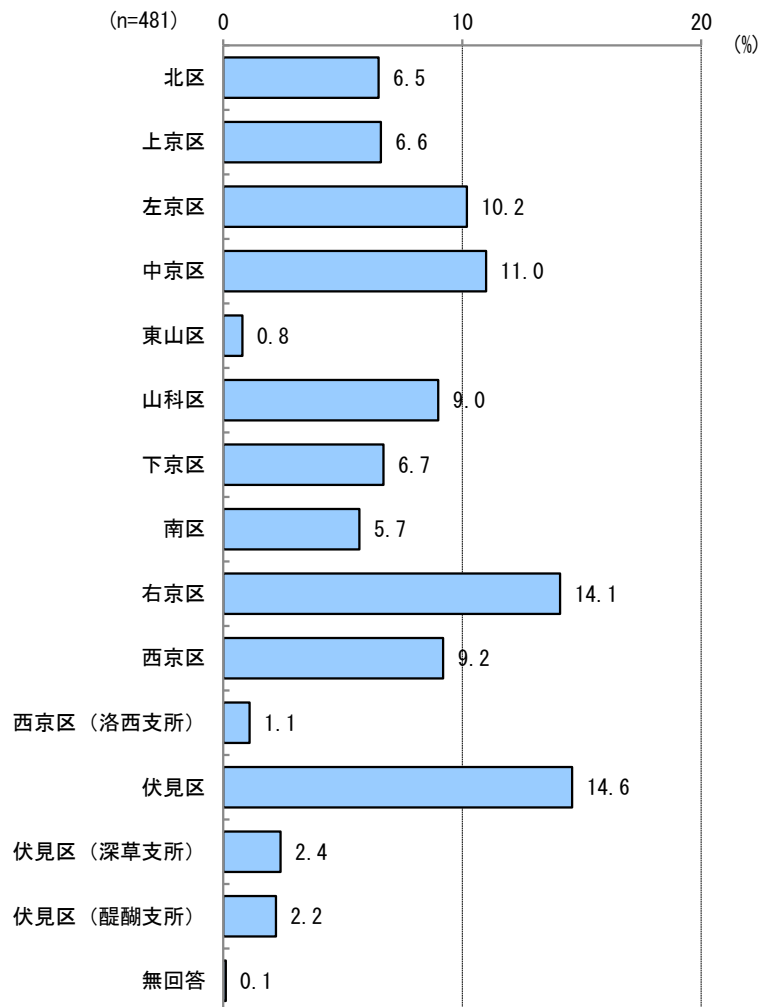


回答者の性別は、「男性」が 37.0%、「女性」が 61.6%となっています。(図 1-3)

(4) 居住区・支所

問1Q3 あなたがお住まいの区・支所をお教えてください。＜○は1つ＞

【図1-4 居住区・支所】

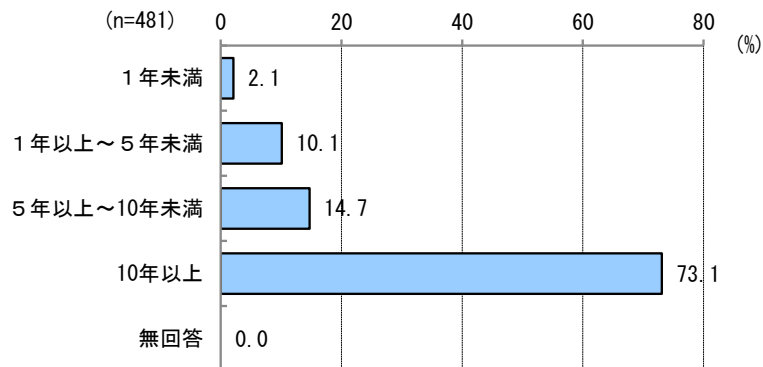


回答者の居住区・支所は、「伏見区」が14.6%で最も多く、次いで「右京区」が14.1%、「中京区」が11.0%となっています。（図1-4）

（５）居住年数

問１Ｑ４ あなたは現在の地域（学区）に何年お住まいですか。＜○は１つ＞

【図 1-5 居住年数】

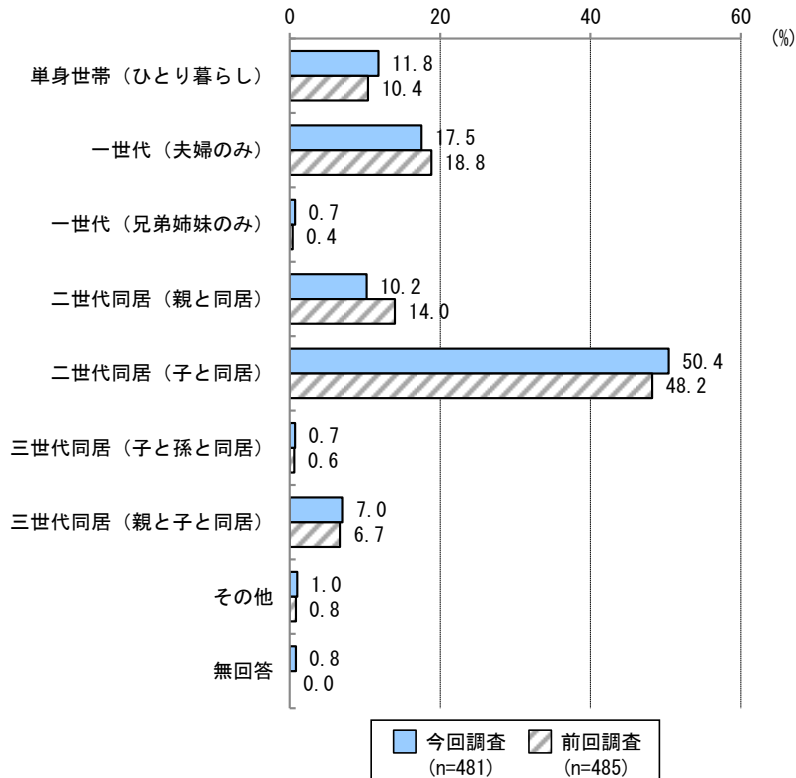


回答者の居住年数は、「10 年以上」が 73.1%で最も多く、次いで「5 年以上～10 年未満」が 14.7%、「1 年以上～5 年未満」が 10.1%となっています。（図 1-5）

（６）家族構成

問１Ｑ５ あなたの同居者（家族）の構成をお教えてください。＜○は１つ＞

【図 1-6 家族構成】



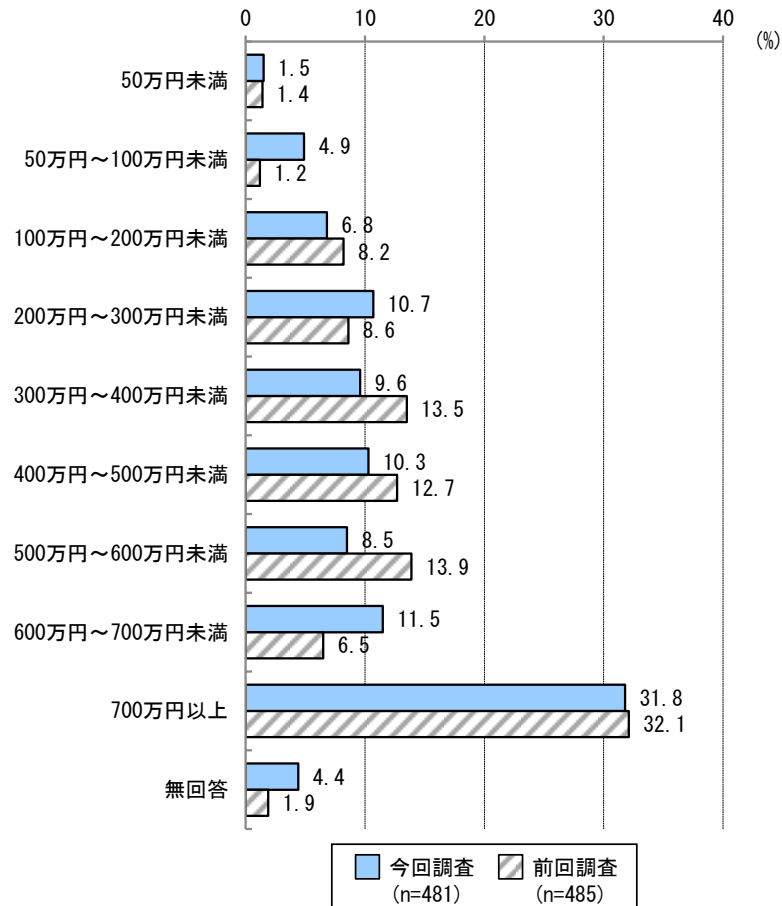
回答者の家族構成は、「二世世代同居（子と同居）」が 50.4%で最も多く、次いで「一世代（夫婦のみ）」が 17.5%、「単身世帯（ひとり暮らし）」が 11.8%となっています。

前回調査と比較すると、二世世代同居の「親と同居」が 3.8 ポイント低くなっており、「子と同居」が 2.2 ポイント高くなっています。（図 1-6）

(7) 世帯の年間総収入

問1Q6 あなたの世帯の年間総収入（年金収入を含む。税込）はどのくらいですか。
<〇は1つ>

【図1-7 世帯の年間総収入】



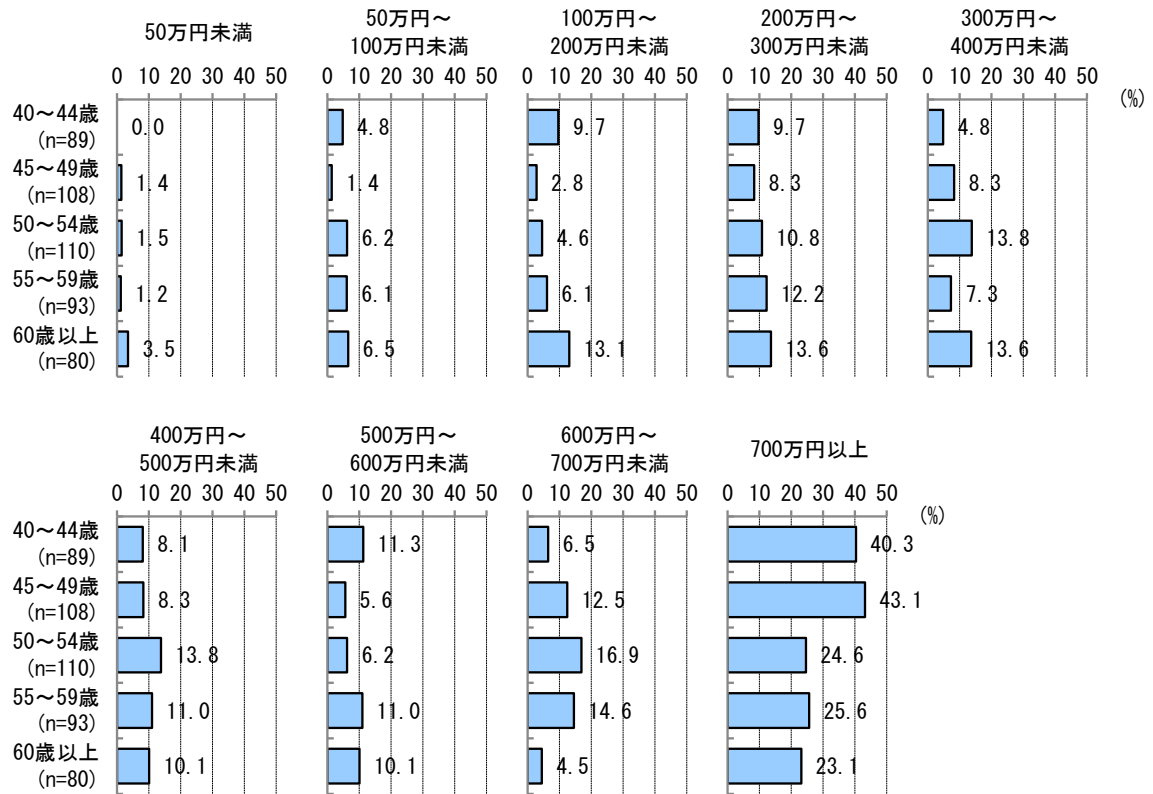
世帯の年間総収入については、「700 万円以上」が 31.8%で最も多く、次いで「600 万円～700 万円未満」が 11.5%、「200 万円～300 万円未満」が 10.7%となっています。

前回調査と比較すると、「600 万円～700 万円未満」が 5.0 ポイント、「50 万円～100 万円未満」が 3.7 ポイント高くなっています。一方、「500 万円～600 万円未満」は 5.4 ポイント、「300 万円～400 万円未満」は 3.9 ポイント、「400 万円～500 万円未満」は 2.4 ポイント低くなっています。

(図1-7)

年齢別でみると、いずれの年代も「700 万円以上」が最も多く、40 歳代は 4 割台と高い割合になっています。一方、『300 万円未満』の割合は、60 歳以上が 36.7%で最も高く、次いで 55～59 歳が 25.6%、40～44 歳が 24.2%となっています。(図 1-7-1)

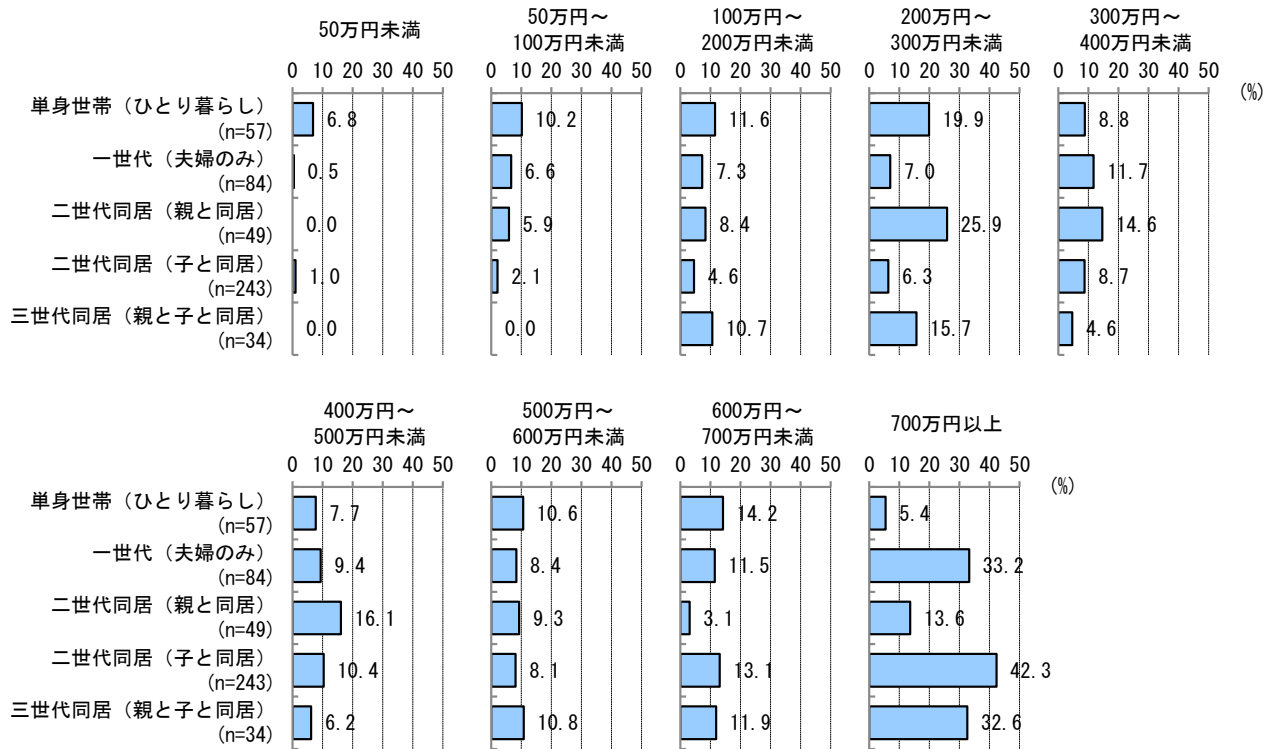
【図 1-7-1 年齢別 世帯の年間総収入】



家族構成別でみると、単身世帯（ひとり暮らし）と二世世代同居（親と同居）は「200 万円～300 万円未満」（ひとり暮らし 19.9%、親と同居 25.9%）が最も多くなっており、両世帯の『300 万円未満』の割合は、単身世帯（ひとり暮らし）が 48.5%、二世世代同居（親と同居）が 40.2%と高い割合になっています。

一方、一世代（夫婦のみ）や二世世代同居（子と同居）、三世世代同居（親と子と同居）は「700 万円以上」（夫婦のみ 33.2%、子と同居 42.3%、親と子と同居 32.6%）が最も多くなっていきます。（図 1-7-2）

【図 1-7-2 家族構成別 世帯の年間総収入】

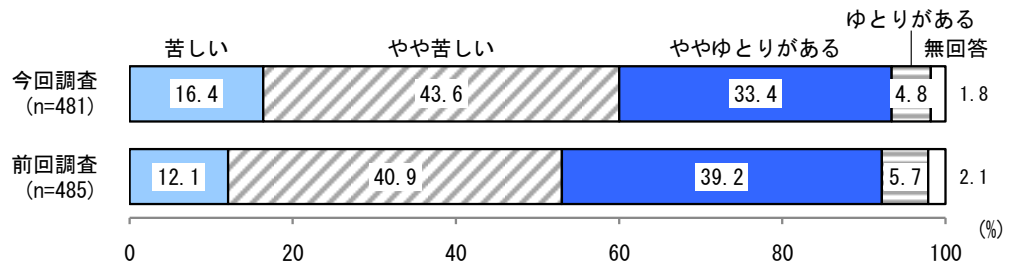


※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世世代同居（子と孫と同居）」「その他」の母数(n=10 未満)は少ないので割愛します。

(8) 経済状況

問1Q7 あなたは現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。＜○は1つ＞

【図1-8 経済状況】

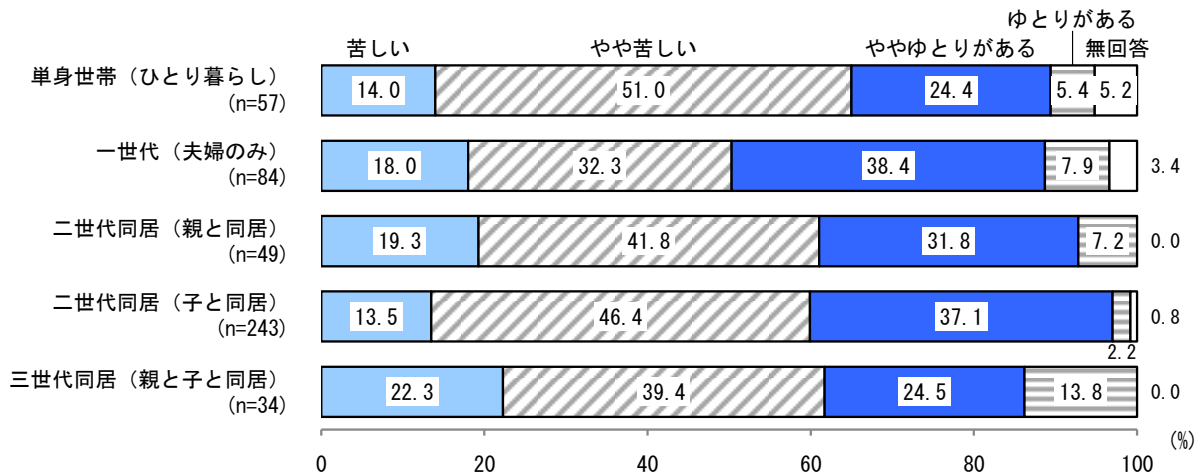


経済的にみた現在の暮らしの状況については、「やや苦しい」が43.6%で最も多く、次いで「ややゆとりがある」が33.4%、「苦しい」が16.4%となっています。「苦しい」と「やや苦しい」を合わせた『苦しい』割合は60.0%となっています。

前回調査と比較すると、『苦しい』割合が7.0ポイント高くなっています。(図1-8)

家族構成別でみると、いずれの世帯も『苦しい』割合が5割以上となっており、単身世帯（ひとり暮らし）は65.0%となっています。一方、「ややゆとりがある」と「ゆとりがある」を合わせた『ゆとりがある』割合では、一世代（夫婦のみ）が46.3%と他の世帯と比べて高い割合になっています。(図1-8-1)

【図1-8-1 家族構成別 経済状況】



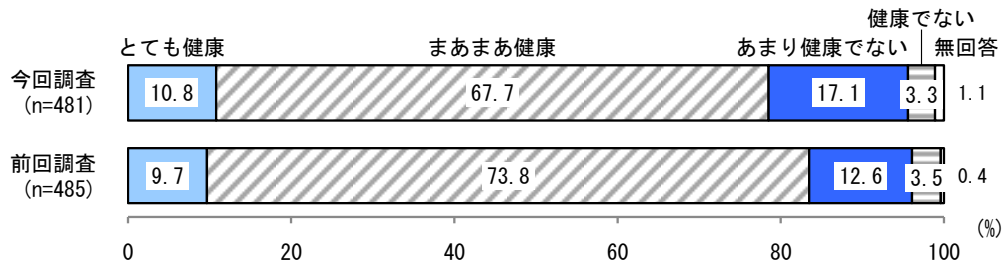
※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世世代同居（子と孫と同居）」「その他」の母数(n=10未満)は少ないので割愛します。

2 健康について

(1) 主観的健康観

問2 Q1 あなたは普段、御自分で健康だと思いますか。＜○は1つ＞

【図 2-1 主観的健康観】

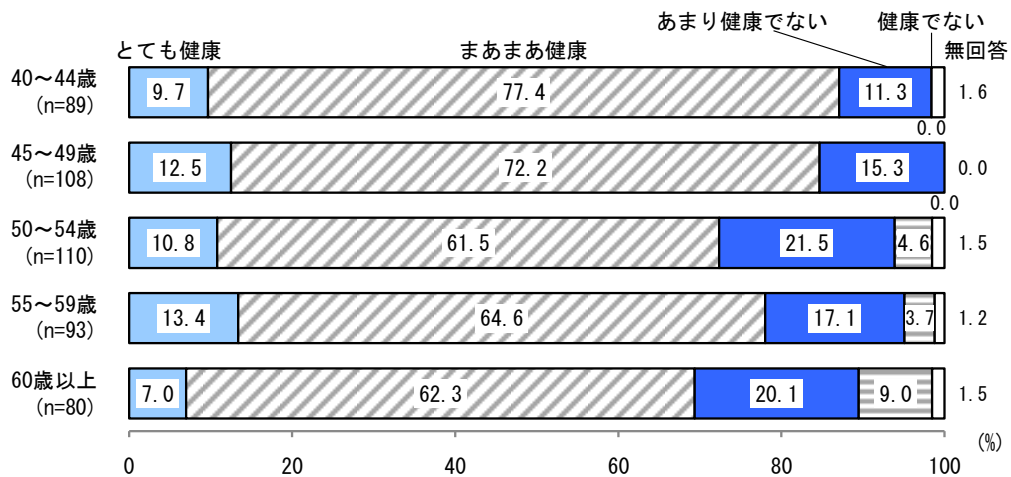


主観的健康観については、「まあまあ健康」が67.7%で最も多く、次いで「あまり健康でない」が17.1%、「とても健康」が10.8%となっています。

前回調査と比較すると、「まあまあ健康」が6.1ポイント低くなっており、「あまり健康でない」が4.5ポイント高くなっています。(図 2-1)

年齢別でみると、「とても健康」と「まあまあ健康」を合わせた『健康である』割合が、40歳代で8割台、50歳代で7割台、60歳以上が6割台となっており、年代が上がるほど低くなっています。一方、「あまり健康でない」と「健康でない」を合わせた『健康でない』割合が、50歳以降の各年代で2割台となっています。(図 2-1-1)

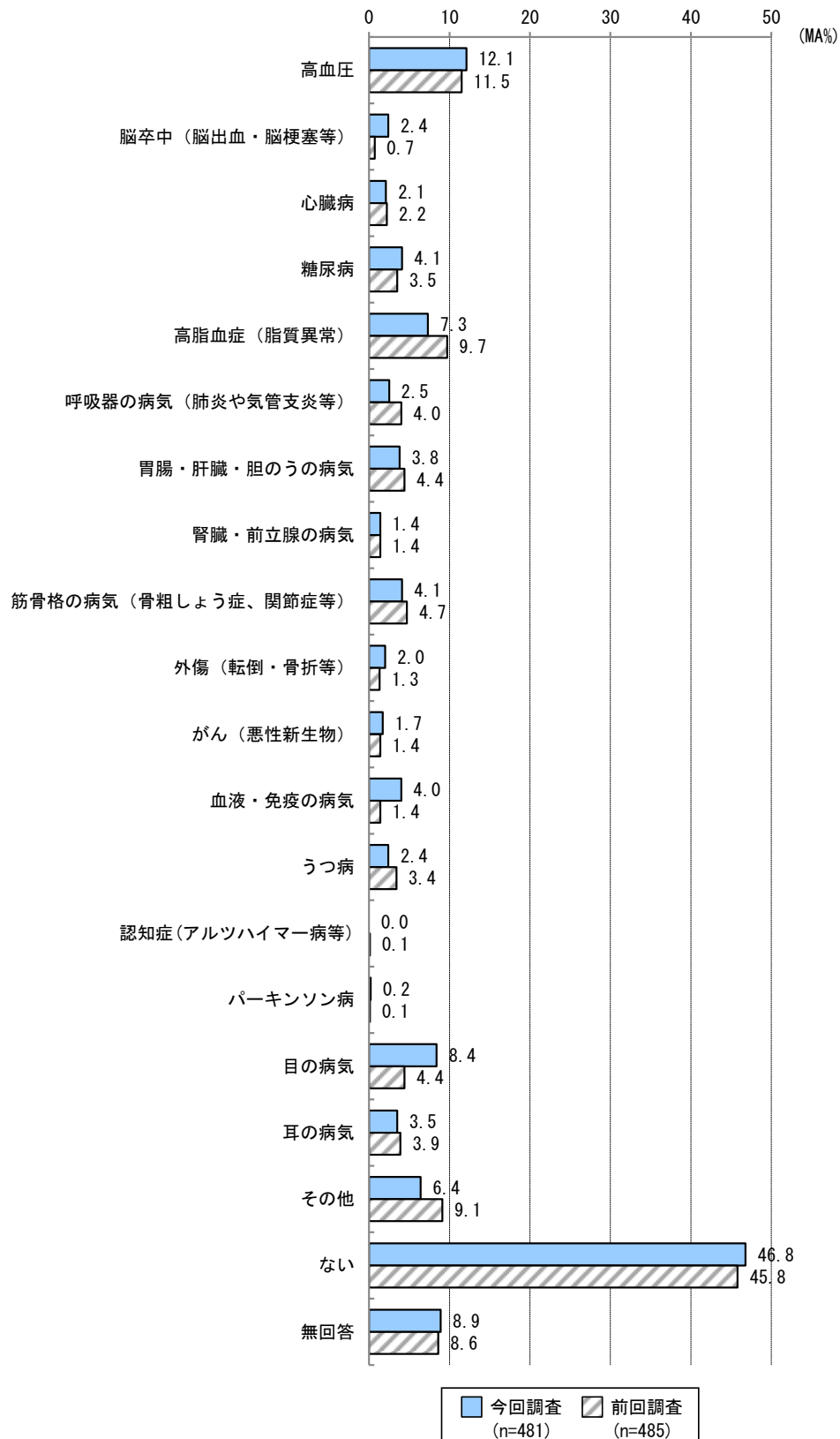
【図 2-1-1 年齢別 主観的健康観】



(2) 現在治療中または後遺症のある病気

問2 Q2 あなたは現在治療中又は後遺症のある病気はありますか。〈あてはまるものすべてに○〉

【図 2-2 現在治療中または後遺症のある病気】

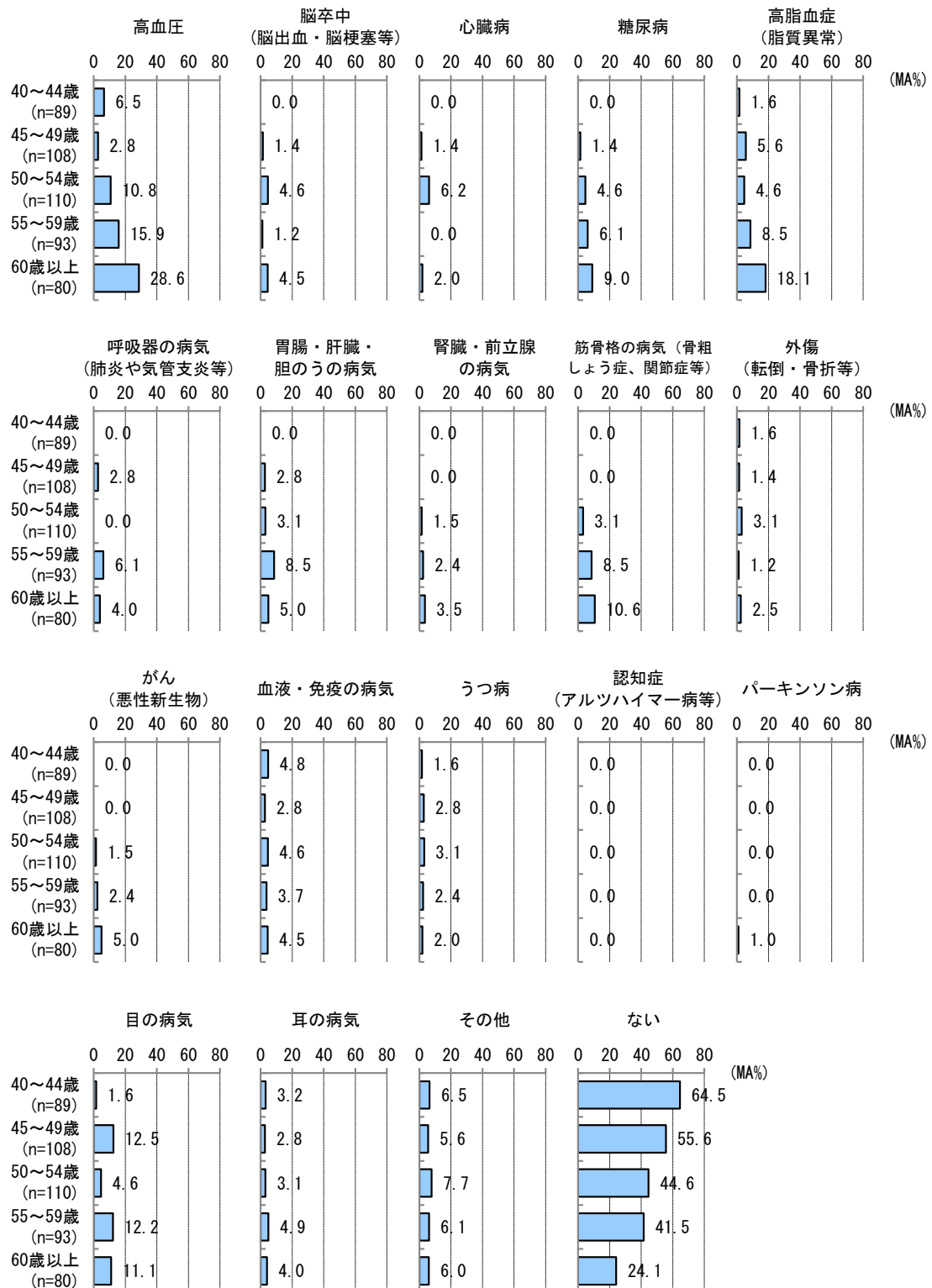


現在治療中又は後遺症のある病気については、「ない」が46.8%で最も多くなっています。病気等がある人では、「高血圧」が12.1%で最も多く、次いで「目の病気」が8.4%、「高脂血症（脂質異常）」が7.3%となっています。

前回調査と比較すると、「高脂血症（脂質異常）」が2.4ポイント低くなっており、「目の病気」が4.0ポイント高くなっています。（図2-2）

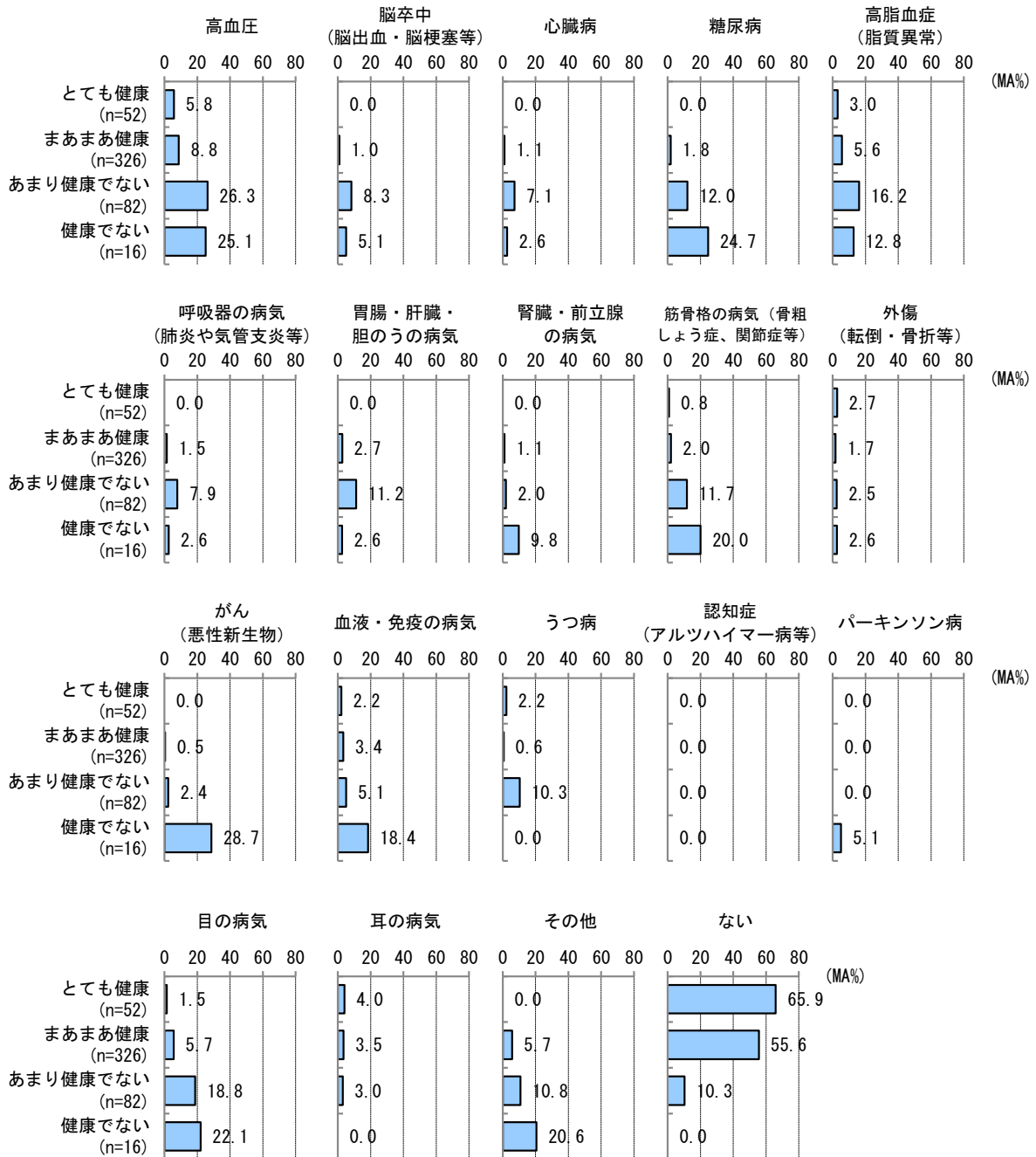
年齢別でみると、年代が上がるほど「高血圧」や「糖尿病」、「高脂血症（脂質異常）」の割合が高くなる傾向がみられます。また、50歳以降になると「腎臓・前立腺の病気」や「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」、「がん（悪性新生物）」の割合が高くなる傾向がみられます。（図2-2-1）

【図2-2-1 年齢別 現在治療中または後遺症のある病気】



主観的健康観別でみると、健康でない人は母数が少ないので一概にはいえませんが、「がん（悪性新生物）」が28.7%で最も多くなっています。あまり健康でない人では「高血圧」が26.3%で最も多くなっています。（図2-2-2）

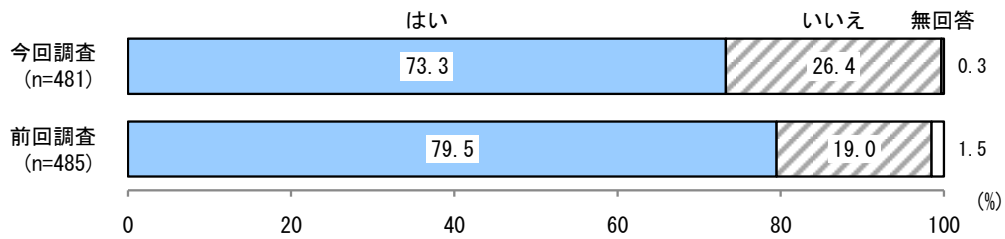
【図2-2-2 主観的健康観別 現在治療中または後遺症のある病気】



(3) 定期健診の受診有無

問 2 Q 3 あなたは定期的に健康診断を受診していますか。＜○は1つ＞

【図 2-3 定期健診の受診有無】

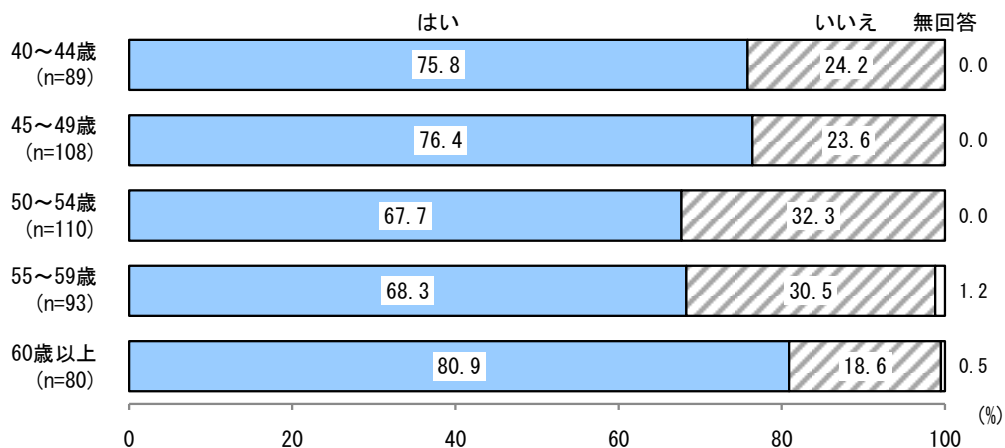


定期的に健康診断を受診しているかについては、「はい」が73.3%、「いいえ」が26.4%となっています。

前回調査と比較すると、「はい」が6.2ポイント低くなっており、「いいえ」が7.4ポイント高くなっています。(図 2-3)

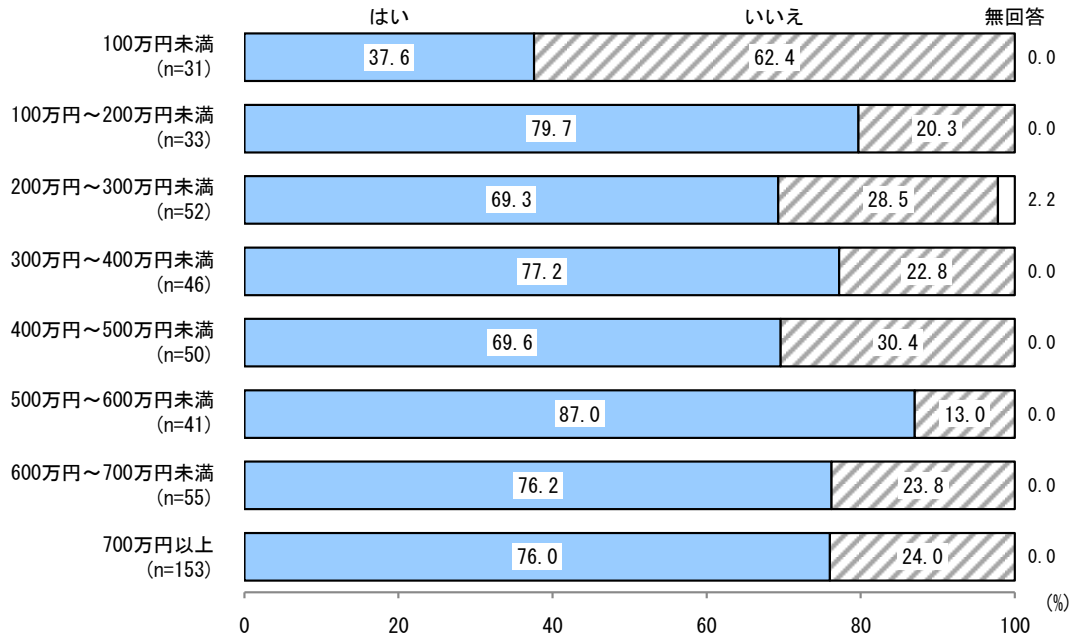
年齢別でみると、「はい (受診している)」の割合は、60歳以上が8割台、40歳代が7割台、50歳代が6割台となっています。(図 2-3-1)

【図 2-3-1 年齢別 定期健診の受診有無】



世帯の年間総収入別でみると、「はい（受診している）」の割合は、100 万円以上の世帯が 6 割以上に対し、100 万円未満の世帯は 37.6%と低くなっています。（図 2-3-2）

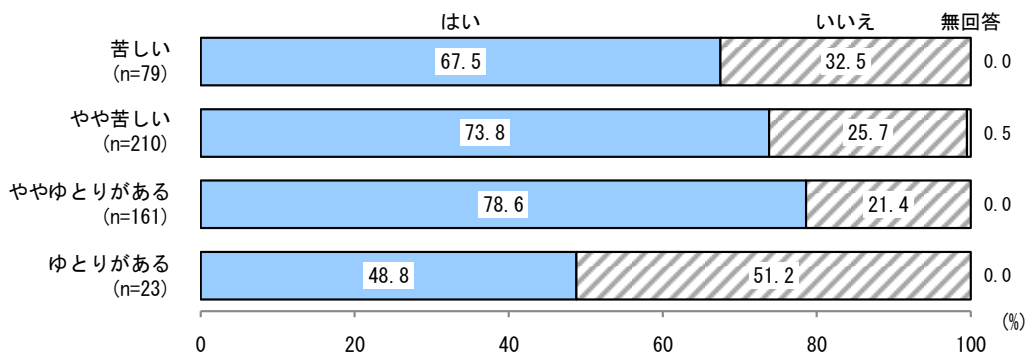
【図 2-3-2 世帯の年間総収入別 定期健診の受診有無】



※「50 万円未満」の母数 (n=7) は少ないので、「50 万円～100 万円未満」と合わせて集計しています。

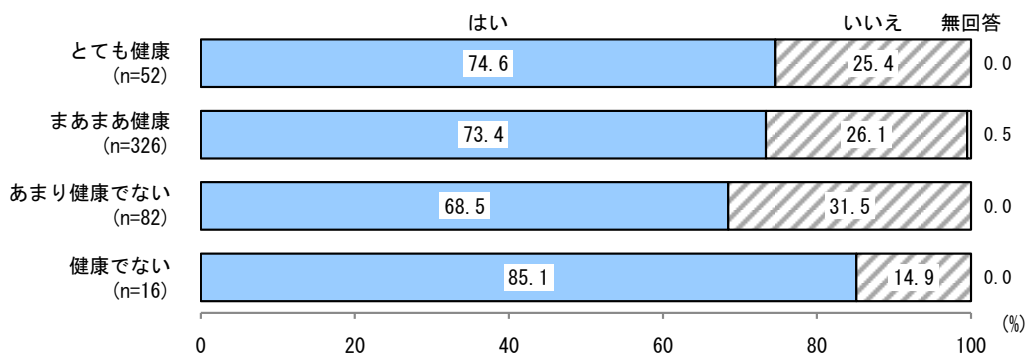
経済状況別でみると、経済的に苦しい人・やや苦しい人とも「はい（受診している）」は 6 割以上となっています。（図 2-3-3）

【図 2-3-3 経済状況別 定期健診の受診有無】



主観的健康観別でみると、健康でない人の母数が少ないので一概にはいえませんが、健康状態にかかわらず「はい（受診している）」は 6 割以上となっています。（図 2-3-4）

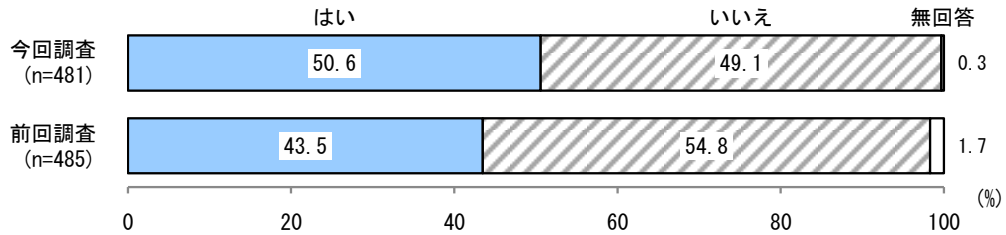
【図 2-3-4 主観的健康観別 定期健診の受診有無】



(4) 定期的な歯科受診の有無

問2Q4 あなたは定期的に歯科受診（健診を含む）をしていますか。＜○は1つ＞

【図2-4 定期的な歯科受診の有無】

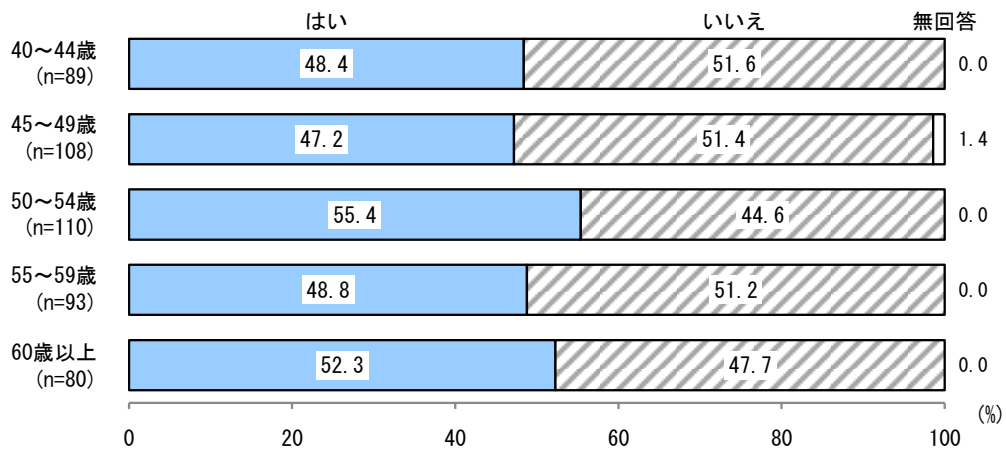


定期的に歯科受診をしているかについては、「はい」が 50.6%、「いいえ」が 49.1%となっています。

前回調査と比較すると、「はい」が 7.1 ポイント高くなっています。(図 2-4)

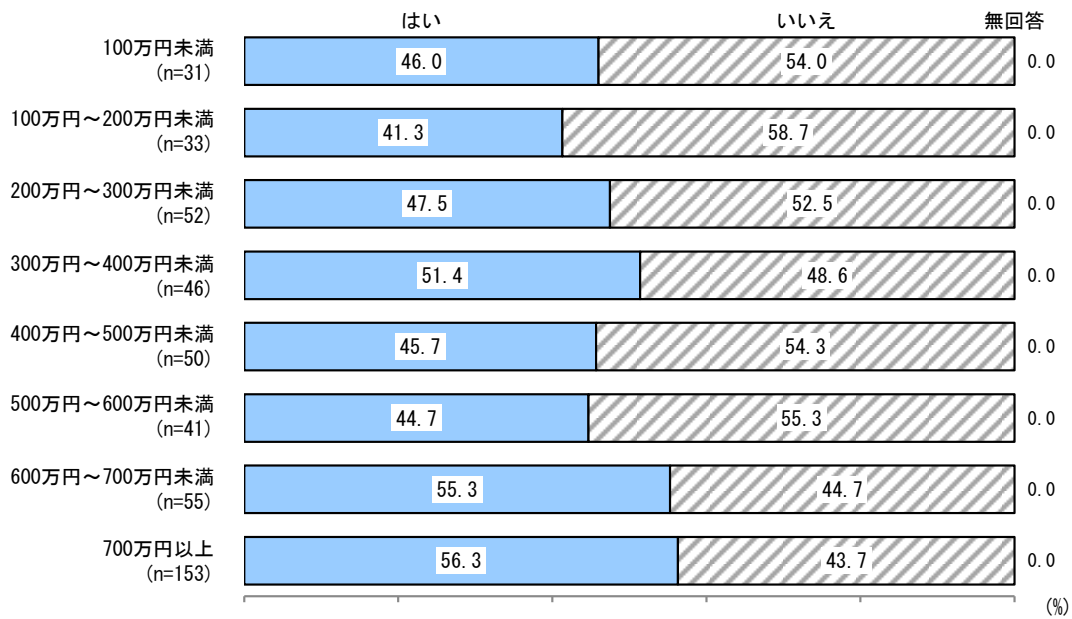
年齢別でみると、いずれの年代も「はい」「いいえ」がほぼ半々の割合になっています。(図 2-4-1)

【図2-4-1 年齢別 定期的な歯科受診の有無】



世帯の年間総収入別でみると、「はい（受診している）」の割合は、300 万円～400 万円未満の世帯と 600 万円以上の世帯が 5 割台と高くなっています。（図 2-4-2）

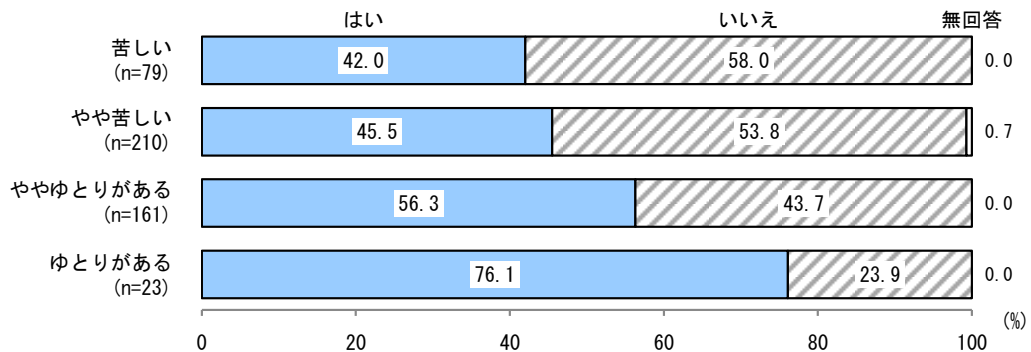
【図 2-4-2 世帯の年間総収入別 定期的な歯科受診の有無】



※「50 万円未満」の母数 (n=7) は少ないので、「50 万円～100 万円未満」と合わせて集計しています。

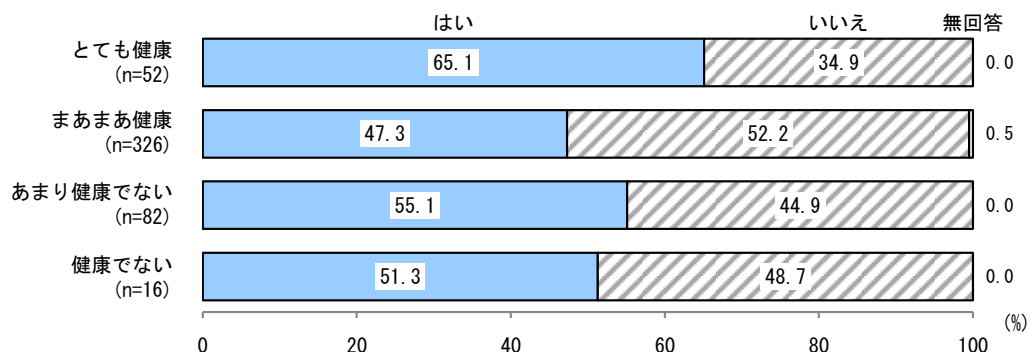
経済状況別でみると、経済的に苦しい・やや苦しい人は「いいえ（受診していない）」のほうが多いですが、経済的にゆとりのある人ほど「はい（受診している）」の割合が高くなる傾向がみられます。（図 2-4-3）

【図 2-4-3 経済状況別 定期的な歯科受診の有無】



主観的健康観別でみると、「はい（受診している）」の割合は、とても健康な人が 65.1%と高くなっていますが、まあまあ健康な人は 47.3%と比較的低い割合になっています。（図 2-4-4）

【図 2-4-4 主観的健康観別 定期的な歯科受診の有無】

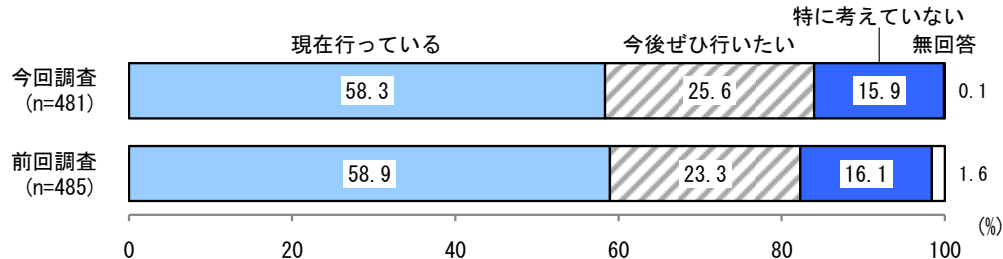


(5) 病気の予防や健康づくりのための取組状況

問2 Q5 あなたは以下のような病気の予防や健康づくりのための取組を現在行っていますか。
また行っていない場合は、今後どのように考えていますか。
＜(1)から(5)までそれぞれ○は1つつつ＞

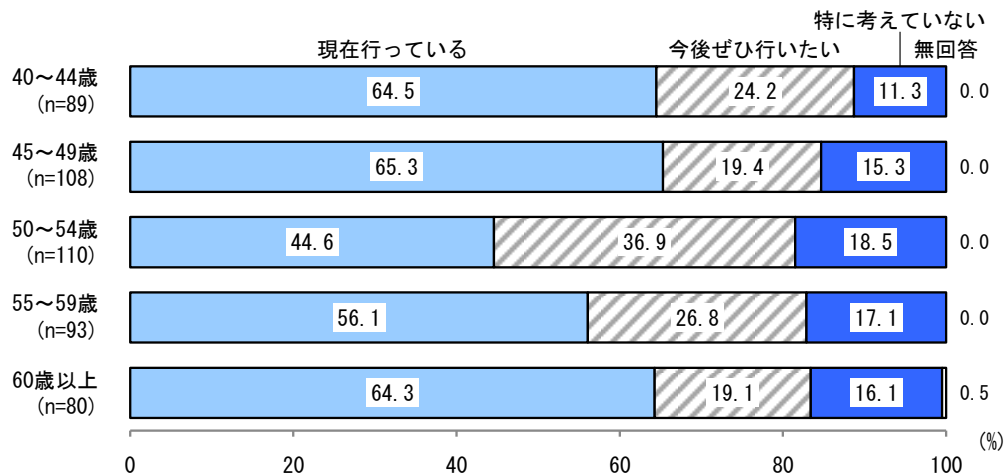
① 早寝・早起きなど規則正しい生活を送る

【図 2-5① 規則正しい生活】



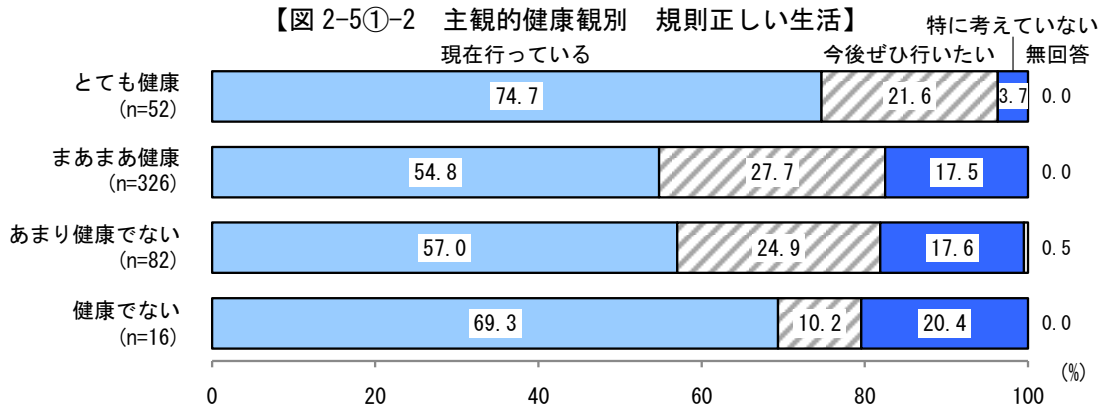
早寝・早起きなど規則正しい生活を送っているかについては、「現在行っている」が 58.3%、「今後ぜひ行いたい」が 25.6%、「特に考えていない」が 15.9%となっています。
前回調査と比較すると、「今後ぜひ行いたい」が 2.3 ポイント高くなっています。(図 2-5①)
年齢別でみると、「現在行っている」割合では、40 歳代と 60 歳以上が 6 割台、55～59 歳が 5 割台となっていますが、50～54 歳は 44.6%と比較的低い割合になっています。(図 2-5①-1)

【図 2-5①-1 年齢別 規則正しい生活】



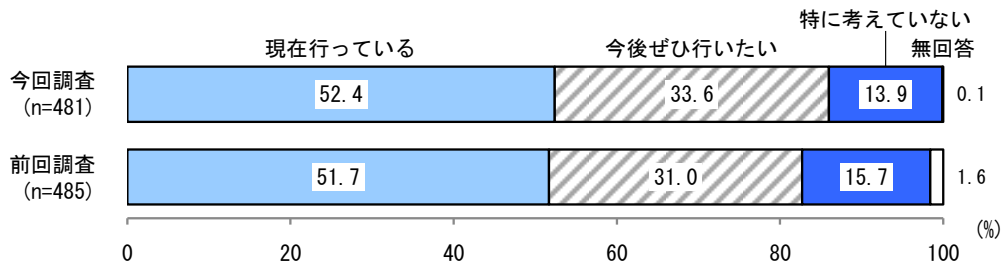
主観的健康観別でみると、健康でない人は母数が少ないので一概にはいえませんが、「現在行っている」の割合は、とても健康な人は 74.7%、健康でない人が 69.3%、それ以外の人が 5 割台となっています。(図 2-5①-2)

【図 2-5①-2 主観的健康観別 規則正しい生活】



② ふだんの生活の中で、意識的に歩いたり運動などをする

【図 2-5② 意識的な運動】

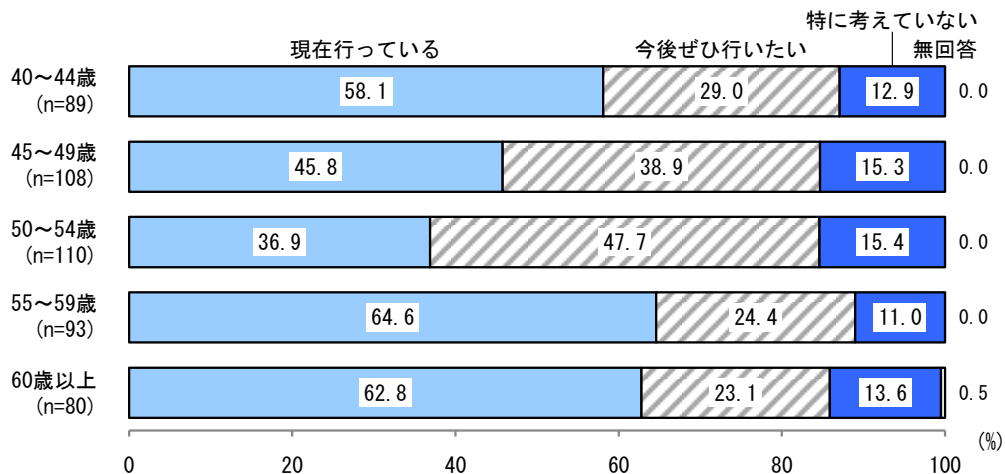


ふだんの生活の中で、意識的に歩いたり運動などを行っているかについては、「現在行っている」が 52.4%で最も多く、次いで「今後ぜひ行いたい」が 33.6%、「特に考えていない」が 13.9%となっています。

前回調査と比較すると、「今後ぜひ行いたい」が 2.6 ポイント高くなっています。(図 2-5②)

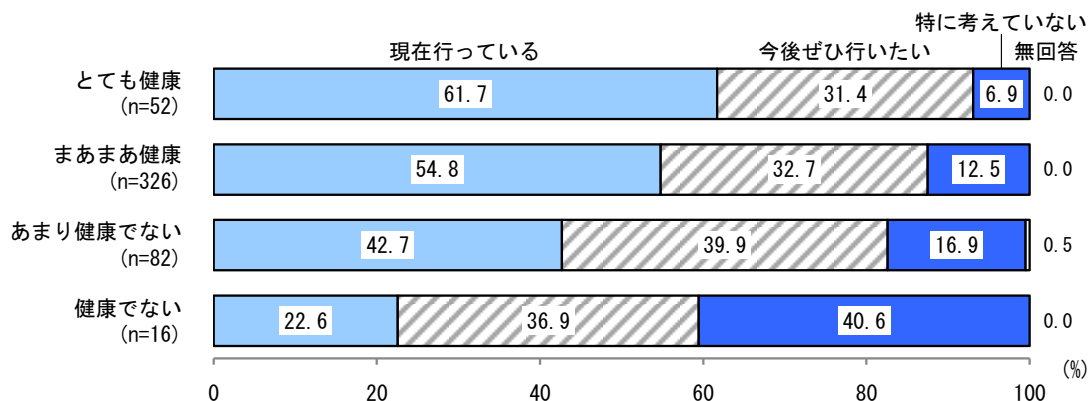
年齢別でみると、「現在行っている」割合は、40～44 歳で 58.1%、45～49 歳で 45.8%、50～54 歳で 36.9%と年代が上がるほど低くなっていますが、55 歳以降になると 6 割台に上昇しています。(図 2-5②-1)

【図 2-5②-1 年齢別 意識的な運動】



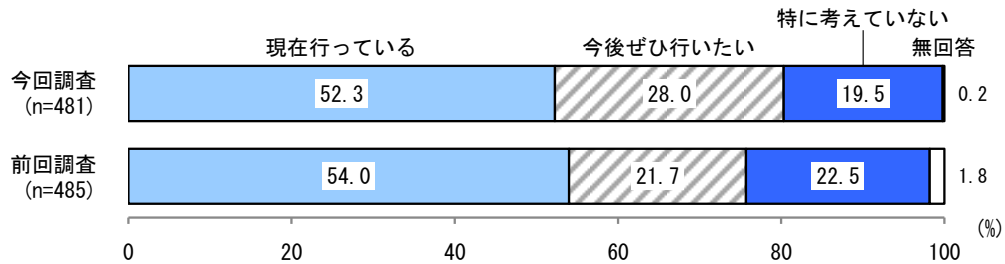
主観的健康観別でみると、「現在行っている」割合は、健康状態がよい人ほど高くなっています。(図 2-5②-2)

【図 2-5②-2 主観的健康観別 意識的な運動】



③ 読み書きや計算などふだんから頭をよく使うようにする

【図 2-5③ 脳トレーニング】

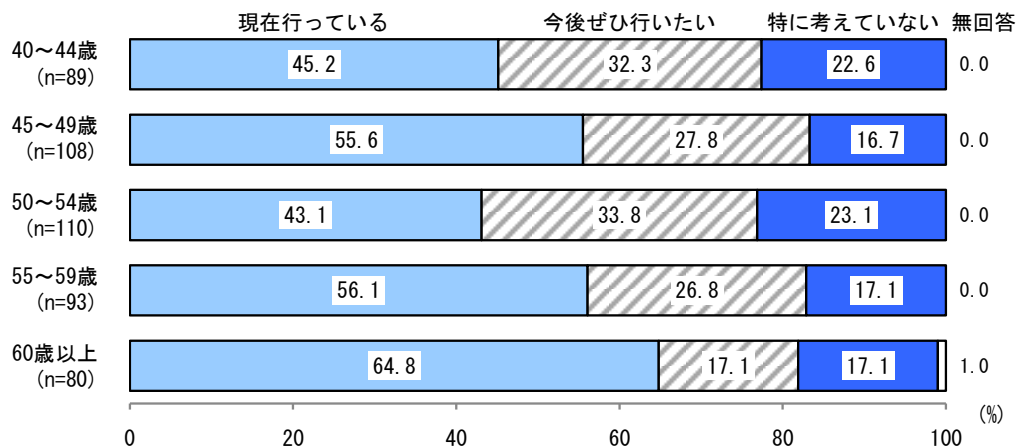


読み書きや計算などふだんから頭をよく使うようにしているかについては、「現在行っている」が 52.3% で最も多く、次いで「今後ぜひ行いたい」が 28.0%、「特に考えていない」が 19.5% となっています。

前回調査と比較すると、「今後ぜひ行いたい」が 6.3 ポイント高くなっています。(図 2-5③)

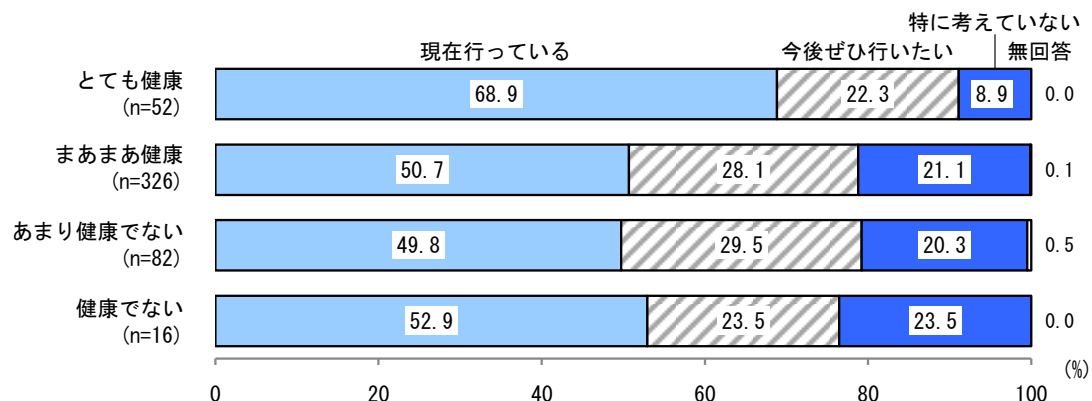
年齢別でみると、「現在行っている」割合では、45～49 歳と 55 歳以降で 5 割以上となっていますが、40～44 歳 (45.2%) と 50～54 歳 (43.1%) は比較的低い割合になっています。(図 2-5③-1)

【図 2-5③-1 年齢別 脳トレーニング】



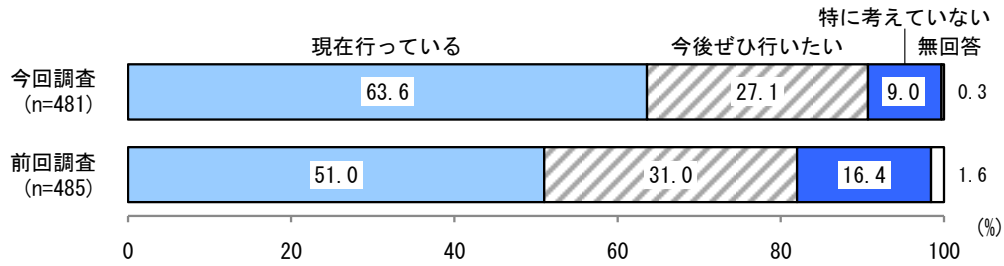
主観的健康観別でみると、健康でない人は母数が少ないので一概にはいえませんが、「現在行っている」割合は、とても健康な人が 68.9%、まあまあ健康・あまり健康でない・健康でない人が 5 割前後と、いずれも高い割合になっています。(図 2-5③-2)

【図 2-5③-2 主観的健康観別 脳トレーニング】



④ 栄養バランスを考えた食事をとる

【図 2-5④ 栄養バランスを考えた食事】

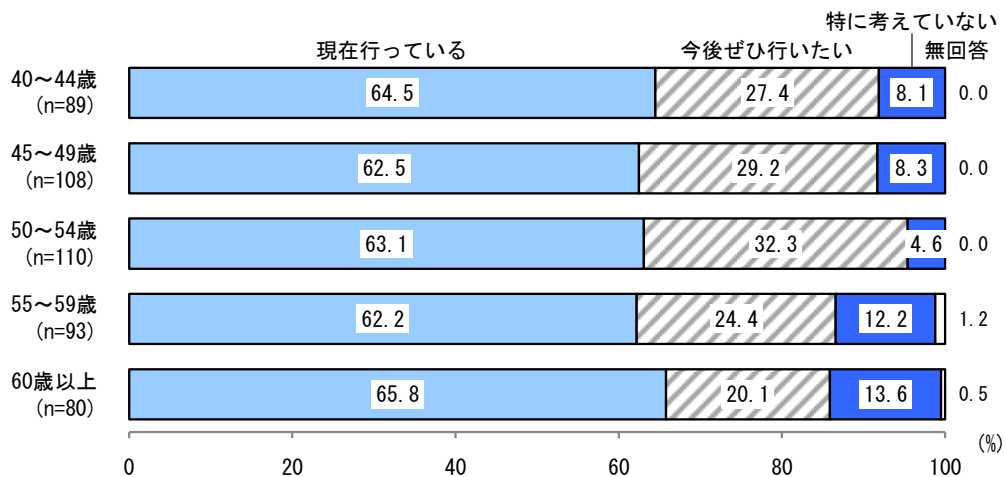


栄養バランスを考えた食事をとっているかについては、「現在行っている」が63.6%で最も多く、次いで「今後ぜひ行いたい」が27.1%、「特に考えていない」が9.0%となっています。

前回調査と比較すると、「現在行っている」が12.6ポイント高くなっています。(図 2-5④)

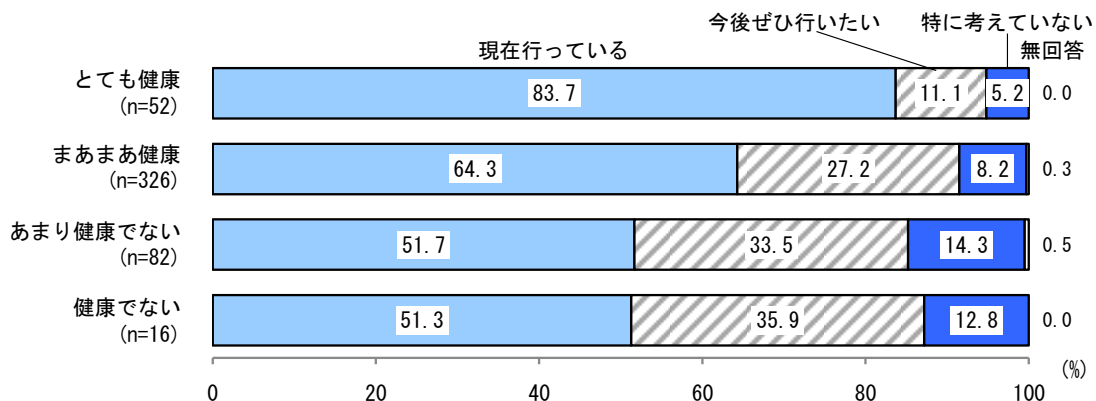
年齢別でみると、「現在行っている」割合は、いずれの年代も6割台で推移しています。(図 2-5④-1)

【図 2-5④-1 年齢別 栄養バランスを考えた食事】



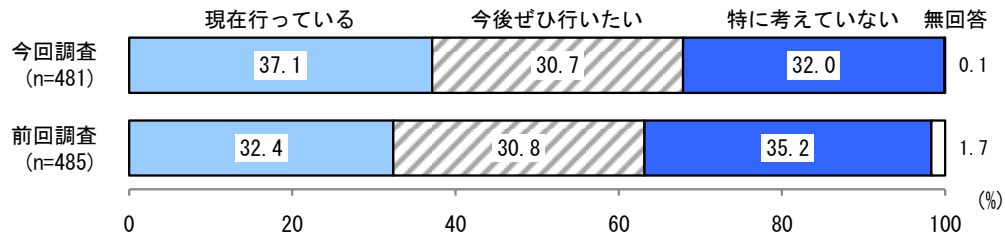
主観的健康観別でみると、健康でない人の母数が少ないので一概にはいえませんが、「現在行っている」割合は、健康状態にかかわらず5割以上となっています。しかし、健康状態がよくない人ほど割合が低くなる傾向がみられます。(図 2-5④-2)

【図 2-5④-2 主観的健康観別 栄養バランスを考えた食事】



⑤ 健康に関する情報を集める

【図 2-5⑤ 健康に関する情報収集】

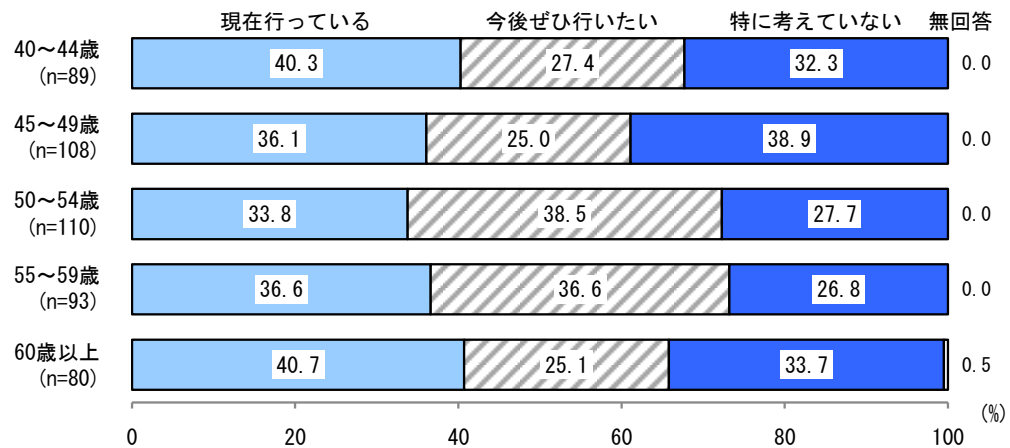


健康に関する情報を集めているかについては、「現在行っている」が 37.1%、「今後ぜひ行いたい」が 30.7%、「特に考えていない」が 32.0%となっています。

前回調査と比較すると、「現在行っている」が 4.7 ポイント高くなっています。(図 2-5⑤)

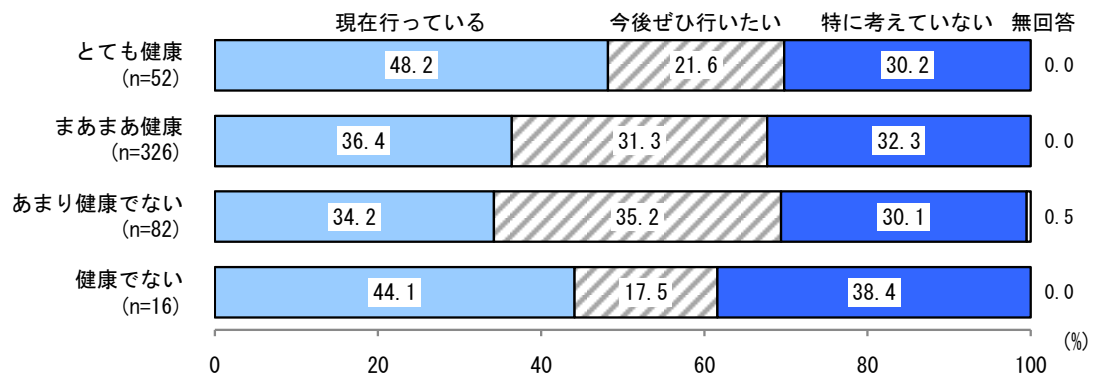
年齢別でみると、「現在行っている」割合は、54 歳にかけて低下傾向にあります。55 歳以降になると上昇する傾向がみられます。また、「今後ぜひ行いたい」は 50 歳代が 3 割台と比較的高い割合になっています。(図 2-5⑤-1)

【図 2-5⑤-1 年齢別 健康に関する情報収集】



主観的健康観別でみると、健康でない人の母数が少ないので一概にはいえませんが、とても健康・まあまあ健康・健康でない人は「現在行っている」が最も多くなっています。あまり健康でない人は「今後ぜひ行いたい」が 35.2%で最も多く、次いで「現在行っている」が 34.2%となっています。(図 2-5⑤-2)

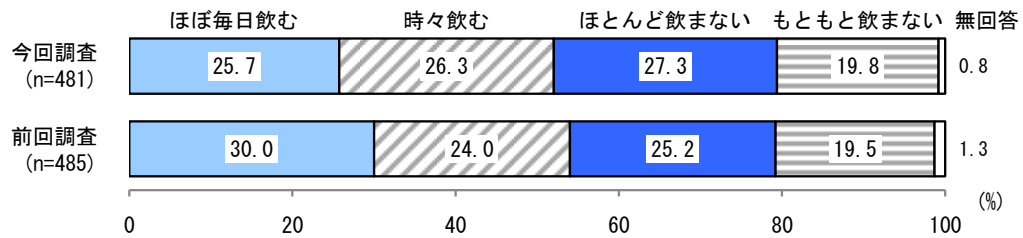
【図 2-5⑤-2 主観的健康観別 健康に関する情報収集】



(6) 飲酒習慣

問2 Q6 あなたはお酒を飲みますか。＜○は1つ＞

【図 2-6 飲酒習慣】

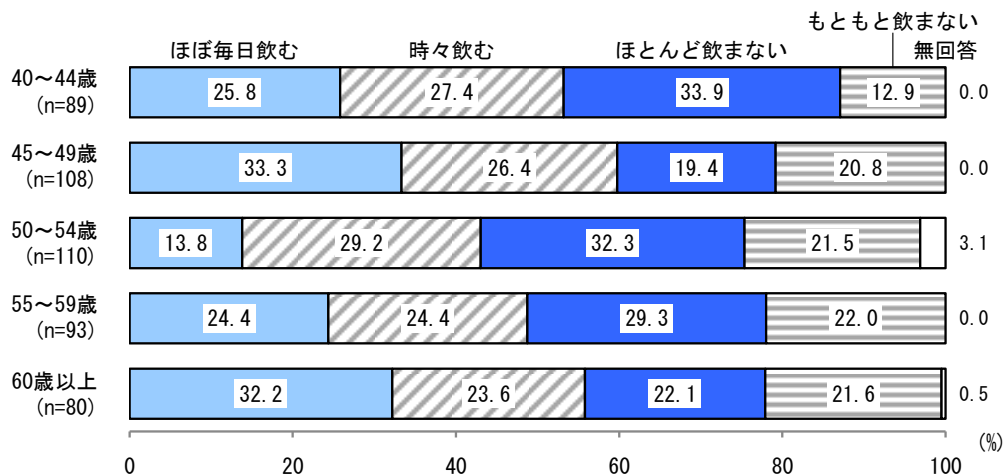


飲酒習慣については、「ほとんど飲まない」が 27.3%で最も多く、次いで「時々飲む」が 26.3%、「ほぼ毎日飲む」が 25.7%となっています。

前回調査と比較すると、「ほぼ毎日飲む」が 4.3 ポイント低くなっています。(図 2-6)

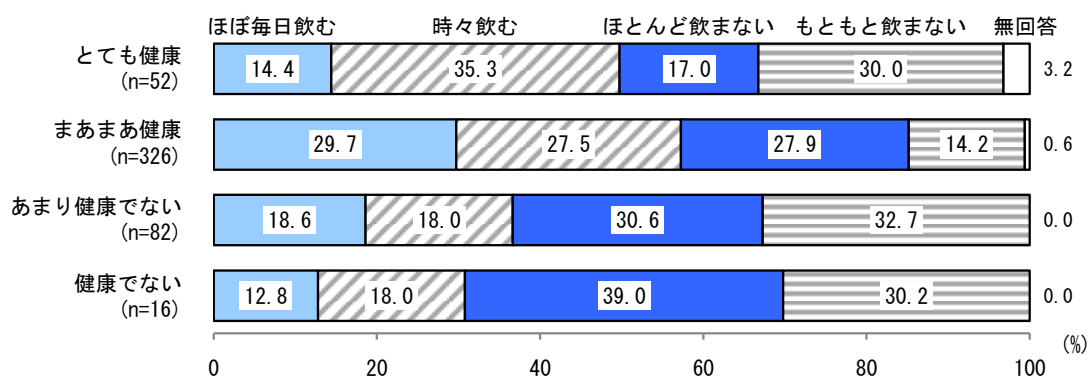
年齢別でみると、「ほぼ毎日飲む」割合は、45～49 歳が 33.3%で最も高く、次いで 60 歳以上が 32.2%となっており、50～54 歳は 13.8%と他の年代と比べて低い割合になっています。(図 2-6-1)

【図 2-6-1 年齢別 飲酒習慣】



主観的健康観別でみると、とても健康な人は「時々飲む」が 35.3%で最も多く、まあまあ健康な人は「ほぼ毎日飲む」が 29.7%で最も多くなっています。また、「ほぼ毎日飲む」と「時々飲む」を合わせた『飲酒習慣あり』の割合は、健康状態のよい人より、よくない人のほうが低くなっています。(図 2-6-2)

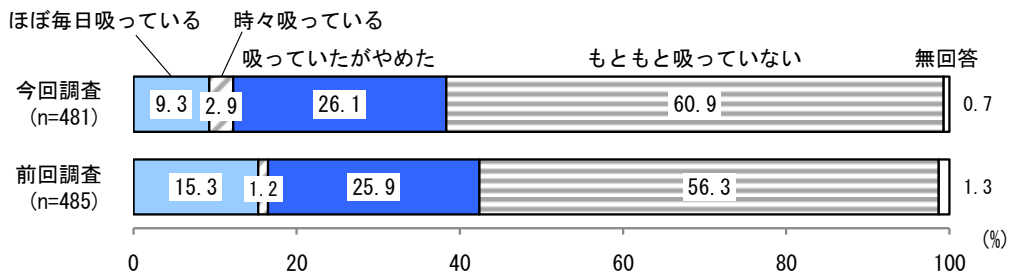
【図 2-6-2 主観的健康観別 飲酒習慣】



(7) 喫煙習慣

問2 Q7 あなたはタバコを吸っていますか。〈○は1つ〉

【図 2-7 喫煙習慣】

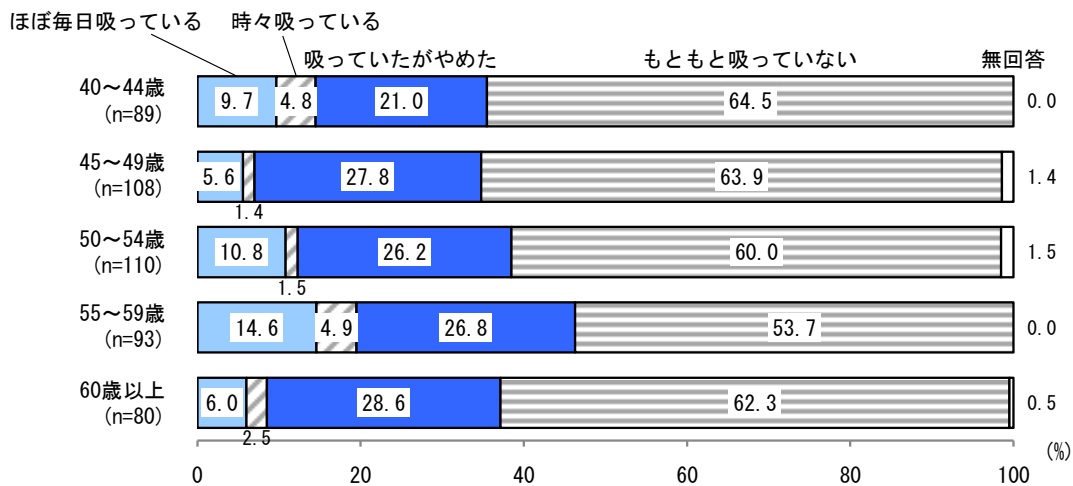


喫煙習慣については、「もともと吸っていない」が60.9%で最も多く、次いで「吸っていたがやめた」が26.1%、「ほぼ毎日吸っている」が9.3%となっています。

前回調査と比較すると、「ほぼ毎日吸っている」が6.0ポイント低くなっています。(図 2-7)

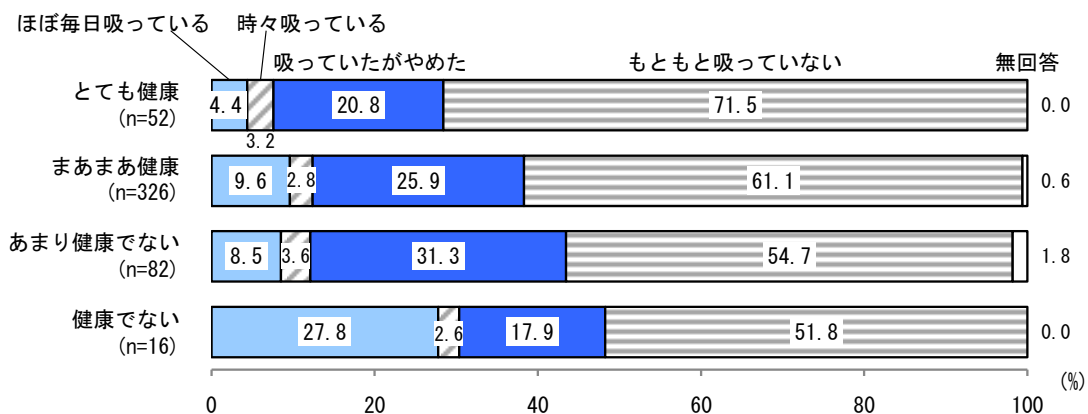
年齢別でみると、「ほぼ毎日吸っている」割合は、55～59歳が14.6%で最も高く、次いで50～54歳が10.8%、40～44歳が9.7%となっています。(図 2-7-1)

【図 2-7-1 年齢別 喫煙習慣】



主観的健康観別でみると、「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合わせた『喫煙習慣あり』の割合は、とても健康な人が7.6%となっており、他の健康状態の人と比べて低くなっています。また、健康な人ほど「もともと吸っていない」割合が高くなっています。(図 2-7-2)

【図 2-7-2 主観的健康観別 喫煙習慣】



(8) うつリスク

① 設問と評価

基本チェックリストでは、今回の調査票に含まれる以下の設問 5 問中 2 問以上に該当した場合に、うつの「リスクあり」に該当します。

表 うつに関する設問

問番号	設問	該当する選択肢
問 2 Q 8 (1)	毎日の生活に充実感がない	「はい」
問 2 Q 8 (2)	これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	「はい」
問 2 Q 8 (3)	以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる	「はい」
問 2 Q 8 (4)	自分が役に立つ人間だと思えない	「はい」
問 2 Q 8 (5)	わけもなく疲れたような感じがする	「はい」

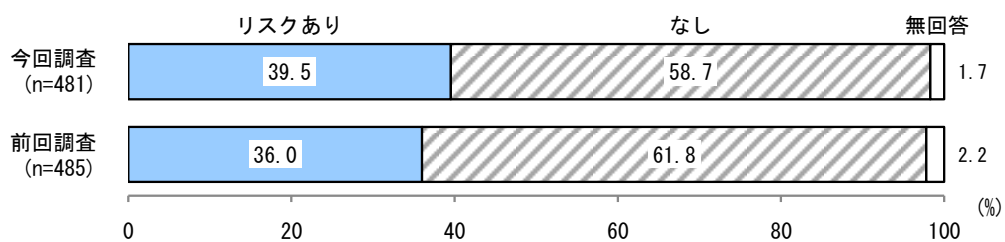
② 評価結果

評価結果をみると、今回調査では、うつの「リスクあり」が39.5%となっています。

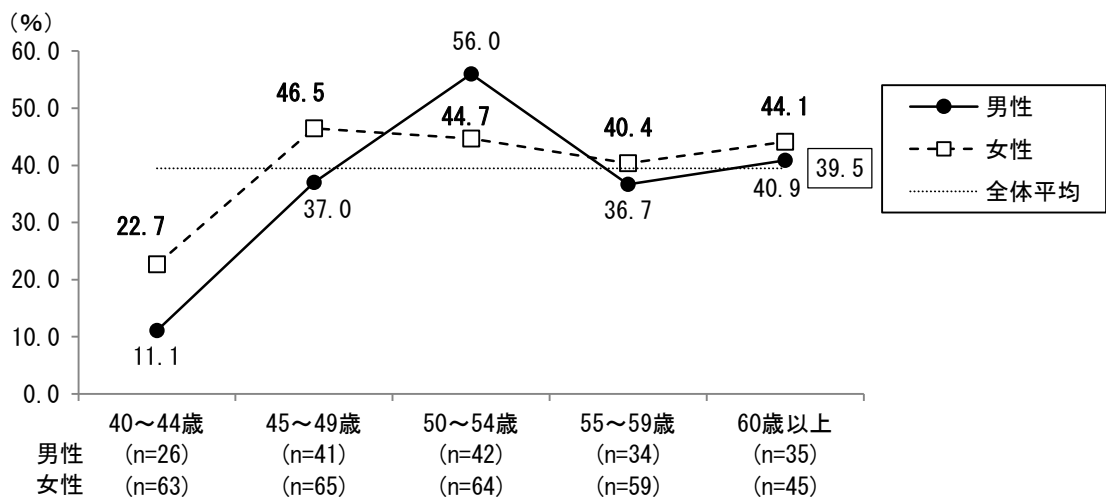
前回調査と比較すると、「リスクあり」が3.5ポイント高くなっています。(図2-8)

性・年齢別でみると、男性は54歳以下まで大幅な上昇傾向がみられ、50～54歳では56.0%と高い割合になっていますが、55～59歳になると36.7%に低下し、60歳以上は40.9%となっています。一方、女性は45～49歳が46.5%で最も高く、それ以降の年代でも4割台で推移しています。(図2-8-1)

【図 2-8 うつリスク】



【図 2-8-1 性・年齢別 うつリスク】

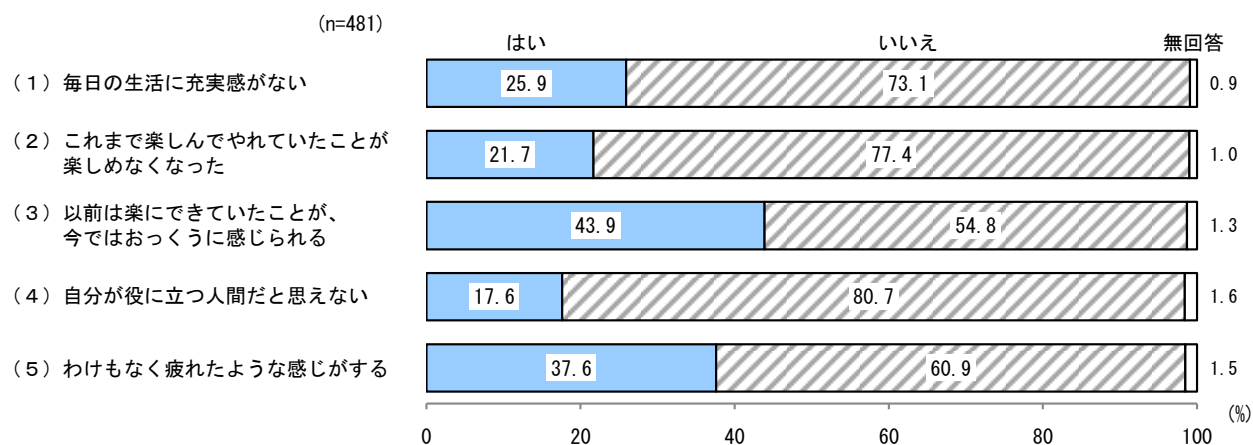


③ うつリスク判定に関する項目の回答状況

問2 Q8 あなたのここ2週間の心身の状況についておうかがいします。

<(1)から(5)までそれぞれ○は1つつつ>

【図 2-8-2 うつリスク判定に関する項目】



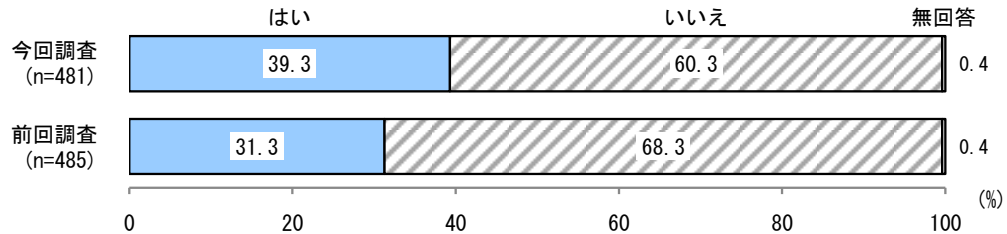
ここ2週間の心身の状況について、「以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる」が43.9%で最も高く、次いで「わけもなく疲れたような感じがする」が37.6%、「毎日の生活に充実感がない」が25.9%となっています。(図 2-8-2)

3 介護・介助に対する意識等について

(1) 認知症の症状や対応等について学んだ経験

問3 Q1 あなたは認知症の症状や認知症の方への対応等について学んだことはありますか。
<○は1つ>

【図 3-1 認知症の症状や対応等について学んだ経験】



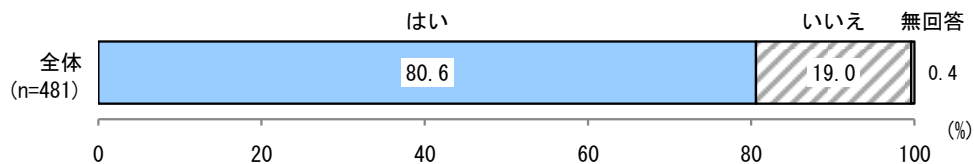
認知症の症状や認知症の方への対応等について学んだことがあるかについては、「はい」が 39.3%、「いいえ」が 60.3%となっています。

前回調査と比較すると、「はい」が 8.0 ポイント高くなっています。(図 3-1)

(2) 若年性認知症の認知有無

問3 Q2 あなたは 65 歳以下で発症する認知症である「若年性認知症」について知っていますか。
<○は1つ>

【図 3-2 若年性認知症の認知有無】

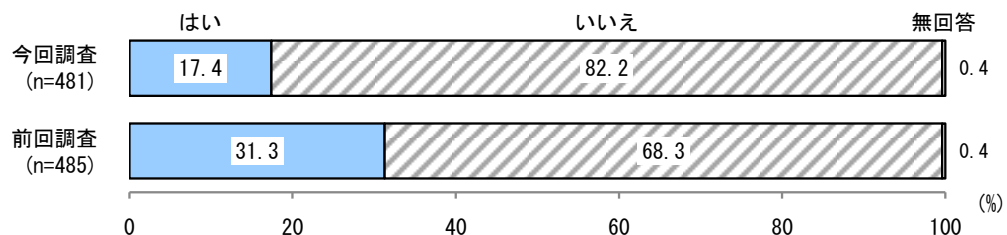


若年性認知症を知っているかについては、「はい」が 80.6%、「いいえ」が 19.0%となっています。(図 3-2)

(3) 若年性認知症の症状や対応等について学んだ経験

問3 Q3 あなたは若年性認知症の症状や若年性認知症の方への対応等について学んだことはありますか。<○は1つ>

【図 3-3 若年性認知症の症状や対応等について学んだ経験】



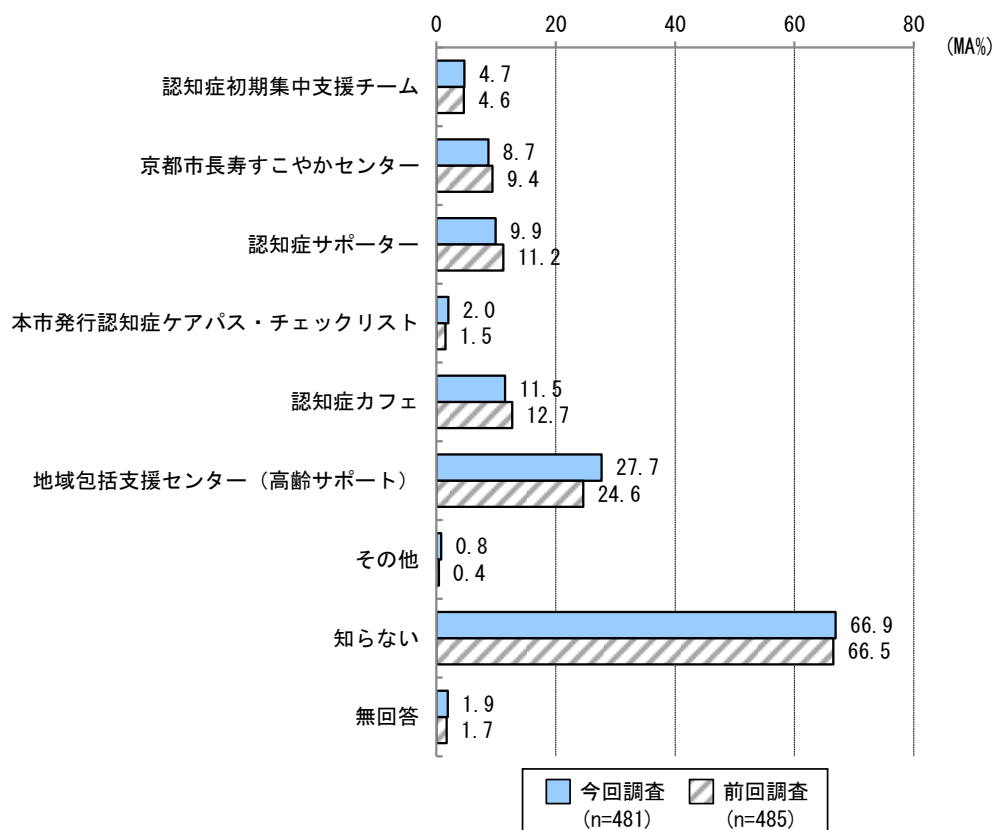
若年性認知症の症状や若年性認知症の方への対応等について学んだことがあるかについては、「はい」が 17.4%、「いいえ」が 82.2%となっています。

前回調査と比較すると、「はい」が 13.9 ポイント低くなっています。(図 3-3)

(4) 若年性認知症の相談窓口で知っている支援機関や取組

問3 Q4 あなたは若年性認知症の方の相談窓口や、支援機関、取組について知っていますか。
 <あてはまるものすべてに○>

【図3-4 若年性認知症の相談窓口で知っている支援機関や取組】



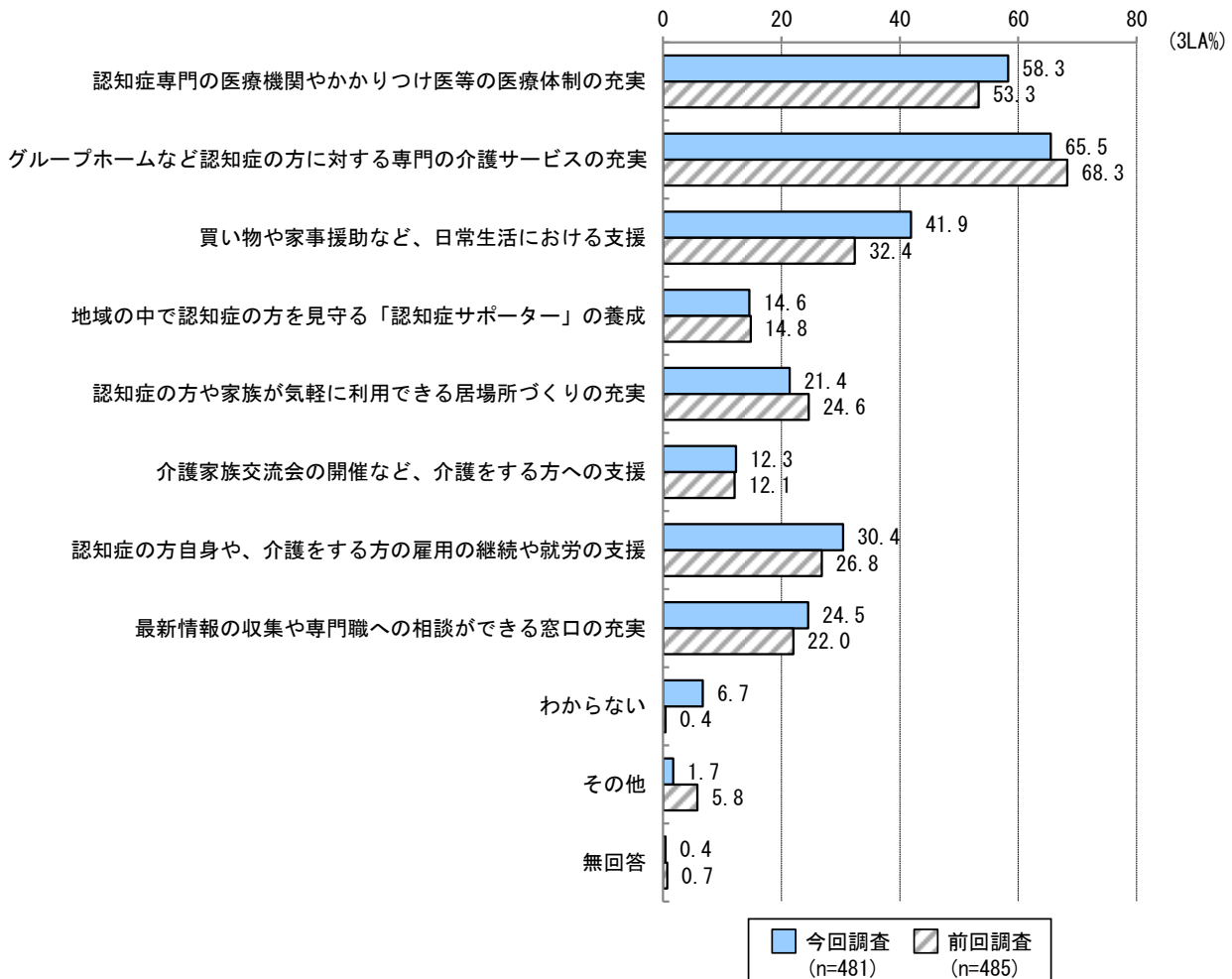
若年性認知症の相談窓口で知っている支援機関や取組については、「知らない」が66.9%で最も多くなっています。知っている人では、「地域包括支援センター（高齢サポート）」が27.7%で最も多く、次いで「認知症カフェ」が11.5%、「認知症サポーター」が9.9%となっています。

前回調査と比較すると、「地域包括支援センター（高齢サポート）」が3.1ポイント高くなっています。（図3-4）

(5) 家族が認知症になった場合にあればよいと思う支援

問3 Q5 あなたやあなたの家族が認知症になった場合、どのような支援があればよいと思いますか。〈〇は3つまで〉

【図 3-5 家族が認知症になった場合にあればよいと思う支援】



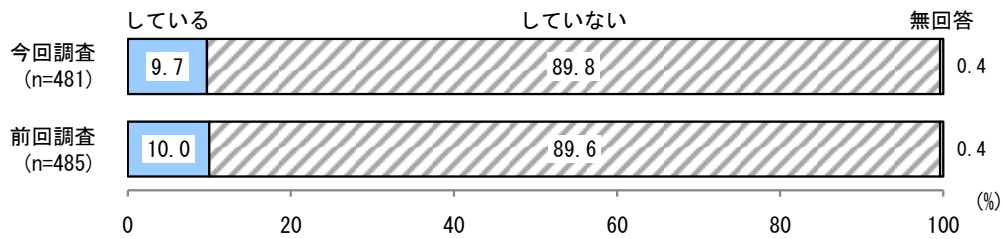
家族が認知症になった場合にあればよいと思う支援については、「グループホームなど認知症の方に対する専門の介護サービスの充実」が 65.5% で最も多く、次いで「認知症専門の医療機関やかかりつけ医等の医療体制の充実」が 58.3%、「買い物や家事援助など、日常生活における支援」が 41.9% となっています。

前回調査と比較すると、「買い物や家事援助など、日常生活における支援」が 9.5 ポイント、「認知症専門の医療機関やかかりつけ医等の医療体制の充実」が 5.0 ポイント、「認知症の方自身や、介護をする方の雇用の継続や就労の支援」が 3.6 ポイント、「最新情報の収集や専門職への相談ができる窓口の充実」が 2.5 ポイント高くなっています。(図 3-5)

(6) 家族への介護有無

問3Q6 あなたは、現在、家族の介護をしていますか。〈○は1つ〉

【図3-6 家族への介護有無】

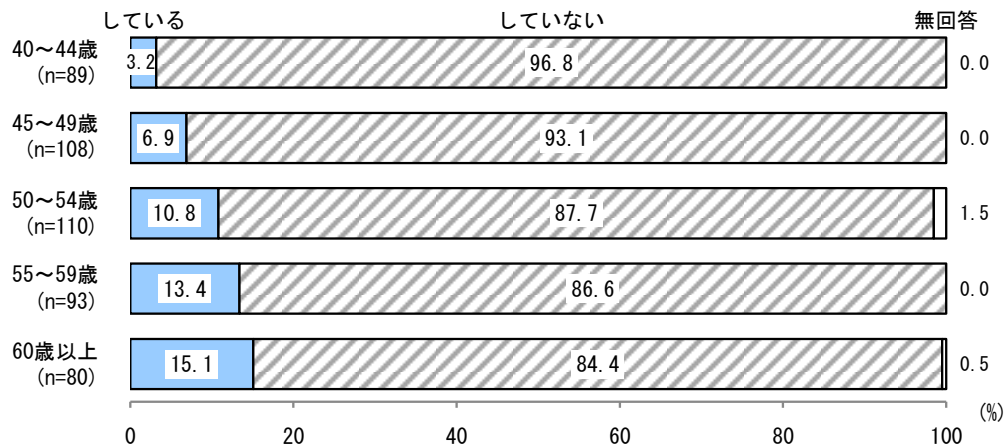


現在、家族の介護をしているかについては、「している」が9.7%、「していない」が89.8%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。(図3-6)

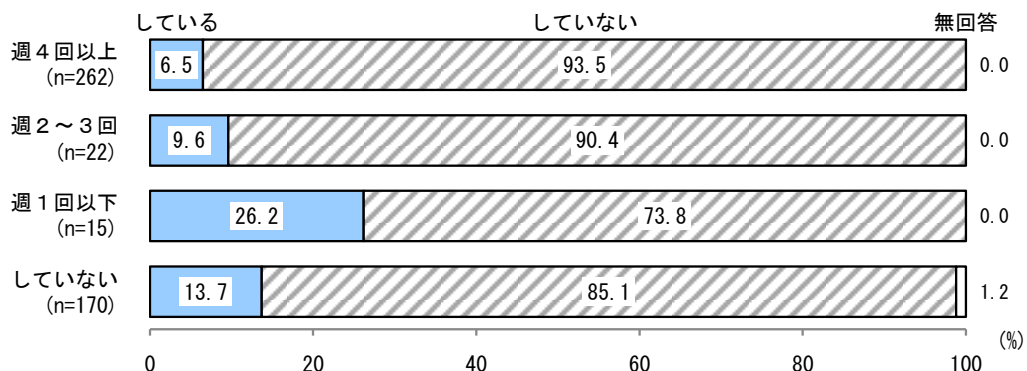
年齢別でみると、「(介護を) している」割合は、年代が上がるほど高くなっています。(図3-6-1)

【図3-6-1 年齢別 家族への介護有無】



収入のある仕事の頻度別でみると、「(介護を) している」割合は、仕事をしている人の仕事の頻度が多いほど割合は低くなる傾向がみられますが、仕事をしていない人は、仕事の頻度が週1回以下の人との26.2%を下回る13.7%となっています。(図3-6-2)

【図3-6-2 収入のある仕事の頻度別 家族への介護有無】



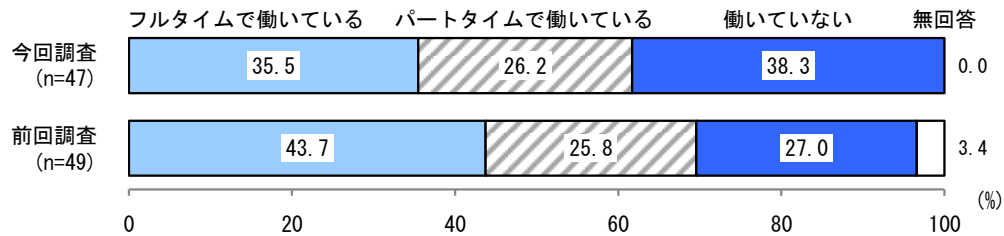
※『週1回以下』は「週1回」「月1~3回」「年に数回」の合計、『していない』は「していないが、今後したい」「していないし、今後もする気はない」の合計で、再集計しています。

(7) 介護者の勤務形態

問3 Q7 Q6で「している」と回答した方にお聞きします。

現在の勤務形態について、御回答ください。＜○は1つ＞

【図 3-7 介護者の勤務形態】



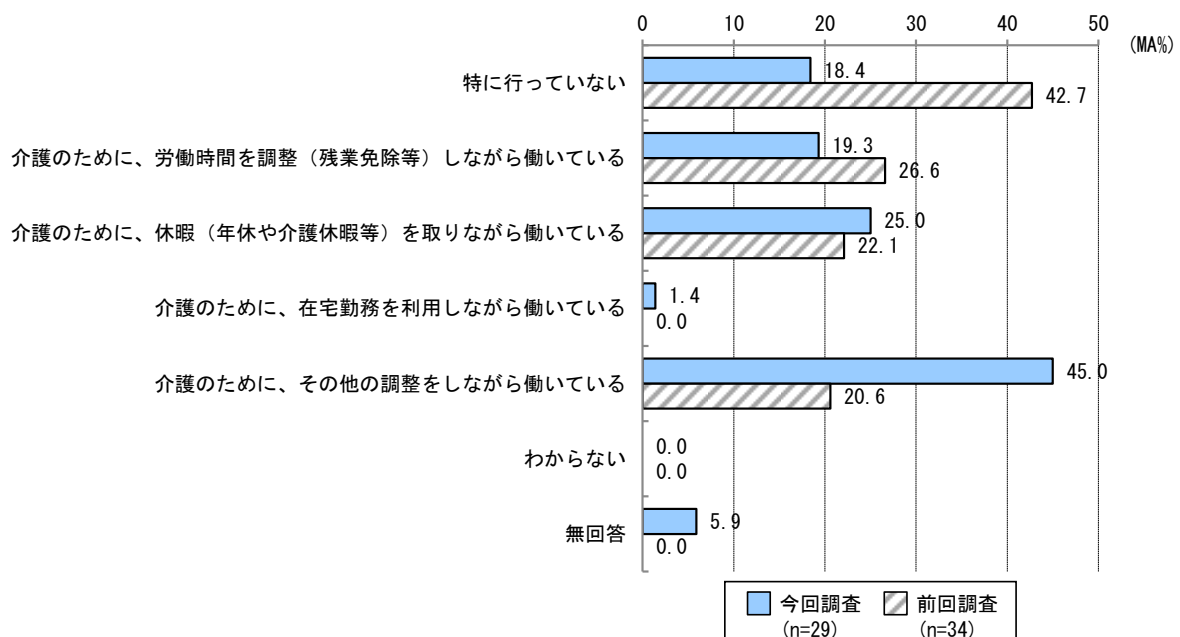
家族の介護をしている人に勤務形態をたずねたところ、「働いていない」が38.3%で最も多く、次いで「フルタイムで働いている」が35.5%、「パートタイムで働いている」が26.2%となっています。また、「フルタイムで働いている」と「パートタイムで働いている」を合わせた『働いている』割合は61.7%となっています。

前回調査と比較すると、「フルタイムで働いている」が8.2ポイント低くなっており、「働いていない」が11.3ポイント高くなっています。(図 3-7)

(8) 介護をするに当たっての働き方の調整等

問3 Q7-1 Q7で「フルタイムで働いている」、「パートタイムで働いている」と回答した方にお聞きします。介護をするに当たって、何か働き方についての調整等をしていますか。＜あてはまるものすべてに○＞

【図 3-8 働き方の調整等】



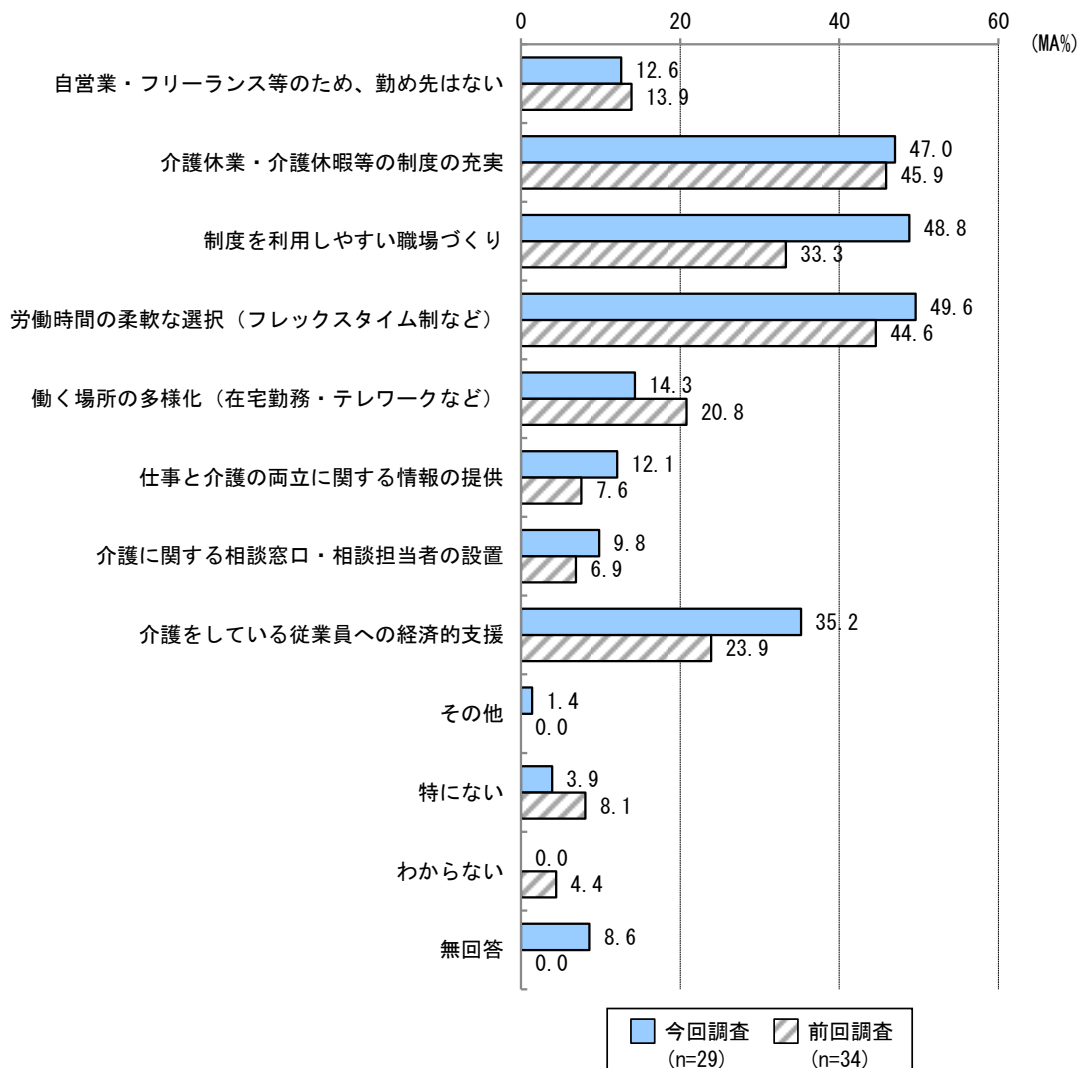
介護をしながら働いていると回答した人に、介護をするに当たって、働き方についての調整等を行っているかをたずねたところ、「介護のために、その他の調整をしながら働いている」が45.0%で最も多く、次いで「介護のために、休暇(年休や介護休暇等)を取りながら働いている」が25.0%、「介護のために、労働時間を調整(残業免除等)しながら働いている」が19.3%となっています。

前回調査と比較すると、「介護のために、その他の調整をしながら働いている」が 24.4 ポイント、「介護のために、休暇（年休や介護休暇等）を取りながら働いている」が 2.9 ポイント高くなっています。一方、「特に行っていない」が 24.3 ポイント、「介護のために、労働時間を調整（残業免除等）しながら働いている」が 7.3 ポイント低くなっています。（図 3-8）

（９）仕事と介護の両立に効果がある勤め先からの支援

問 3 Q 7-2 Q 7で「フルタイムで働いている」、「パートタイムで働いている」と回答した方にお聞きします。勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。＜あてはまるものすべてに○＞

【図 3-9 仕事と介護の両立に効果がある勤め先からの支援】



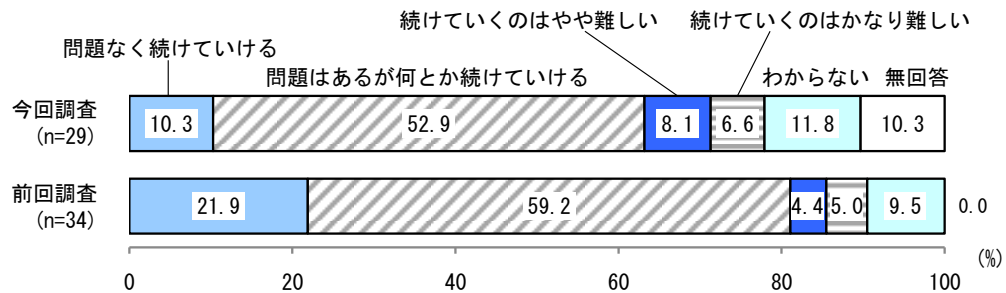
介護をしながら働いていると回答した人に、仕事と介護の両立に効果がある勤め先からの支援をたずねたところ、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が 49.6%で最も多く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が 48.8%、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が 47.0%となっています。

前回調査と比較すると、「制度を利用しやすい職場づくり」が 15.5 ポイント、「介護をしている従業員への経済的支援」が 11.3 ポイント高くなっています。一方、「働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）」は 6.5 ポイント低くなっています。（図 3-9）

(10) 今後も働きながら介護を続けていくこと

問3 Q7-3 Q7で「フルタイムで働いている」、「パートタイムで働いている」と回答した方にお聞きます。今後も働きながら介護を続けていけそうですか。〈○は1つ〉

【図 3-10 今後も働きながら介護を続けていくこと】



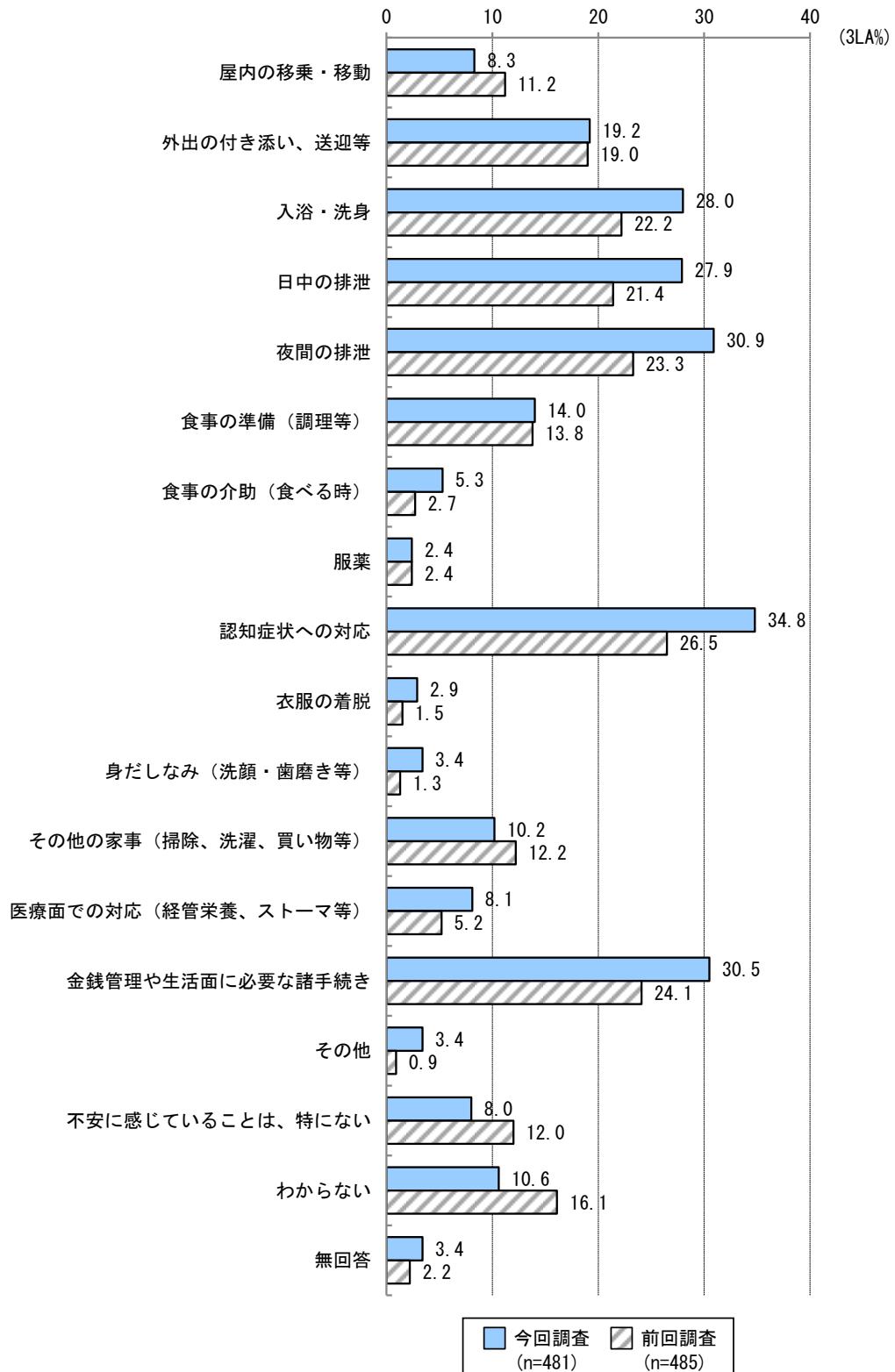
介護をしながら働いていると回答した人に、今後も働きながら介護を続けていけそうかたずねたところ、「問題はあるが何とか続けていける」が 52.9%で最も多く、次いで「わからない」が 11.8%、「問題なく続けていける」が 10.3%となっています。また、「問題なく続けていける」と「問題はあるが何とか続けていける」を合わせた『続けていける』割合は 63.2%となっています。

前回調査と比較すると、「問題なく続けていける」は 11.6 ポイント、「問題はあるが何とか続けていける」は 6.3 ポイント低くなっています。(図 3-10)

(11) 不安に感じる介護等

問3 Q8 あなたが現在の生活を継続していくに当たって、不安に感じる介護等について、御回答ください（現状で行っているか否かは問いません）。＜〇は3つまで＞

【図 3-11 不安に感じる介護等】

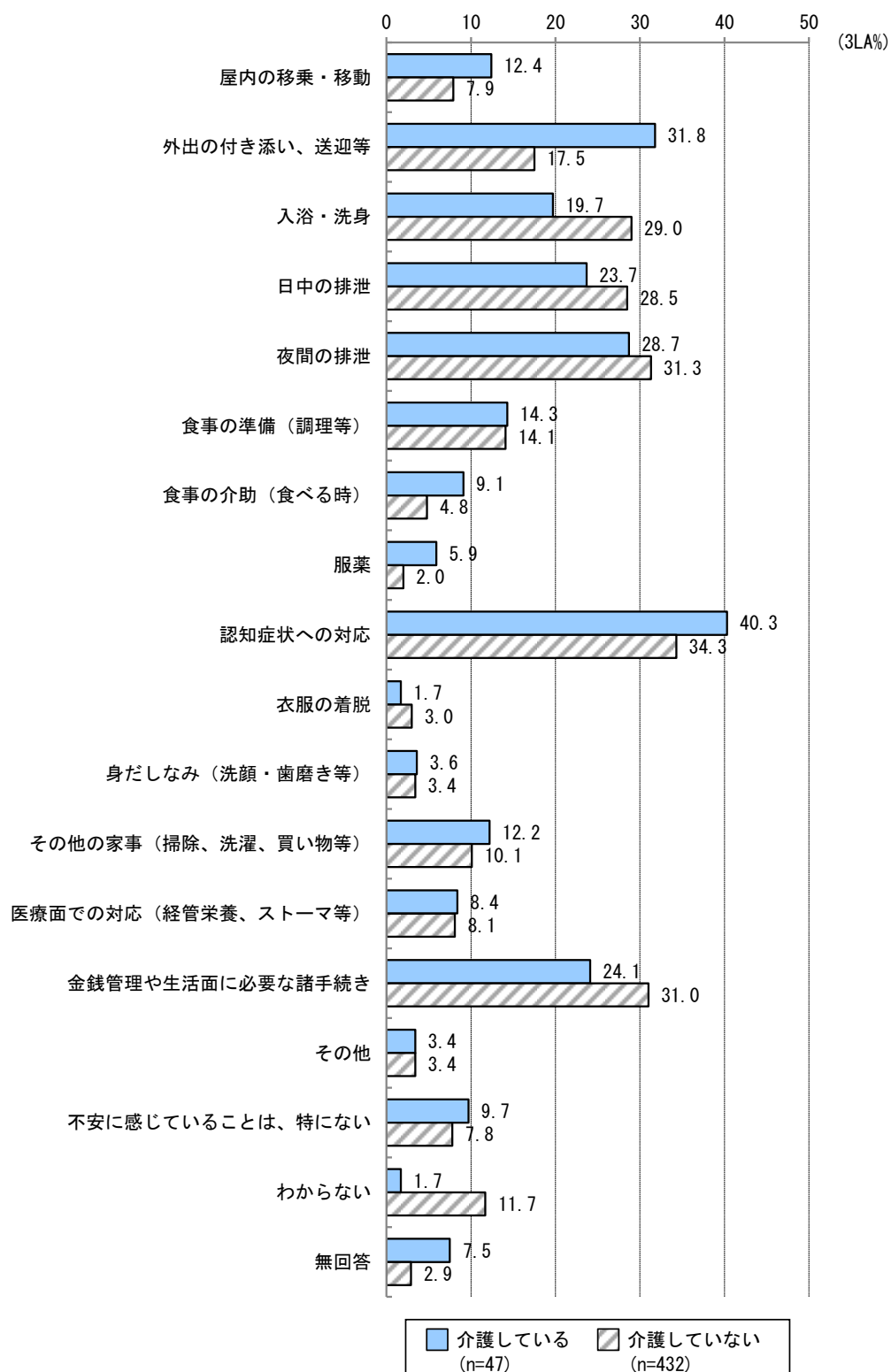


現在の生活を継続していくに当たって、不安に感じる介護等については、「認知症状への対応」が 34.8%で最も多く、次いで「夜間の排泄」が 30.9%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 30.5%となっています。

前回調査と比較すると、「認知症状への対応」が 8.3 ポイント、「夜間の排泄」が 7.6 ポイント、「日中の排泄」が 6.5 ポイント、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 6.4 ポイント、「入浴・洗身」が 5.8 ポイント高くなっています。(図 3-11)

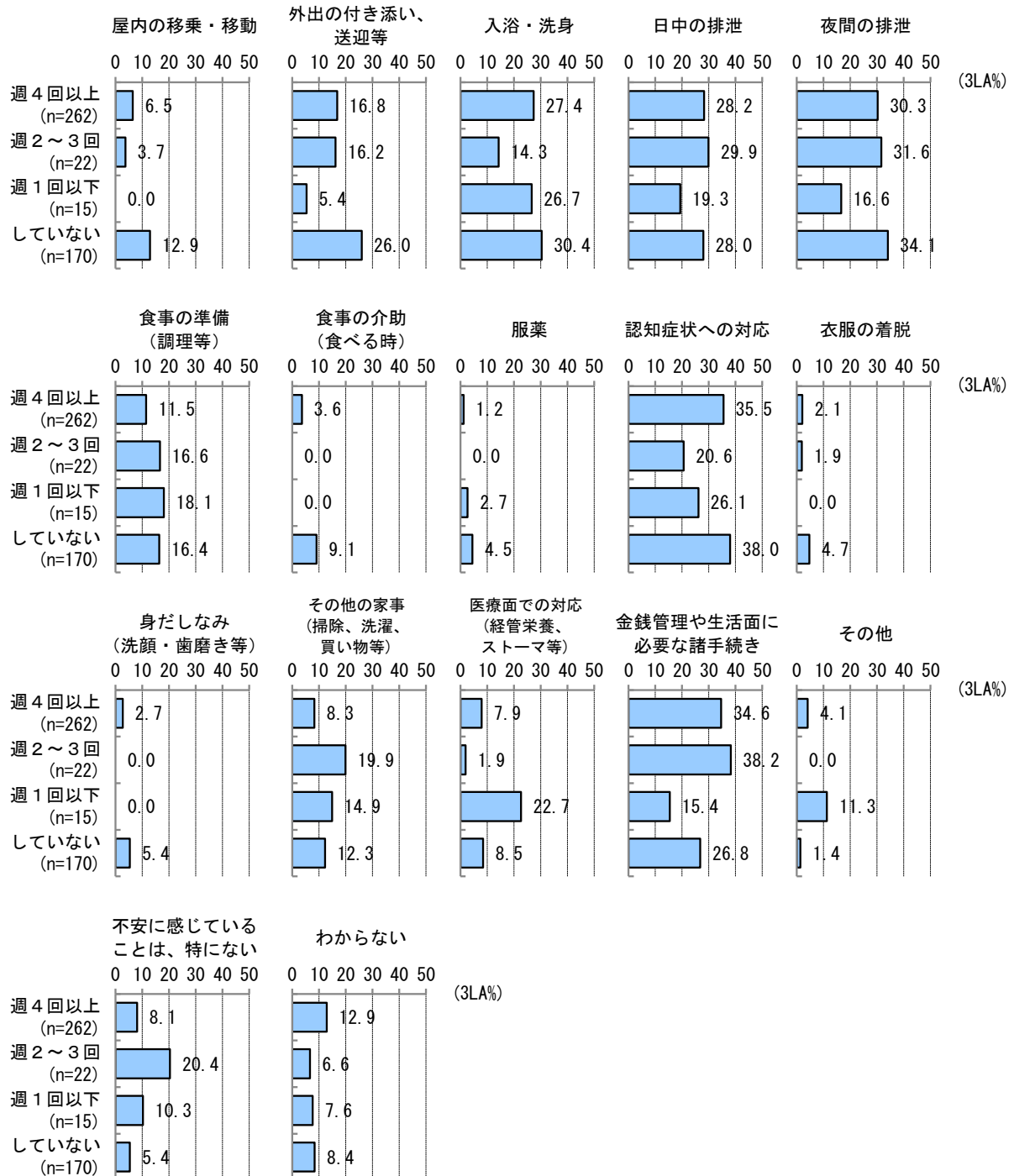
家族への介護有無別でみると、介護している人では、「認知症状への対応」が 40.3%で最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が 31.8%、「夜間の排泄」が 28.7%となっています。また、「外出の付き添い、送迎等」は、介護していない人（17.5%）より 14.3 ポイント高い割合になっています。(図 3-11-1)

【図 3-11-1 家族への介護有無別 不安に感じる介護等】



収入のある仕事の頻度別でみると、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」の割合は、仕事の頻度が週1回以下の人には1割台ですが、週2回以上の人で3割台と高くなっています。また、仕事をしている人の仕事の頻度が多いほど「屋内の移乗・移動」や「外出の付き添い、送迎等」の割合が高くなる傾向がみられます。(図 3-11-2)

【図 3-11-2 収入のある仕事の頻度別 不安を感じる介護等】

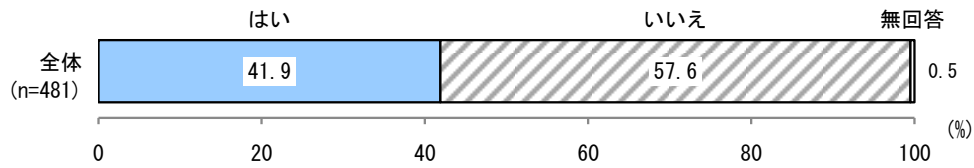


※『週1回以下』は「週1回」「月1～3回」「年に数回」の合計、『していない』は「していないが、今後したい」「していないし、今後する気はない」の合計で、再集計しています。

(12) 介護休業制度の認知有無

問3 Q9 あなたは、介護休業制度を知っていますか。＜○は1つ＞

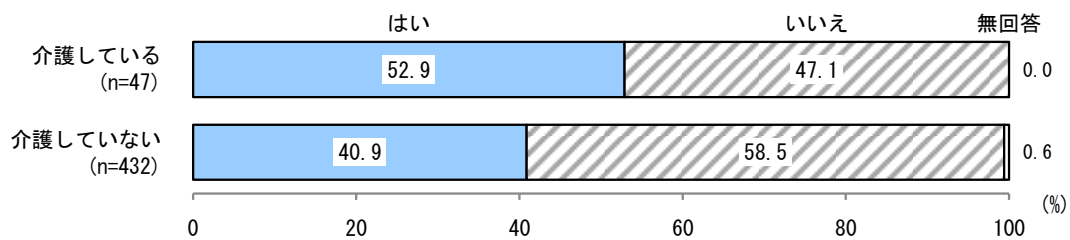
【図 3-12 介護休業制度の認知有無】



介護休業制度を知っているかについては、「はい」が 41.9%、「いいえ」が 57.6%となっています。(図 3-12)

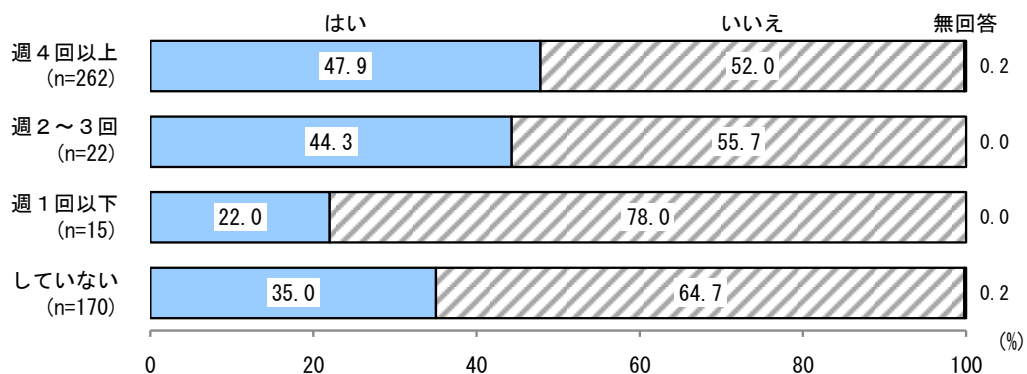
家族への介護有無別でみると、「はい (知っている)」は、介護している人が 52.9%に対し、介護していない人が 40.9%で、介護している人のほうが 12.0 ポイント高い割合になっています。(図 3-12-1)

【図 3-12-1 家族への介護有無別 介護休業制度の認知有無】



収入のある仕事の頻度別でみると、「はい (知っている)」は、週 4 回以上働いている人で 47.9%、週 2～3 回働いている人で 44.3%となっています。(図 3-12-2)

【図 3-12-2 収入のある仕事の頻度別 介護休業制度の認知有無】

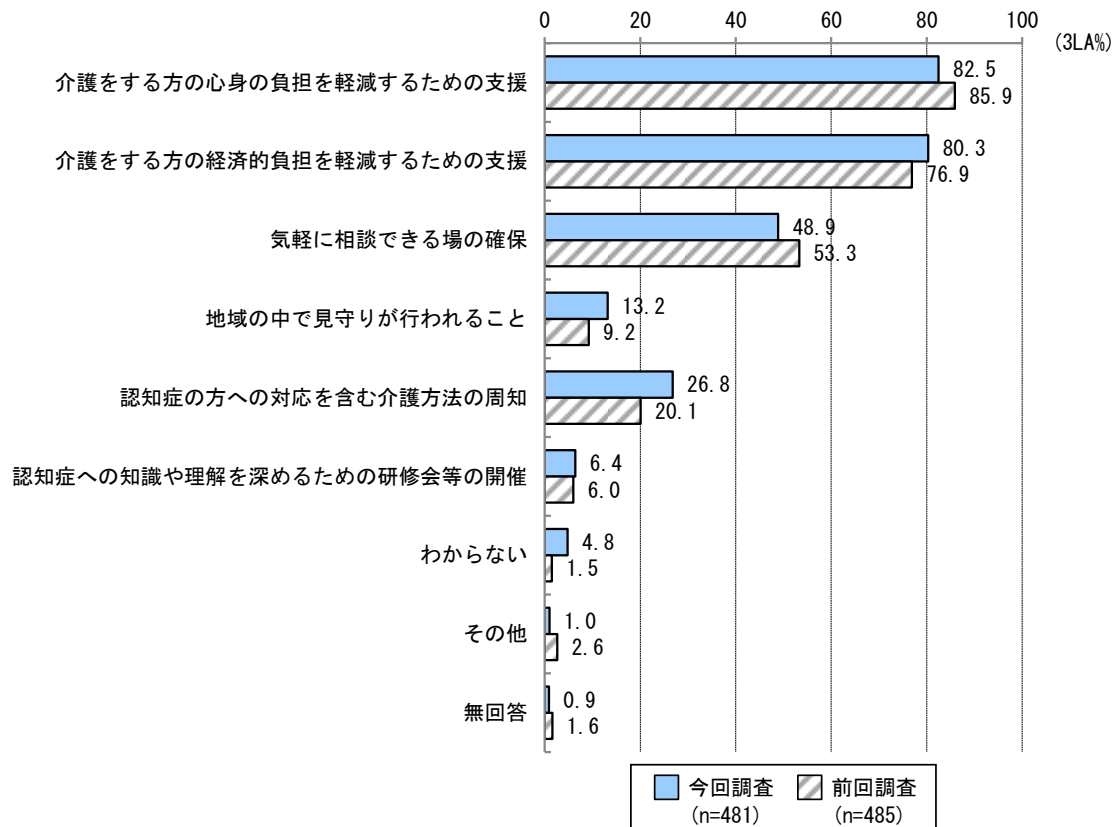


※『週 1 回以下』は「週 1 回」「月 1～3 回」「年に数回」の合計、『していない』は「していないが、今後したい」「していないし、今後する気はない」の合計で、再集計しています。

(13) 家族等の介護をするうえで、あればよいと思う支援

問3 Q10 あなたは、家族等の介護をするうえで、どのような支援があれば良いと思いますか。
<〇は3つまで>

【図 3-13 家族等の介護をするうえで、あればよいと思う支援】

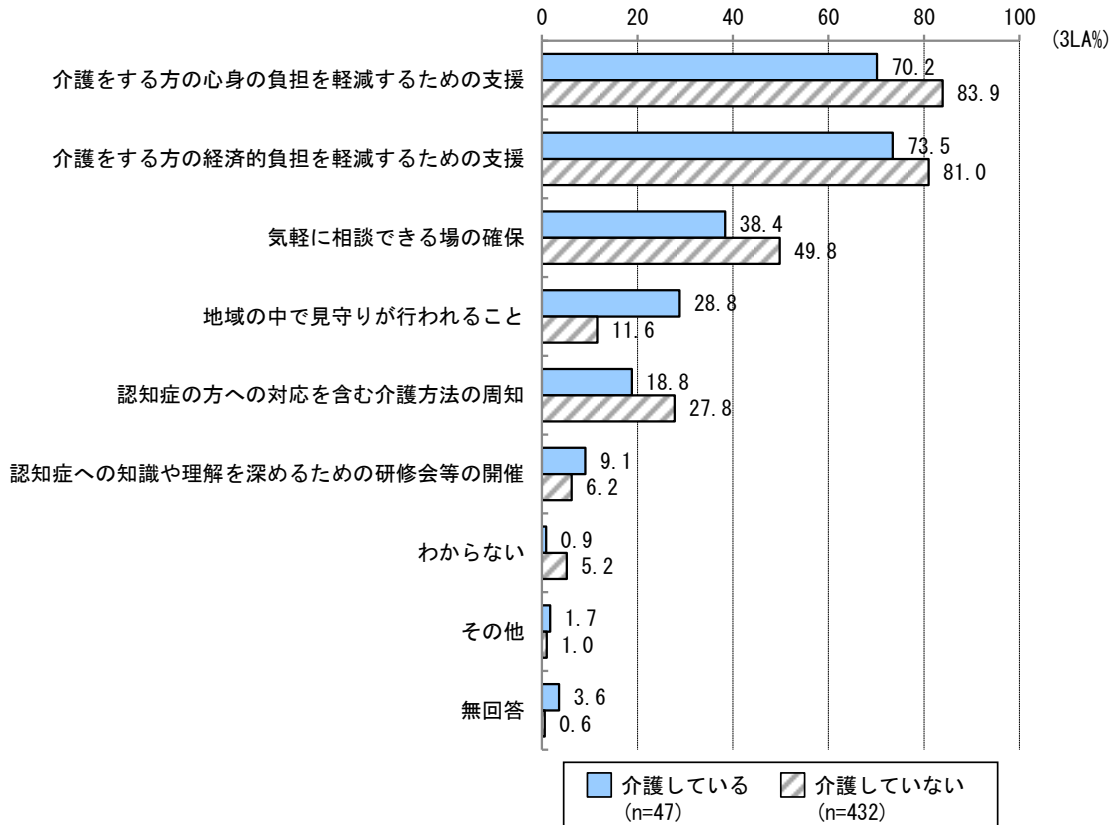


家族等の介護をするうえで、あればよいと思う支援については、「介護をする方の心身の負担を軽減するための支援」が82.5%で最も多く、次いで「介護をする方の経済的負担を軽減するための支援」が80.3%、「気軽に相談できる場の確保」が48.9%となっています。

前回調査と比較すると、「認知症の方への対応を含む介護方法の周知」が6.7ポイント、「地域の中で見守りが行われること」が4.0ポイント、「介護をする方の経済的負担を軽減するための支援」が3.4ポイント高くなっています。(図 3-13)

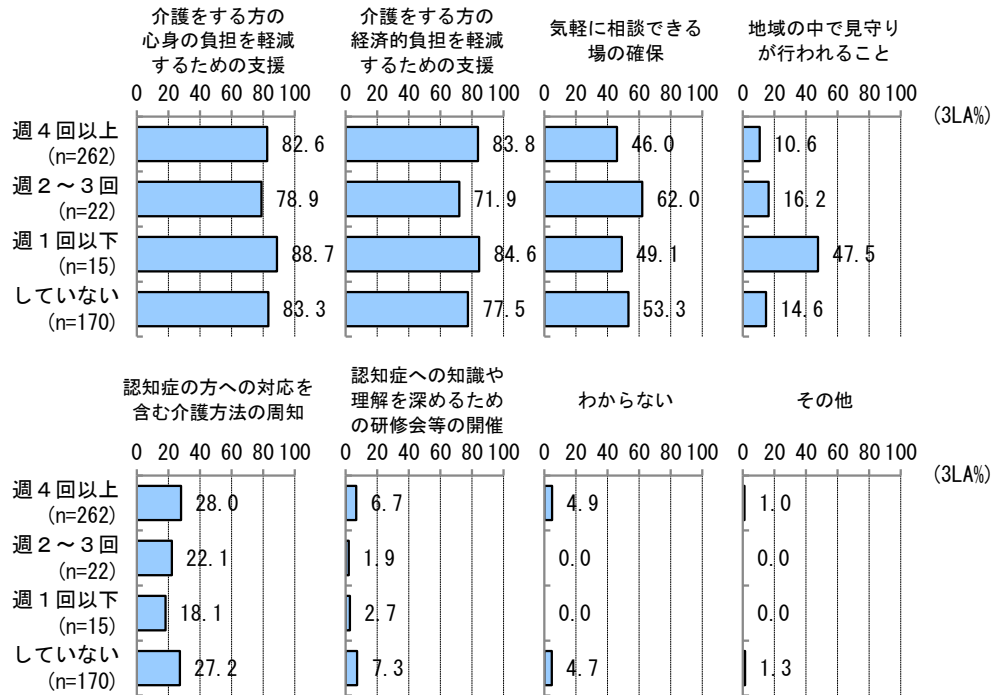
家族への介護有無別でみると、介護している人では「介護をする方の経済的負担を軽減するための支援」が73.5%で最も多く、次いで「介護をする方の心身の負担を軽減するための支援」が70.2%、「気軽に相談できる場の確保」が38.4%となっています。また、「地域の中で見守りが行われること」が28.8%となっており、介護していない人（11.6%）と比べて17.2ポイント高い割合となっています。（図 3-13-1）

【図 3-13-1 家族への介護有無別 家族等の介護をするうえで、あればよいと思う支援】



収入のある仕事の頻度別でみると、週4回以上働いている人は「介護をする方の経済的負担を軽減するための支援」(83.8%)が、週2～3回働いている人は「介護をする方の心身の負担を軽減するための支援」(78.9%)が、それぞれ最も多くなっていますが、どちらの支援も週4回以上働いている人のほうが高い割合になっています。(図3-13-2)

【図3-13-2 収入のある仕事の頻度別 家族等の介護をするうえで、あればよいと思う支援】

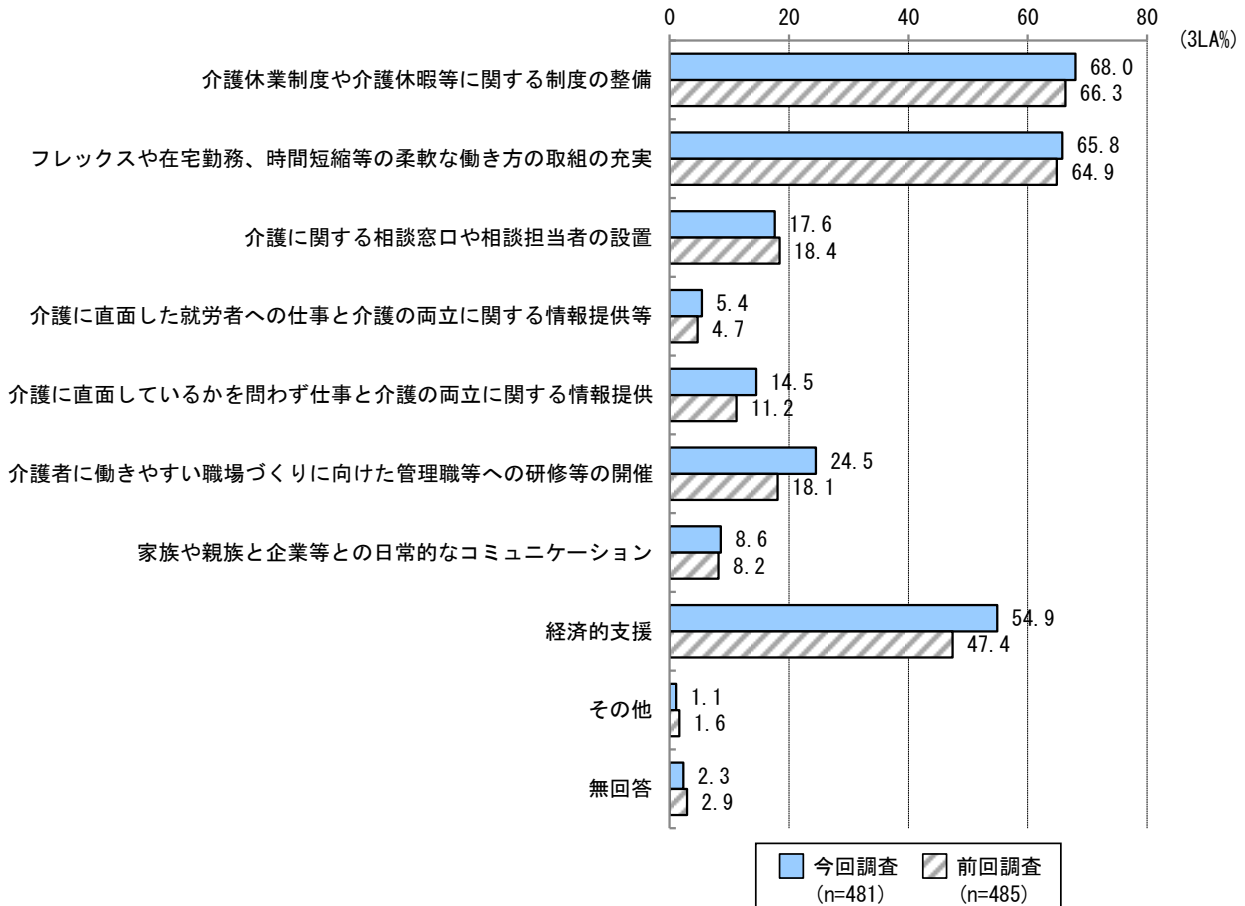


※『週1回以下』は「週1回」「月1～3回」「年に数回」の合計、『していない』は「していないが、今後したい」「していないし、今後もする気はない」の合計で、再集計しています。

(14) 介護と仕事の両立のためにあれば良いと思う企業等の支援策

問3 Q11 あなたは介護と仕事を両立するためには、企業等にどのような支援策があれば良いと思いますか。＜〇は3つまで＞

【図 3-14 介護と仕事の両立のためにあれば良いと思う企業等の支援策】

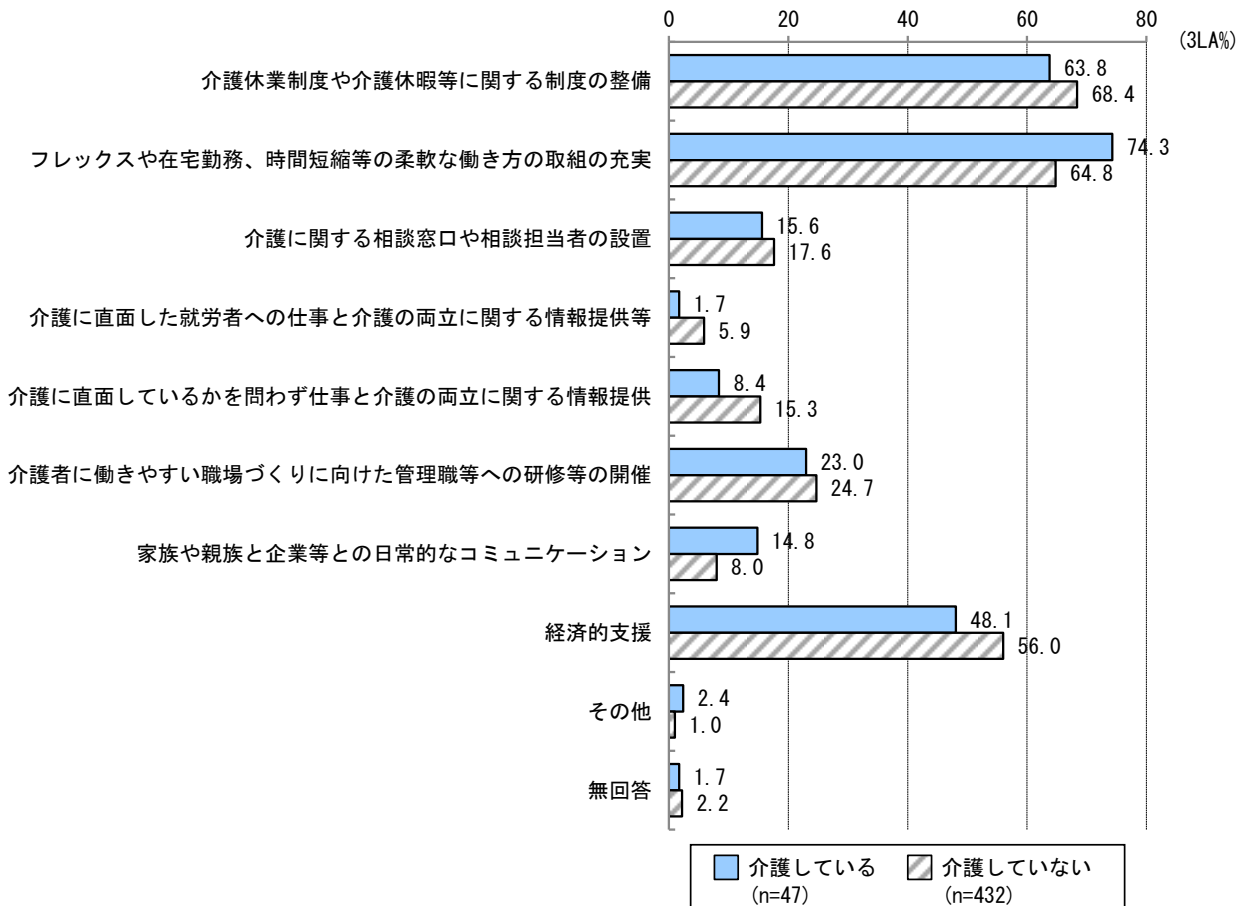


介護と仕事の両立のためにあれば良いと思う企業等の支援策については、「介護休業制度や介護休暇等に関する制度の整備」が68.0%で最も多く、次いで「フレックスや在宅勤務、時間短縮等の柔軟な働き方の取組の充実」が65.8%、「経済的支援」が54.9%となっています。

前回調査と比較すると、「経済的支援」が7.5ポイント、「介護者に働きやすい職場づくりに向けた管理職等への研修等の開催」が6.4ポイント、「介護に直面しているかを問わず仕事と介護の両立に関する情報提供」が3.3ポイント高くなっています。(図 3-14)

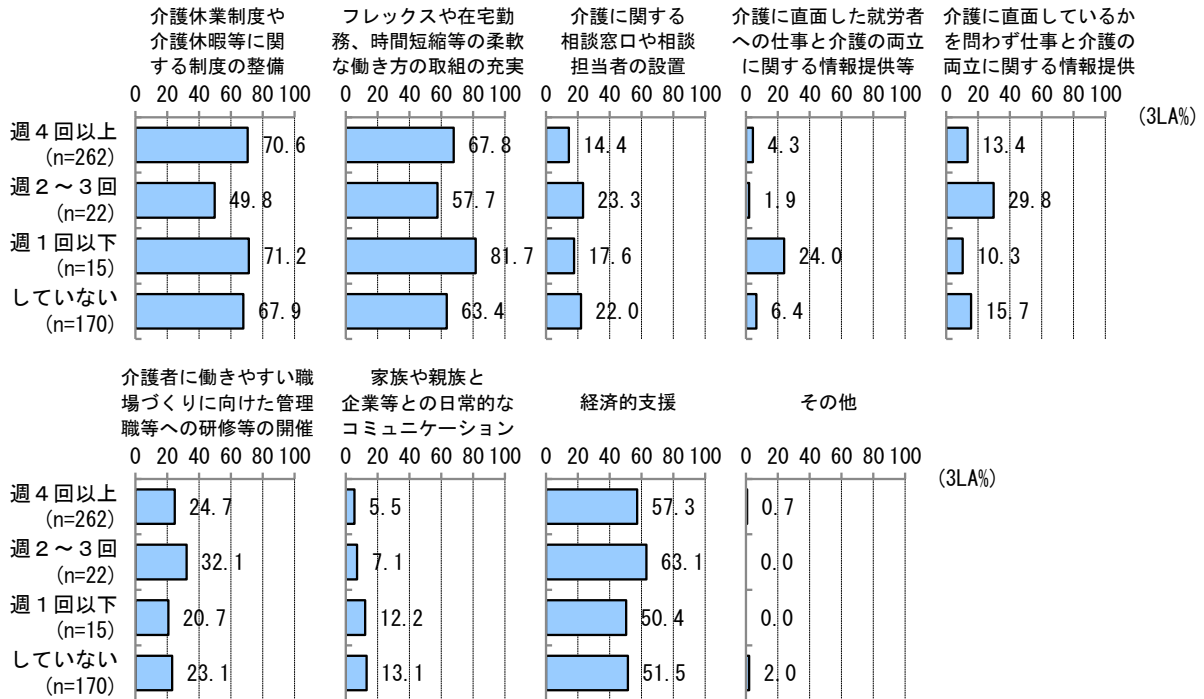
家族への介護有無別でみると、介護している人では、「フレックスや在宅勤務、時間短縮等の柔軟な働き方の取組の充実」が74.3%で最も多く、次いで「介護休業制度や介護休暇等に関する制度の整備」が63.8%、「経済的支援」が48.1%となっています。また、介護していない人と比べて「フレックスや在宅勤務、時間短縮等の柔軟な働き方の取組の充実」が9.5ポイント、「家族や親族と企業等との日常的なコミュニケーション」が6.8ポイント高い割合になっています。(図3-14-1)

【図3-14-1 家族への介護有無別 介護と仕事の両立のためにあれば良いと思う企業等の支援策】



収入のある仕事の頻度別でみると、週4回以上働いている人は「介護休業制度や介護休暇等に関する制度の整備」(70.6%)が、週2～3回働いている人は「経済的支援」(63.1%)が、それぞれ最も多くなっています。(図3-14-2)

【図3-14-2 収入のある仕事の頻度別 介護と仕事の両立のためにあれば良いと思う企業等の支援策】

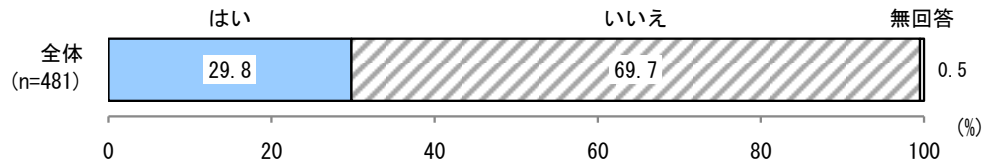


※『週1回以下』は「週1回」「月1～3回」「年に数回」の合計、『していない』は「していないが、今後したい」「していないし、今後もする気はない」の合計で、再集計しています。

(15) 介護サービスの利用方法の認知有無

問3 Q12 あなたは介護サービスの利用が必要になった際の利用方法を知っていますか。
<〇は1つ>

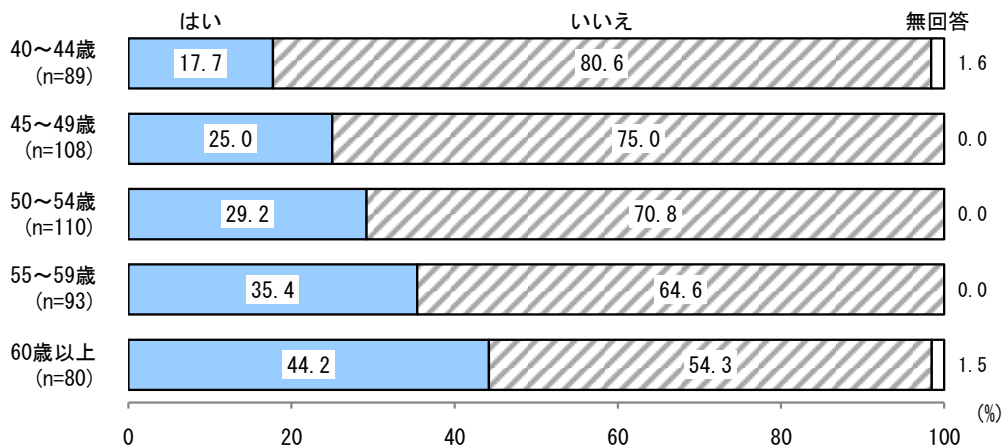
【図 3-15 介護サービスの利用方法の認知有無】



介護サービスの利用が必要になった際の利用方法を知っているかについては、「はい」が 29.8%、「いいえ」が 69.7%となっています。(図 3-15)

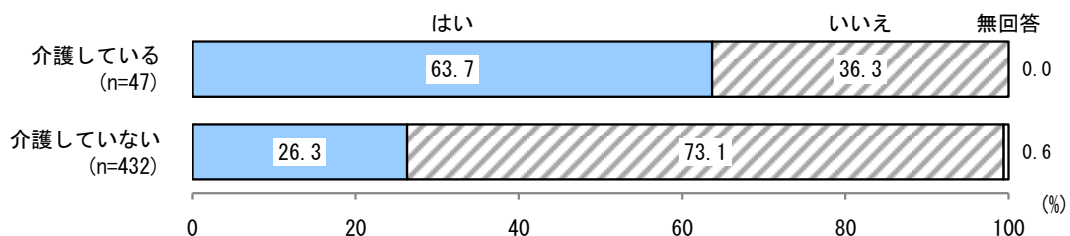
年齢別でみると、「はい (知っている)」の割合は、年代が上がるほど高くなっており、60 歳以上では 44.2%となっています。(図 3-15-1)

【図 3-15-1 年齢別 介護サービスの利用方法の認知有無】



家族への介護有無別でみると、「はい (知っている)」の割合は、介護している人で 63.7%、介護していない人で 26.3%となっており、介護している人のほうが 37.4 ポイント高くなっています。(図 3-15-2)

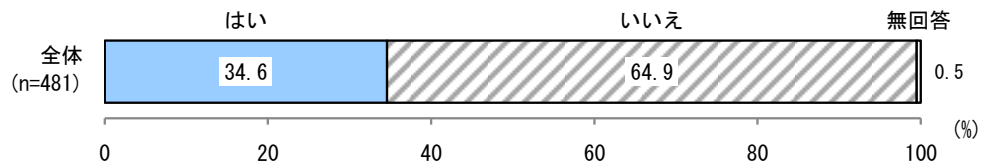
【図 3-15-2 家族への介護有無別 介護サービスの利用方法の認知有無】



(16) 介護の相談先の認知有無

問3 Q13 あなたは介護が必要になった場合の相談先を知っていますか。＜○は1つ＞

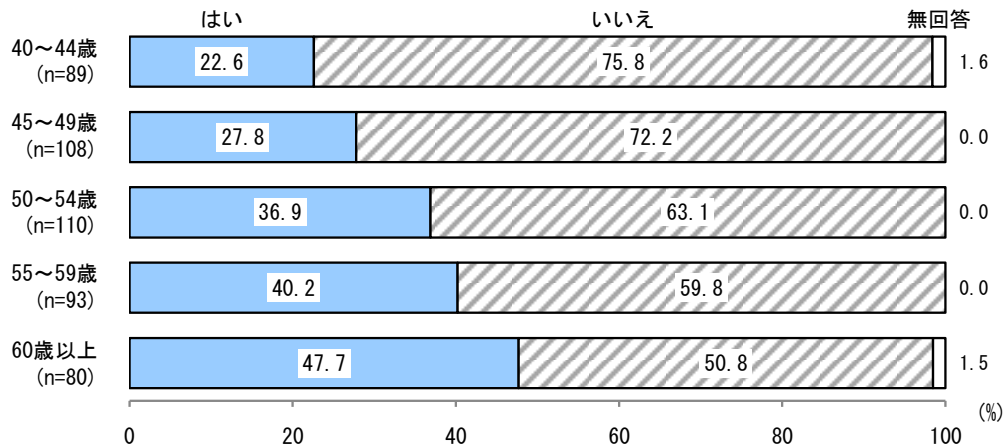
【図 3-16 介護の相談先の認知有無】



介護が必要になった場合の相談先を知っているかについては、「はい」が34.6%、「いいえ」が64.9%となっています。(図 3-16)

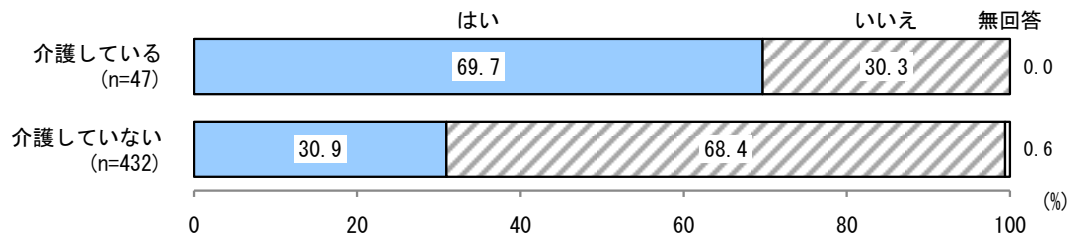
年齢別でみると、「はい (知っている)」の割合は、年代が上がるほど高くなっており、60歳以上では47.7%となっています。(図 3-16-1)

【図 3-16-1 年齢別 介護の相談先の認知有無】



家族への介護有無別でみると、「はい (知っている)」の割合は、介護している人で69.7%、介護していない人で30.9%となっており、介護している人のほうが38.8ポイント高くなっています。(図 3-16-2)

【図 3-16-2 家族への介護有無別 介護の相談先の認知有無】

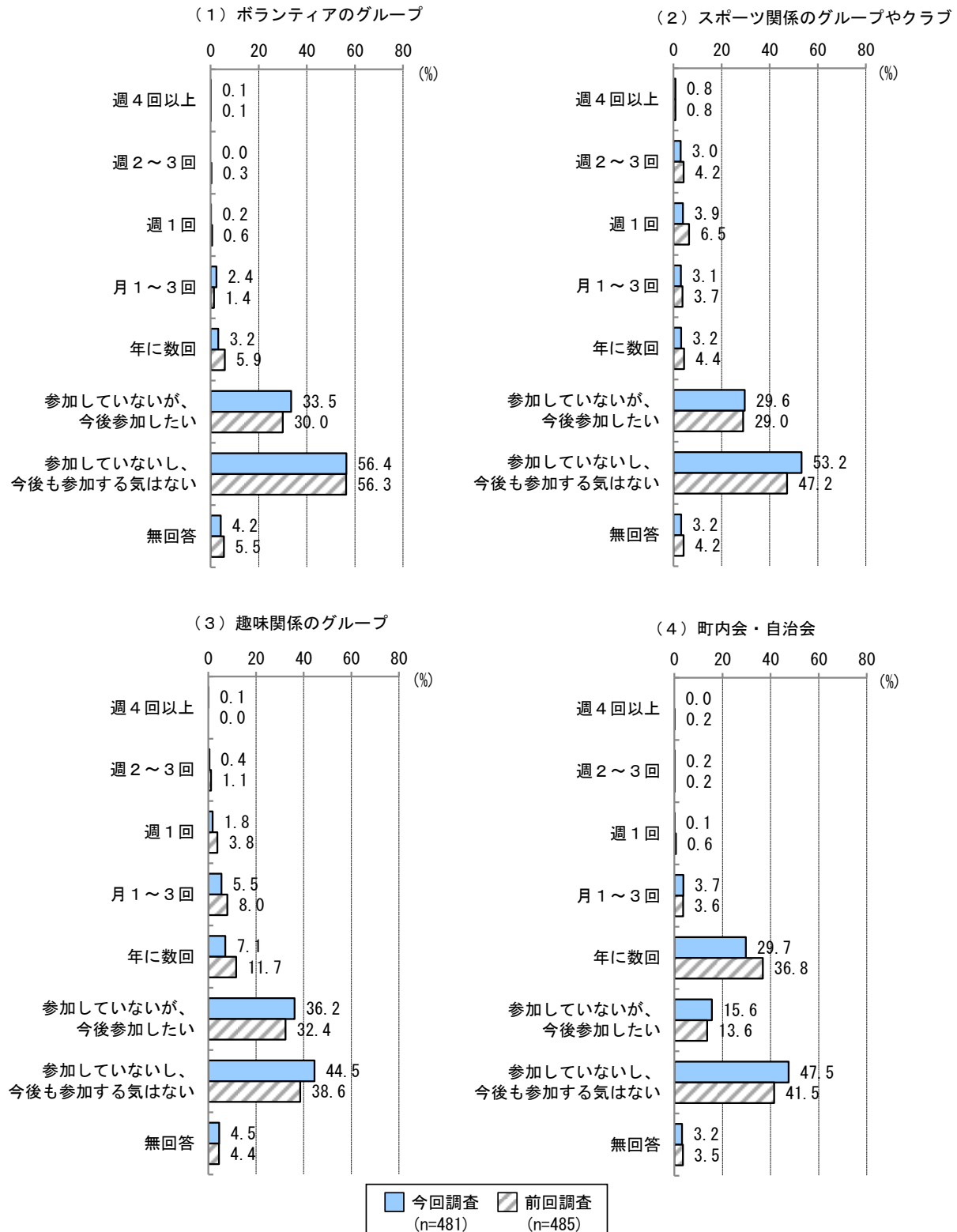


4 社会参加について

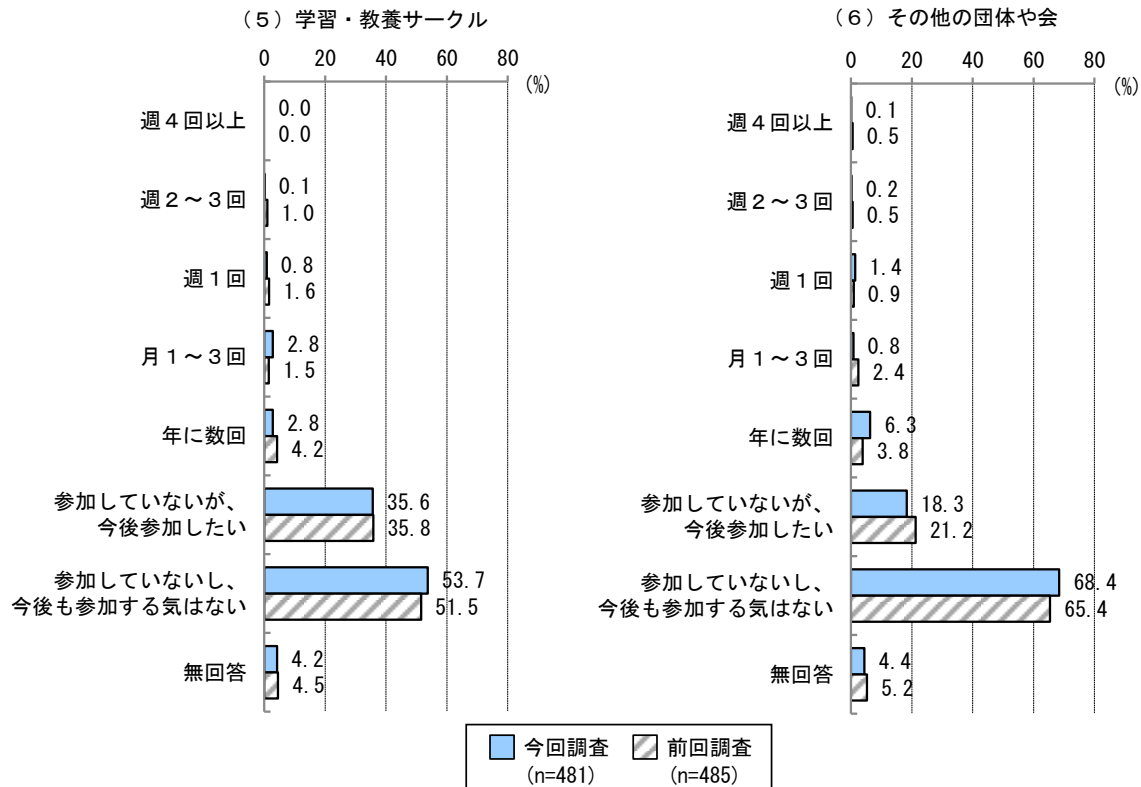
(1) 会・グループ等の参加頻度

問4 Q1 あなたは以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。
 <(1)から(6)までそれぞれ〇は1つつ>

【図 4-1 会・グループ等の参加頻度①】



【図 4-1 会・グループ等の参加頻度②】



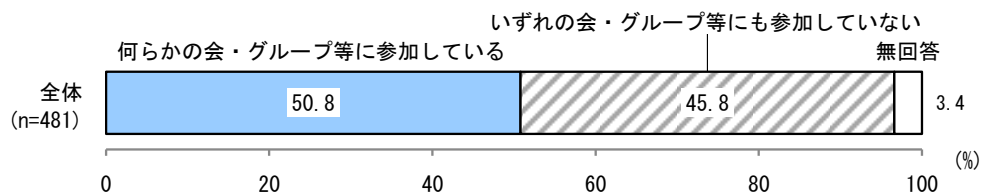
いずれの会・グループ等も「参加していないし、今後も参加する気はない」が最も多くなっています。

参加している人では、ボランティアのグループで「年に数回」(3.2%)、スポーツ関係のグループやクラブで「週 1 回」(3.9%)、趣味関係のグループで「年に数回」(7.1%)、町内会・自治会で「年に数回」(29.7%)、学習・教養サークルで「月 1 ～ 3 回」と「年に数回」(ともに 2.8%)、その他の団体や会で「年に数回」(6.3%) が、それぞれ最も多くなっています。

前回調査と比較すると、「参加していないが、今後参加したい」は、趣味関係のグループで 3.8 ポイント、ボランティアのグループで 3.5 ポイント、町内会・自治会で 2.0 ポイント高くなっています。(図 4-1)

上記 (1) ～ (6) の会・グループ等のうち、「何らかの会・グループ等に参加している」比率は 50.8%となっています。(図 4-1-1)

【図 4-1-1 会・グループ等の参加比率】



ボランティアのグループの参加頻度について、年齢別でみると、参加している割合は、55～59歳が8.5%で最も高く、次いで40～44歳が6.4%となっています。

家族構成別でみると、参加している割合は、三世帯同居（親と子と同居）が13.4%で最も高く、次いで一世帯（夫婦のみ）が9.7%となっています。

家族への介護有無別でみると、介護している人の参加している割合は25.4%となっています。（表4-1①-1、図4-1①-2）

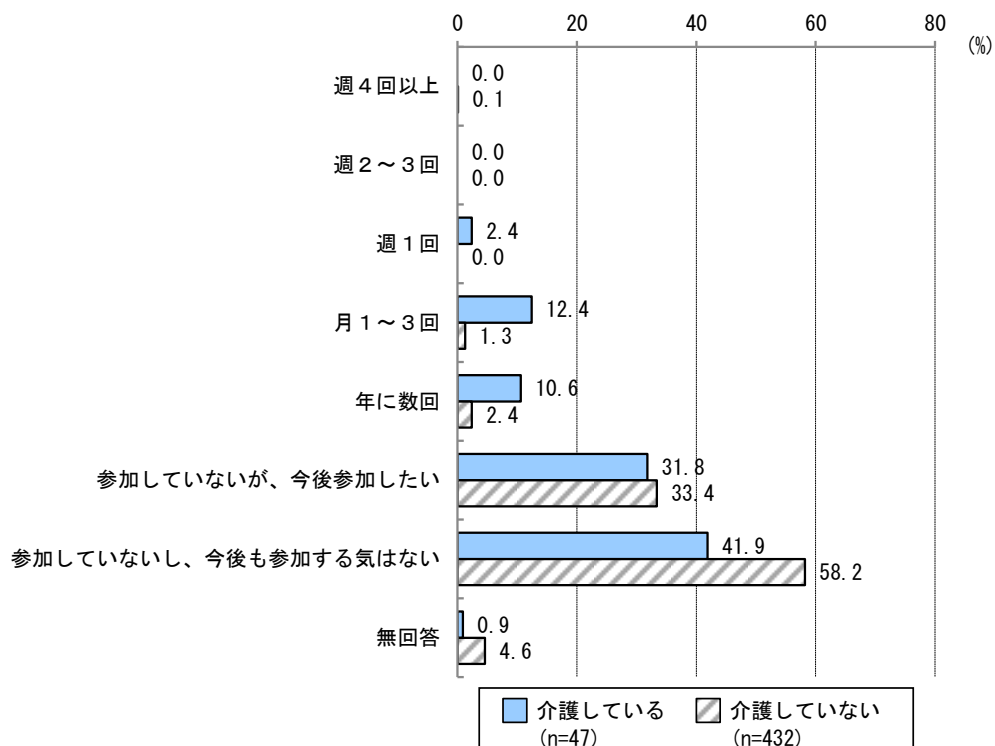
【表4-1①-1 年齢別・家族構成別 ボランティアのグループの参加頻度】

(単位：%)

		(1) ボランティアのグループ							
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	たが参 い、加 し、今 後参 加し ない	すし、参 加し、今 後は参 加しな い	無回 答
年齢	40～44歳 (n=89)	0.0	0.0	0.0	3.2	3.2	35.5	53.2	4.8
	45～49歳 (n=108)	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	33.3	61.1	2.8
	50～54歳 (n=110)	0.0	0.0	0.0	4.6	1.5	35.4	52.3	6.2
	55～59歳 (n=93)	0.0	0.0	1.2	2.4	4.9	30.5	57.3	3.7
	60歳以上 (n=80)	0.5	0.0	0.0	1.5	4.0	32.7	57.8	3.5
家族構成	単身世帯（ひとり暮らし） (n=57)	0.0	0.0	0.0	7.5	0.0	40.1	51.7	0.7
	一世帯（夫婦のみ） (n=84)	0.5	0.0	0.0	2.5	6.7	26.7	57.4	6.1
	二世帯同居（親と同居） (n=49)	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	20.0	66.4	12.7
	二世帯同居（子と同居） (n=243)	0.0	0.0	0.0	1.5	2.1	37.7	56.9	1.8
	三世帯同居（親と子と同居） (n=34)	0.0	0.0	3.4	3.4	6.6	19.7	59.3	7.6

※「一世帯（兄弟姉妹のみ）」「三世帯同居（子と孫と同居）」「その他」の母数(n=10未満)は少ないので割愛します。

【図4-1①-2 家族への介護有無別 ボランティアのグループの参加頻度】



スポーツ関係のグループやクラブの参加頻度について、年齢別でみると、参加している割合は、40～44歳が24.2%で最も高く、次いで60歳以上が20.5%となっています。

家族構成別でみると、参加している割合は、三世帯同居（親と子と同居）が18.9%で最も高く、次いで一世帯（夫婦のみ）が16.1%となっています。

家族への介護有無別でみると、介護している人の参加している割合は13.0%となっています。（表4-1②-1、図4-1②-2）

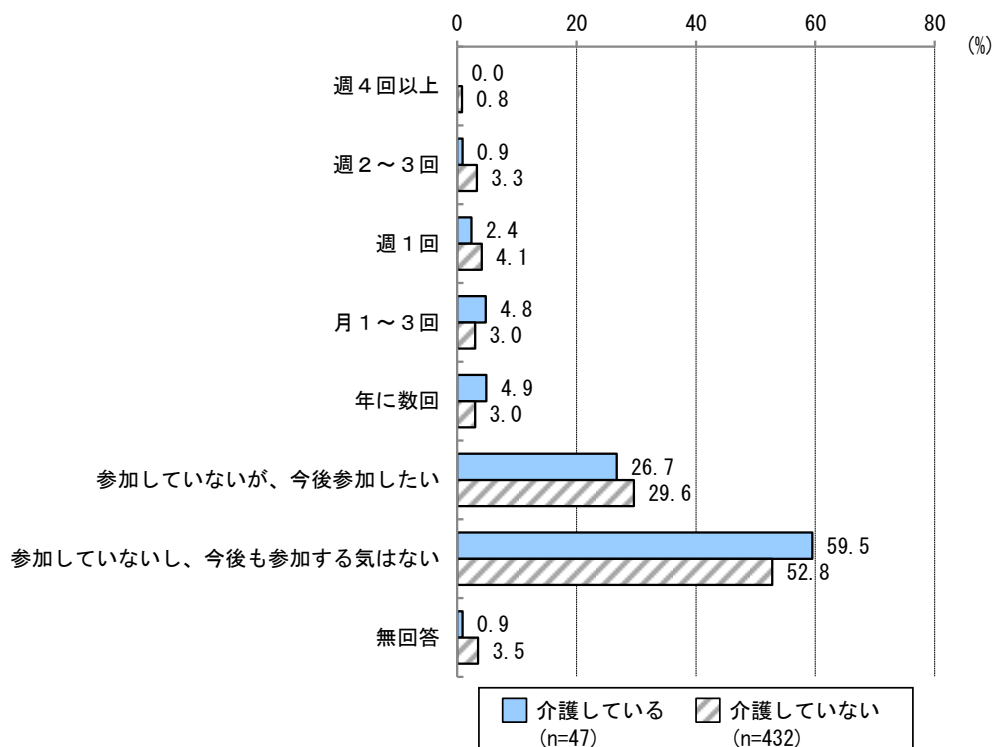
【表4-1②-1 年齢別・家族構成別 スポーツ関係のグループやクラブの参加頻度】

(単位: %)

		(2) スポーツ関係のグループやクラブ							
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	たが参 い、加 し、今 後参 加し ない	すし参 る、加 し、今 後参 加し ない	無回答
年齢	40～44歳 (n=89)	0.0	4.8	4.8	6.5	8.1	35.5	37.1	3.2
	45～49歳 (n=108)	0.0	1.4	4.2	2.8	1.4	29.2	58.3	2.8
	50～54歳 (n=110)	0.0	3.1	3.1	0.0	0.0	32.3	58.5	3.1
	55～59歳 (n=93)	2.4	2.4	1.2	2.4	3.7	24.4	59.8	3.7
	60歳以上 (n=80)	2.0	4.0	5.5	5.0	4.0	26.1	49.7	3.5
家族構成	単身世帯（ひとり暮らし） (n=57)	0.0	0.0	0.0	5.8	1.4	34.9	57.2	0.7
	一世帯（夫婦のみ） (n=84)	1.9	2.8	5.7	3.3	2.4	20.1	57.7	6.1
	二世帯同居（親と同居） (n=49)	0.0	0.0	3.9	5.4	0.0	24.5	60.0	6.4
	二世帯同居（子と同居） (n=243)	0.9	4.9	3.5	2.0	3.6	31.6	52.3	1.1
	三世帯同居（親と子と同居） (n=34)	0.0	0.0	10.2	4.5	4.2	29.1	44.4	7.6

※「一世帯（兄弟姉妹のみ）」「三世帯同居（子と孫と同居）」「その他」の母数(n=10未満)は少ないので割愛します。

【図4-1②-2 家族への介護有無別 スポーツ関係のグループやクラブの参加頻度】



趣味関係のグループの参加頻度について、年齢別でみると、参加している割合は、45～49 歳が 18.0%で最も高く、次いで 40～44 歳が 17.8%となっています。

家族構成別でみると、参加している割合は、一世代（夫婦のみ）が 19.3%で最も高く、次いで単身世帯（ひとり暮らし）が 16.9%となっています。

家族への介護有無別でみると、介護している人の参加している割合は 15.4%となっています。（表 4-1③-1、図 4-1③-2）

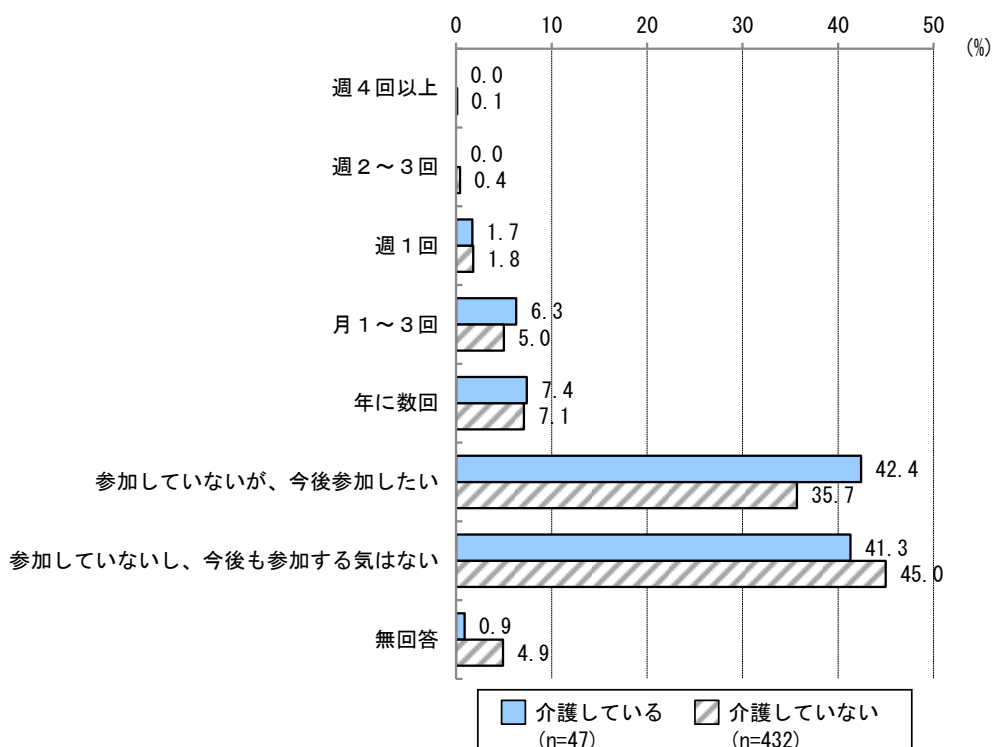
【表 4-1③-1 年齢別・家族構成別 趣味関係のグループの参加頻度】

(単位：%)

		(3) 趣味関係のグループ							
		週 4 回 以上	週 2 ～ 3 回	週 1 回	月 1 ～ 3 回	年 に 数 回	たが参 加、加 し、今 後参 加し ない	すし、参 加、今 後は ない ない ない	無 回 答
年 齢	40～44歳 (n=89)	0.0	1.6	1.6	8.1	6.5	38.7	37.1	6.5
	45～49歳 (n=108)	0.0	0.0	0.0	6.9	11.1	27.8	48.6	5.6
	50～54歳 (n=110)	0.0	0.0	3.1	1.5	3.1	40.0	49.2	3.1
	55～59歳 (n=93)	0.0	0.0	1.2	6.1	8.5	36.6	45.1	2.4
	60歳以上 (n=80)	0.5	0.5	3.5	5.5	6.0	39.7	39.2	5.0
家 族 構 成	単身世帯（ひとり暮らし） (n=57)	0.0	0.0	0.7	13.0	3.2	33.8	45.9	3.4
	一世代（夫婦のみ） (n=84)	0.5	0.0	3.4	8.6	6.8	38.7	35.3	6.6
	二世世代同居（親と同居） (n=49)	0.0	0.0	0.8	0.8	10.0	26.4	52.7	9.3
	二世世代同居（子と同居） (n=243)	0.0	0.8	2.1	4.1	6.2	37.7	47.1	2.0
	三世世代同居（親と子と同居） (n=34)	0.0	0.0	0.0	3.4	7.6	37.2	43.1	8.7

※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世世代同居（子と孫と同居）」「その他」の母数(n=10未満)は少ないので割愛します。

【図 4-1③-2 家族への介護有無別 趣味関係のグループの参加頻度】



町内会・自治会の参加頻度について、年齢別でみると、参加している割合は、45～49歳が36.1%で最も高く、次いで50～54歳が35.4%となっています。

家族構成別でみると、参加している割合は、三世帯同居（親と子と同居）が49.4%で最も高く、次いで二世帯同居（子と同居）が39.9%となっています。

家族への介護有無別でみると、介護している人の参加している割合は44.7%となっています。（表4-1④-1、図4-1④-2）

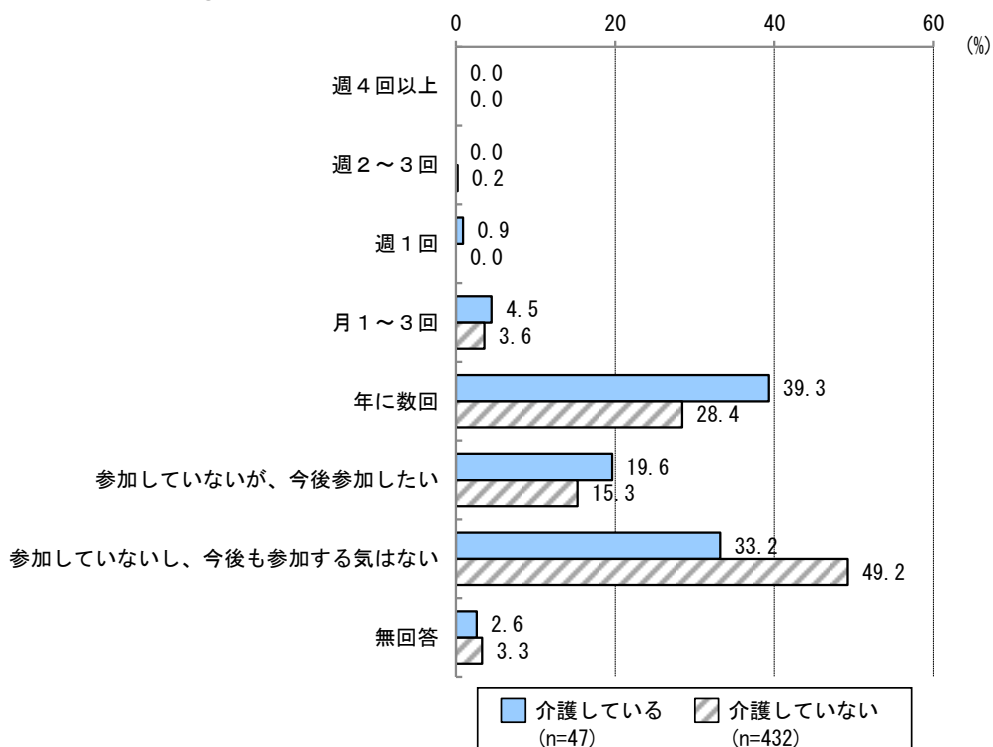
【表4-1④-1 年齢別・家族構成別 町内会・自治会の参加頻度】

(単位: %)

		(4) 町内会・自治会							
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	たが参 い、加 今し 後て 参い 加な しい	すし、参 る、加 気今 は後 はも い参 ない 加い	無回答
年齢	40～44歳 (n=89)	0.0	0.0	0.0	1.6	27.4	17.7	48.4	4.8
	45～49歳 (n=108)	0.0	0.0	0.0	2.8	33.3	5.6	56.9	1.4
	50～54歳 (n=110)	0.0	0.0	0.0	7.7	27.7	18.5	41.5	4.6
	55～59歳 (n=93)	0.0	0.0	0.0	1.2	31.7	19.5	46.3	1.2
	60歳以上 (n=80)	0.0	1.0	0.5	4.5	28.1	18.6	42.7	4.5
家族構成	単身世帯（ひとり暮らし） (n=57)	0.0	0.0	0.0	6.7	15.4	25.4	51.8	0.7
	一世帯（夫婦のみ） (n=84)	0.0	1.0	0.0	1.0	24.3	18.7	50.3	4.8
	二世帯同居（親と同居） (n=49)	0.0	0.0	0.0	3.9	14.7	10.7	59.8	10.9
	二世帯同居（子と同居） (n=243)	0.0	0.0	0.2	4.4	35.3	12.0	46.5	1.6
	三世帯同居（親と子と同居） (n=34)	0.0	0.0	0.0	1.2	48.2	14.0	31.1	5.4

※「一世帯（兄弟姉妹のみ）」「三世帯同居（子と孫と同居）」「その他」の母数(n=10未満)は少ないので割愛します。

【図4-1④-2 家族への介護有無別 町内会・自治会の参加頻度】



学習・教養サークルの参加頻度について、年齢別でみると、参加している割合は、50～54 歳が 12.2%で最も高く、次いで 60 歳以上が 8.0%となっています。

家族構成別でみると、参加している割合は、三世帯同居（親と子と同居）が 10.0%で最も高く、次いで単身世帯（ひとり暮らし）が 8.2%となっています。

家族への介護有無別でみると、介護している人の参加している割合は 5.0%となっています。（表 4-1⑤-1、図 4-1⑤-2）

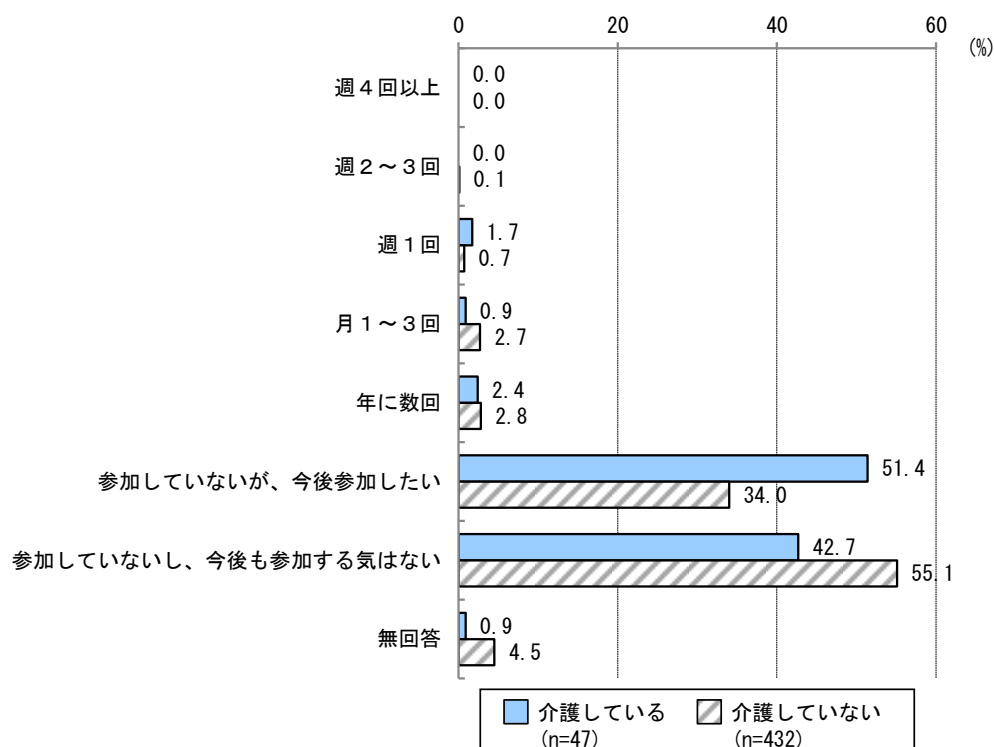
【表 4-1⑤-1 年齢別・家族構成別 学習・教養サークルの参加頻度】

(単位: %)

		(5) 学習・教養サークル							
		週 4 回 以上	週 2 ～ 3 回	週 1 回	月 1 ～ 3 回	年 に 数 回	たが参 い、加 し、今 後参 加し ない	すし、参 加、今 後は ない	無 回 答
年 齢	40～44歳 (n=89)	0.0	0.0	1.6	0.0	3.2	38.7	50.0	6.5
	45～49歳 (n=108)	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	31.9	63.9	2.8
	50～54歳 (n=110)	0.0	0.0	1.5	9.2	1.5	30.8	52.3	4.6
	55～59歳 (n=93)	0.0	0.0	0.0	1.2	4.9	41.5	48.8	3.7
	60歳以上 (n=80)	0.0	0.5	1.0	3.0	3.5	37.2	51.3	3.5
家 族 構 成	単身世帯（ひとり暮らし） (n=57)	0.0	0.0	2.5	3.0	2.7	39.1	51.9	0.7
	一世帯（夫婦のみ） (n=84)	0.0	0.0	0.0	5.0	1.4	33.7	52.1	7.8
	二世帯同居（親と同居） (n=49)	0.0	0.0	0.8	1.6	0.0	25.4	62.9	9.3
	二世帯同居（子と同居） (n=243)	0.0	0.2	0.9	2.3	2.7	36.5	55.7	1.8
	三世帯同居（親と子と同居） (n=34)	0.0	0.0	0.0	1.2	8.8	34.8	47.6	7.6

※「一世帯（兄弟姉妹のみ）」「三世帯同居（子と孫と同居）」「その他」の母数(n=10 未満)は少ないので割愛します。

【図 4-1⑤-2 家族への介護有無別 学習・教養サークルの参加頻度】



その他の団体や会の参加頻度について、年齢別でみると、参加している割合は、50～54 歳が 10.7%で最も高く、次いで 60 歳以上が 10.5%となっています。

家族構成別でみると、参加している割合は、単身世帯（ひとり暮らし）が 9.4%で最も高く、次いで二世世代同居（子と同居）が 9.1%となっています。

家族への介護有無別でみると、介護している人の参加している割合は 9.6%となっています。（表 4-1⑥-1、図 4-1⑥-2）

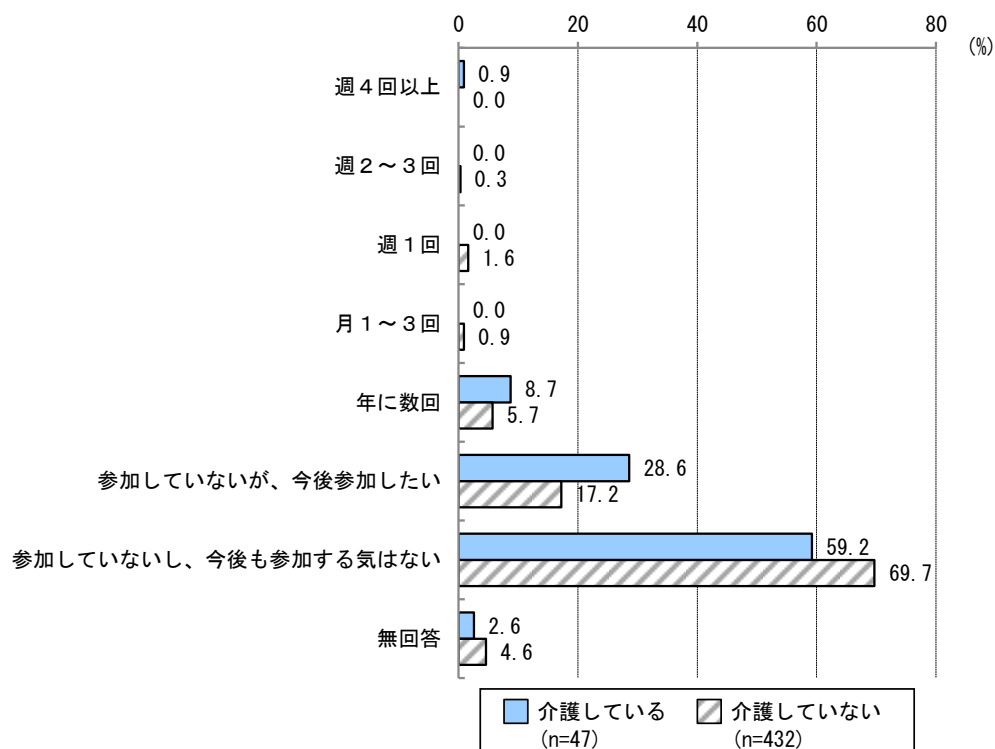
【表 4-1⑥-1 年齢別・家族構成別 その他の団体や会の参加頻度】

(単位：%)

		(6) その他の団体や会							
		週 4 回 以上	週 2 ～ 3 回	週 1 回	月 1 ～ 3 回	年 に 数 回	たが参 加、今 後参 加し ない	すし参 加、今 後は ない	無 回 答
年 齢	40～44歳 (n=89)	0.0	0.0	1.6	0.0	8.1	19.4	66.1	4.8
	45～49歳 (n=108)	0.0	0.0	1.4	0.0	4.2	15.3	76.4	2.8
	50～54歳 (n=110)	0.0	0.0	1.5	1.5	7.7	21.5	61.5	6.2
	55～59歳 (n=93)	0.0	1.2	1.2	1.2	4.9	15.9	73.2	2.4
	60歳以上 (n=80)	0.5	0.0	1.5	1.5	7.0	19.6	63.8	6.0
家 族 構 成	単身世帯（ひとり暮らし） (n=57)	0.0	0.0	2.5	3.0	3.9	21.0	68.8	0.7
	一世代（夫婦のみ） (n=84)	0.0	0.0	2.3	1.4	3.3	17.2	69.7	6.2
	二世世代同居（親と同居） (n=49)	0.0	0.0	0.0	1.6	4.3	10.3	73.7	10.1
	二世世代同居（子と同居） (n=243)	0.2	0.5	0.9	0.2	7.3	18.7	69.7	2.7
	三世世代同居（親と子と同居） (n=34)	0.0	0.0	1.2	0.0	5.4	17.4	68.4	7.6

※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世世代同居（子と孫と同居）」「その他」の母数(n=10未満)は少ないので割愛します。

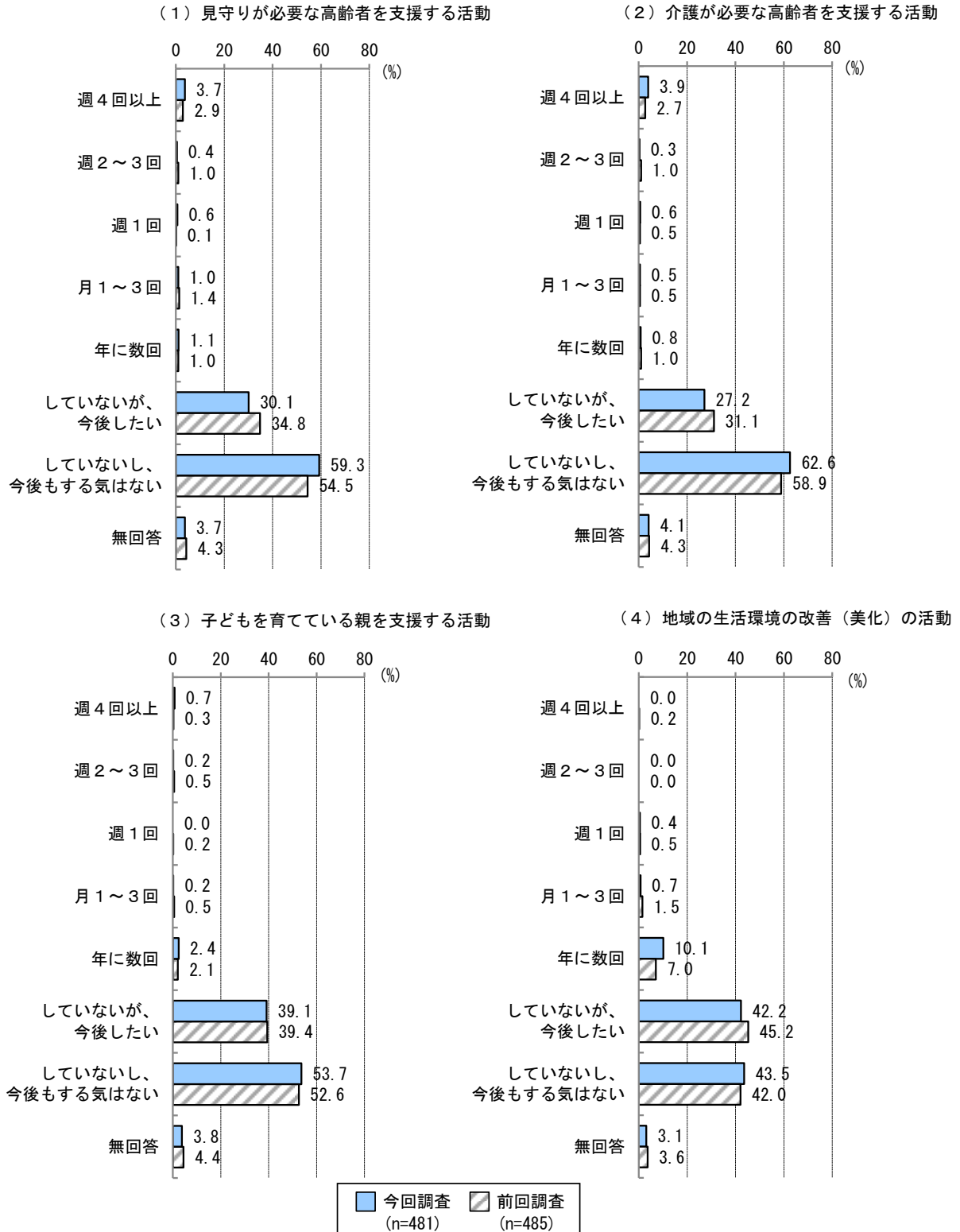
【図 4-1⑥-2 家族への介護有無別 その他の団体や会の参加頻度】



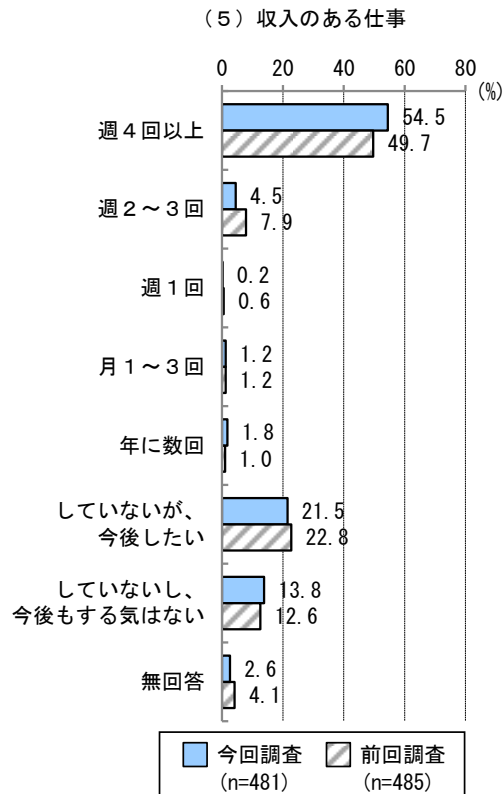
(2) 社会参加活動や仕事の頻度

問4 Q2 あなたは以下のような活動(社会参加活動や仕事)をどのくらいの頻度でしていますか。＜(1)から(5)までそれぞれ○は1つつつ＞

【図4-2 社会参加活動や仕事の頻度①】



【図 4-2 社会参加活動や仕事の頻度②】



社会参加活動は、いずれも「していないし、今後もする気はない」が最も多くなっています。活動している人では、見守りが必要な高齢者を支援する活動と、介護が必要な高齢者を支援する活動で「週4回以上」（見守り支援 3.7%、介護支援 3.9%）、子どもを育てている親を支援する活動と、地域の生活環境の改善（美化）活動で「年に数回」（子育て支援 2.4%、美化活動 10.1%）が、それぞれ最も多くなっています。

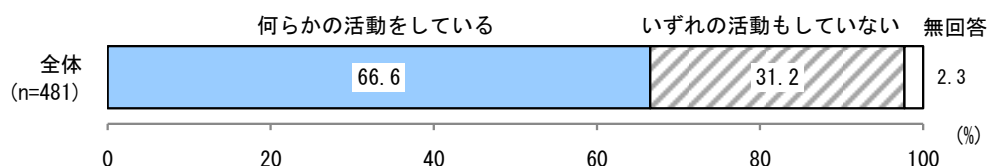
収入のある仕事では、「週4回以上」が 54.5%で最も多く、「していないが、今後したい」は 21.5%となっています。

前回調査と比較すると、「していないが、今後したい」は、見守りが必要な高齢者を支援する活動で 4.7 ポイント、介護が必要な高齢者を支援する活動で 3.9 ポイント、地域の生活環境の改善（美化）活動で 3.0 ポイント低くなっています。

また、収入のある仕事では「週4回以上」が 4.8 ポイント高くなっています。（図 4-2）

上記（1）～（5）の社会参加活動や仕事のうち、「何らかの活動をしている」比率は 66.6%となっています。（図 4-2-1）

【図 4-2-1 社会参加活動や仕事の活動比率】



見守りが必要な高齢者を支援する活動の頻度について、年齢別でみると、活動している割合は、40～44歳が9.7%で最も高く、次いで60歳以上が8.5%となっています。

家族構成別でみると、活動している割合は、三世代同居（親と子と同居）が9.6%で最も高く、次いで単身世帯（ひとり暮らし）が8.6%となっています。

家族への介護有無別でみると、介護している人の活動している割合は21.9%となっています。（表4-2①-1、図4-2①-2）

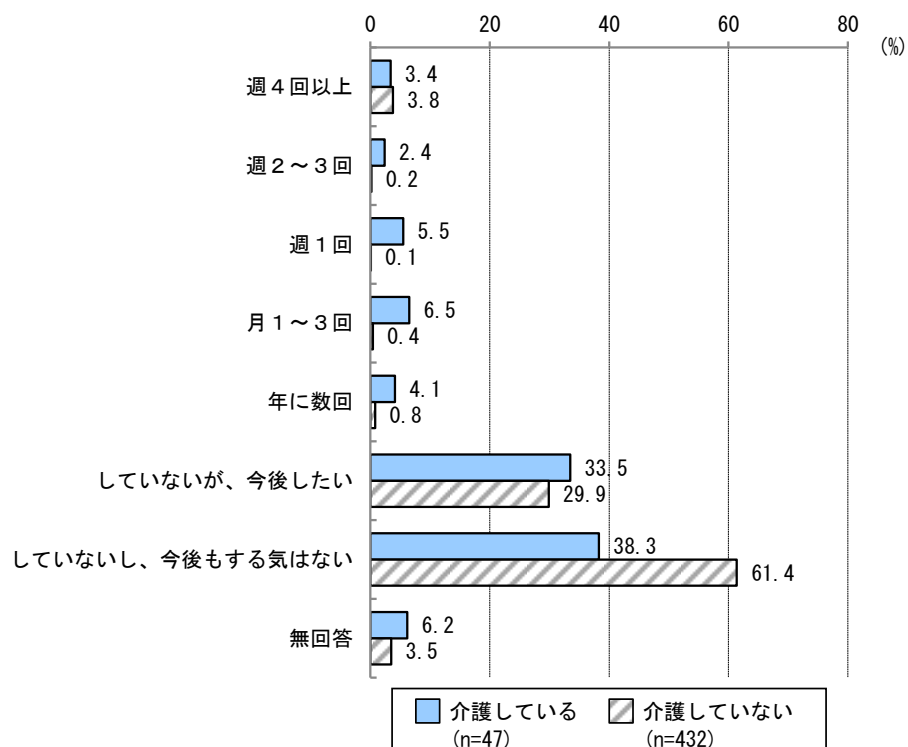
【表4-2①-1 年齢別・家族構成別 見守りが必要な高齢者を支援する活動の頻度】

(単位：%)

		(1) 見守りが必要な高齢者を支援する活動							
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	今して 後したい ないが、	な今して 後でもない する気が し、	無回答
年齢	40～44歳 (n=89)	8.1	0.0	1.6	0.0	0.0	29.0	58.1	3.2
	45～49歳 (n=108)	2.8	0.0	0.0	1.4	0.0	23.6	68.1	4.2
	50～54歳 (n=110)	3.1	0.0	0.0	0.0	1.5	38.5	52.3	4.6
	55～59歳 (n=93)	2.4	1.2	1.2	2.4	1.2	32.9	56.1	2.4
	60歳以上 (n=80)	2.5	1.0	0.5	1.5	3.0	25.6	61.8	4.0
家族構成	単身世帯（ひとり暮らし） (n=57)	3.4	0.0	2.5	2.7	0.0	35.8	54.9	0.7
	一世代（夫婦のみ） (n=84)	0.5	0.0	0.5	0.5	1.4	28.7	62.3	6.1
	二世代同居（親と同居） (n=49)	3.7	0.0	0.0	0.8	0.0	28.7	59.6	7.2
	二世代同居（子と同居） (n=243)	4.8	0.8	0.0	1.1	1.2	27.1	62.1	3.0
	三世代同居（親と子と同居） (n=34)	6.2	0.0	3.4	0.0	0.0	43.5	46.9	0.0

※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世代同居（子と孫と同居）」「その他」の母数(n=10未満)は少ないので割愛します。

【図4-2①-2 家族への介護有無別 見守りが必要な高齢者を支援する活動の頻度】



介護が必要な高齢者を支援する活動の頻度について、年齢別でみると、活動している割合は、40～44歳が11.3%で最も高く、次いで55～59歳が7.3%となっています。

家族構成別でみると、活動している割合は、単身世帯（ひとり暮らし）が8.6%で最も高く、次いで二世世代同居（子と同居）が7.5%となっています。

家族への介護有無別でみると、介護している人の活動している割合は15.6%となっています。（表4-2②-1、図4-2②-2）

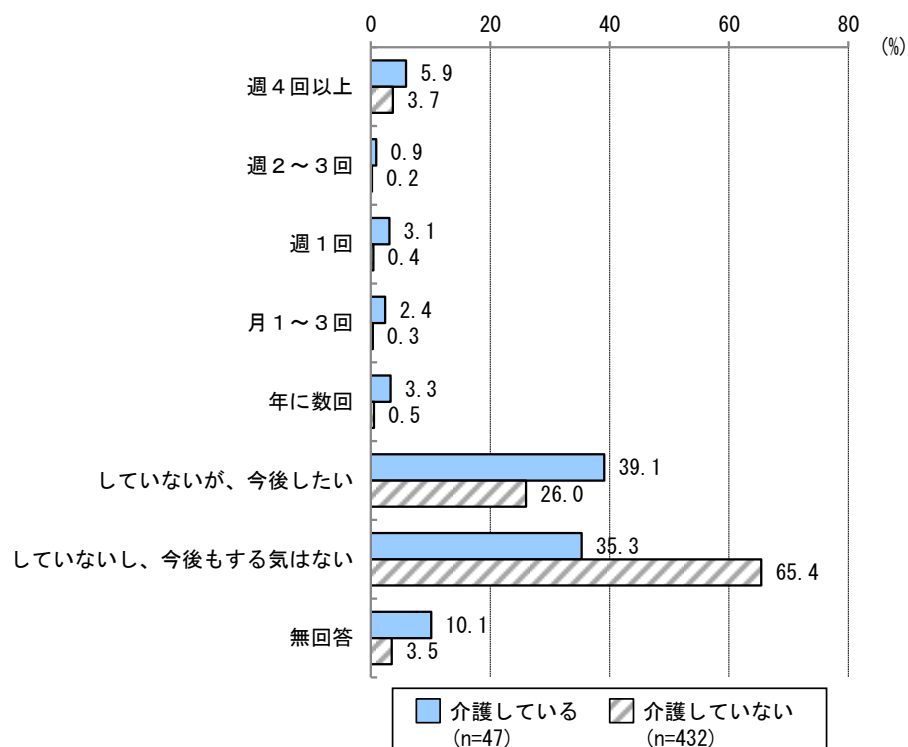
【表4-2②-1 年齢別・家族構成別 介護が必要な高齢者を支援する活動の頻度】

（単位：％）

		（２）介護が必要な高齢者を支援する活動							
		週 4 回 以 上	週 2 ～ 3 回	週 1 回	月 1 ～ 3 回	年 に 数 回	今 し て い な い が、	な 今 し て い な い す る 気 は	無 回 答
年 齢	40～44歳 (n=89)	9.7	0.0	1.6	0.0	0.0	22.6	61.3	4.8
	45～49歳 (n=108)	1.4	0.0	0.0	0.0	1.4	26.4	66.7	4.2
	50～54歳 (n=110)	3.1	0.0	1.5	0.0	0.0	32.3	58.5	4.6
	55～59歳 (n=93)	3.7	0.0	0.0	2.4	1.2	29.3	61.0	2.4
	60歳以上 (n=80)	2.5	1.5	0.0	0.0	1.5	24.1	65.8	4.5
家 族 構 成	単身世帯（ひとり暮らし） (n=57)	0.7	0.7	2.5	2.0	2.7	33.9	56.8	0.7
	一世代（夫婦のみ） (n=84)	0.5	0.0	0.0	0.0	1.0	25.5	67.0	6.1
	二世世代同居（親と同居） (n=49)	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	24.5	60.9	10.9
	二世世代同居（子と同居） (n=243)	5.8	0.3	0.7	0.5	0.2	23.4	66.1	3.0
	三世世代同居（親と子と同居） (n=34)	6.2	0.0	0.0	0.0	0.0	41.4	52.3	0.0

※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世世代同居（子と孫と同居）」「その他」の母数(n=10未満)は少ないので割愛します。

【図4-2②-2 家族への介護有無別 介護が必要な高齢者を支援する活動の頻度】



子どもを育てている親を支援する活動の頻度について、年齢別でみると、活動している割合は、45～49歳が6.9%で最も高く、次いで40～44歳が4.8%となっています。

家族構成別でみると、活動している割合は、三世代同居（親と子と同居）が4.2%で最も高く、次いで二世代同居（子と同居）が3.6%となっています。

家族への介護有無別でみると、介護している人の活動している割合は「年に数回」の12.1%のみとなっています。（表4-2③-1、図4-2③-2）

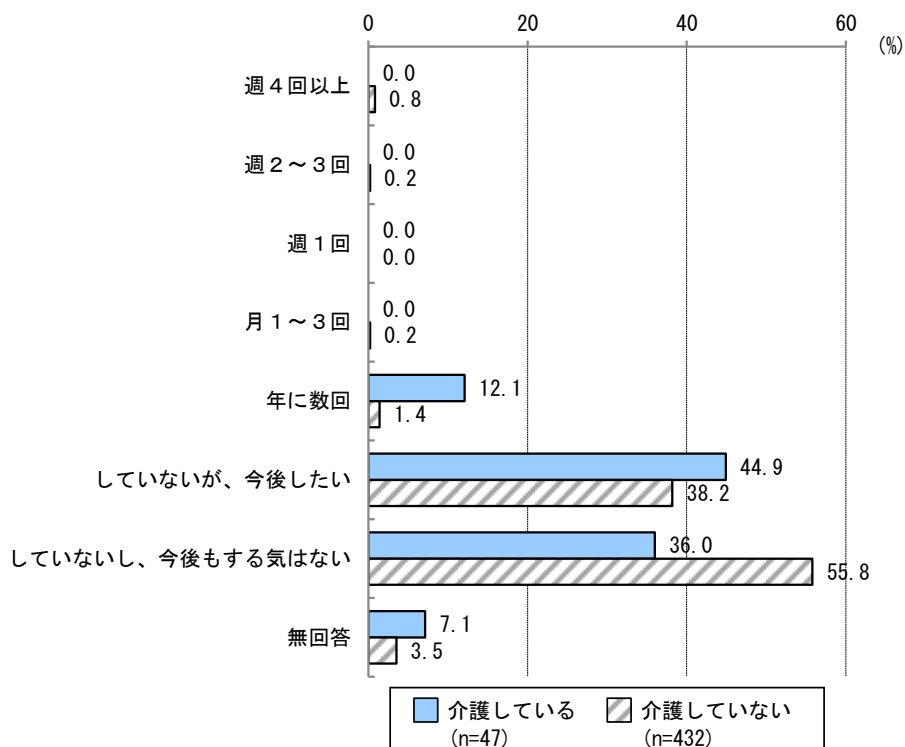
【表4-2③-1 年齢別・家族構成別 子どもを育てている親を支援する活動の頻度】

（単位：％）

		（3）子どもを育てている親を支援する活動							
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	今し 後て しい ない が、	な 今し 後て もい す る い 気 は	無 回 答
年 齢	40～44歳 (n=89)	1.6	0.0	0.0	0.0	3.2	40.3	51.6	3.2
	45～49歳 (n=108)	0.0	0.0	0.0	0.0	6.9	40.3	48.6	4.2
	50～54歳 (n=110)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	44.6	50.8	4.6
	55～59歳 (n=93)	1.2	0.0	0.0	0.0	1.2	34.1	61.0	2.4
	60歳以上 (n=80)	1.0	1.0	0.0	1.0	0.0	34.7	57.8	4.5
家 族 構 成	単身世帯（ひとり暮らし） (n=57)	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7	35.8	60.8	0.7
	一世代（夫婦のみ） (n=84)	0.5	0.5	0.0	0.5	1.8	32.9	57.8	6.1
	二世代同居（親と同居） (n=49)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	23.6	68.4	8.0
	二世代同居（子と同居） (n=243)	0.8	0.2	0.0	0.2	2.4	42.6	50.8	3.0
	三世代同居（親と子と同居） (n=34)	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2	52.2	43.5	0.0

※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世代同居（子と孫と同居）」「その他」の母数(n=10未満)は少ないので割愛します。

【図4-2③-2 家族への介護有無別 子どもを育てている親を支援する活動の頻度】



地域の生活環境の改善（美化）の活動の頻度について、年齢別でみると、活動している割合は、60歳以上が14.1%で最も高く、次いで45～49歳が13.9%となっています。

家族構成別でみると、活動している割合は、三世帯同居（親と子と同居）が24.4%で最も高く、次いで二世帯同居（親と同居）が12.5%となっています。

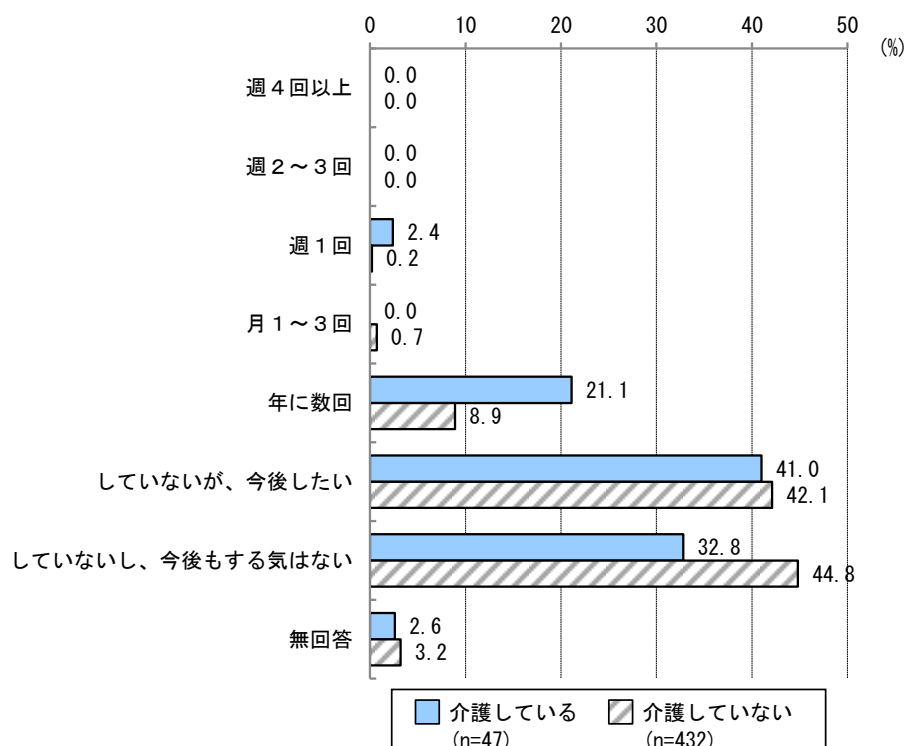
家族への介護有無別でみると、介護している人の活動している割合は23.5%となっています。（表4-2④-1、図4-2④-2）

【表4-2④-1 年齢別・家族構成別 地域の生活環境の改善（美化）活動の頻度】

		(4) 地域の生活環境の改善（美化）の活動							
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	今して 後したい ないが、	な今して い後とも いする ない 気し、 は	無回答
年齢	40～44歳 (n=89)	0.0	0.0	0.0	0.0	12.9	43.5	40.3	3.2
	45～49歳 (n=108)	0.0	0.0	0.0	1.4	12.5	33.3	50.0	2.8
	50～54歳 (n=110)	0.0	0.0	0.0	1.5	4.6	56.9	33.8	3.1
	55～59歳 (n=93)	0.0	0.0	1.2	0.0	8.5	40.2	47.6	2.4
	60歳以上 (n=80)	0.0	0.0	1.0	0.0	13.1	35.2	46.2	4.5
家族構成	単身世帯（ひとり暮らし） (n=57)	0.0	0.0	0.7	3.0	2.5	45.0	48.1	0.7
	一世帯（夫婦のみ） (n=84)	0.0	0.0	0.0	0.0	9.7	36.8	47.4	6.1
	二世帯同居（親と同居） (n=49)	0.0	0.0	0.8	0.0	11.7	30.5	49.0	8.0
	二世帯同居（子と同居） (n=243)	0.0	0.0	0.0	0.0	10.1	45.9	41.7	2.3
	三世帯同居（親と子と同居） (n=34)	0.0	0.0	3.4	0.0	21.0	35.9	39.7	0.0

※「一世帯（兄弟姉妹のみ）」「三世帯同居（子と孫と同居）」「その他」の母数(n=10未満)は少ないので割愛します。

【図4-2④-2 家族への介護有無別 地域の生活環境の改善（美化）活動の頻度】



収入のある仕事の頻度について、年齢別でみると、「週4回以上」の割合は、45～49歳が69.4%で最も高く、次いで55～59歳が57.3%となっています。

家族構成別でみると、「週4回以上」の割合は、三世帯同居（親と子と同居）が66.2%で最も高く、次いで二世帯同居（子と同居）が55.9%となっています。

家族への介護有無別でみると、介護している人は「週4回以上」が36.7%で最も多くなっています。（表4-2⑤-1、図4-2⑤-2）

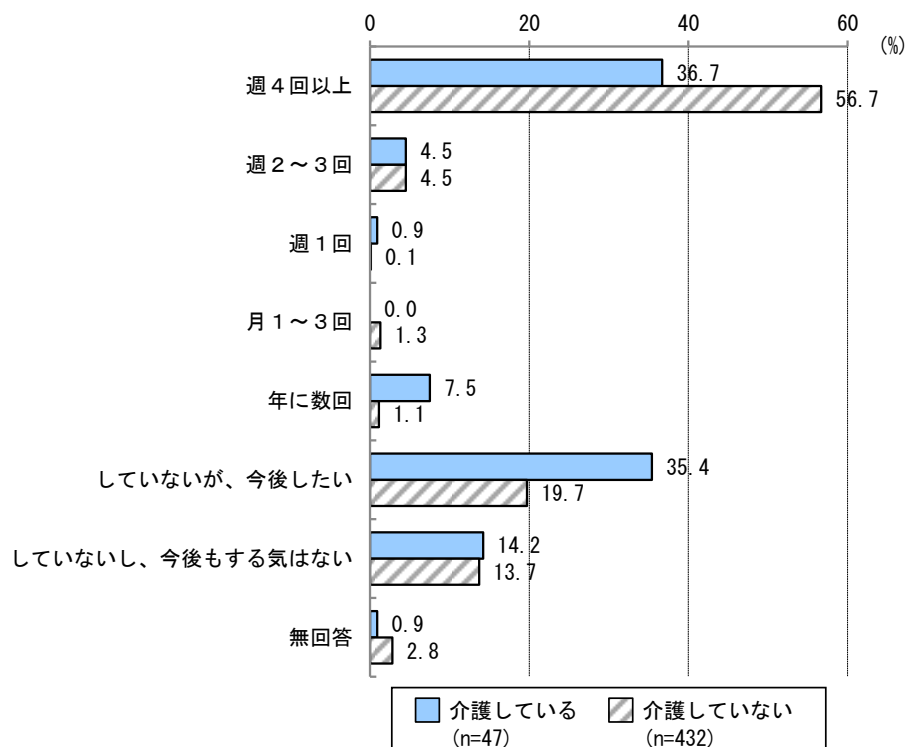
【表4-2⑤-1 年齢別・家族構成別 収入のある仕事の頻度】

（単位：％）

		（５）収入のある仕事							
		週 4 回 以 上	週 2 ～ 3 回	週 1 回	月 1 ～ 3 回	年 に 数 回	今し 後て しい たい が、	な 今し 後て もい する 気し は	無 回 答
年 齢	40～44歳 (n=89)	50.0	6.5	0.0	0.0	1.6	21.0	19.4	1.6
	45～49歳 (n=108)	69.4	2.8	0.0	0.0	2.8	13.9	6.9	4.2
	50～54歳 (n=110)	47.7	4.6	0.0	3.1	1.5	32.3	7.7	3.1
	55～59歳 (n=93)	57.3	2.4	0.0	1.2	1.2	20.7	15.9	1.2
	60歳以上 (n=80)	46.2	7.0	1.0	1.5	1.5	18.6	21.6	2.5
	単身世帯（ひとり暮らし） (n=57)	54.0	4.4	0.0	0.0	2.5	23.2	15.1	0.7
家 族 構 成	一世帯（夫婦のみ） (n=84)	53.1	5.2	0.0	0.5	1.0	17.9	18.1	4.3
	二世帯同居（親と同居） (n=49)	48.1	1.6	1.6	0.8	0.8	23.5	17.2	6.4
	二世帯同居（子と同居） (n=243)	55.9	5.8	0.0	2.0	2.4	19.5	12.8	1.6
	三世帯同居（親と子と同居） (n=34)	66.2	0.0	0.0	0.0	0.0	26.4	7.4	0.0

※「一世帯（兄弟姉妹のみ）」「三世帯同居（子と孫と同居）」「その他」の母数(n=10未満)は少ないので割愛します。

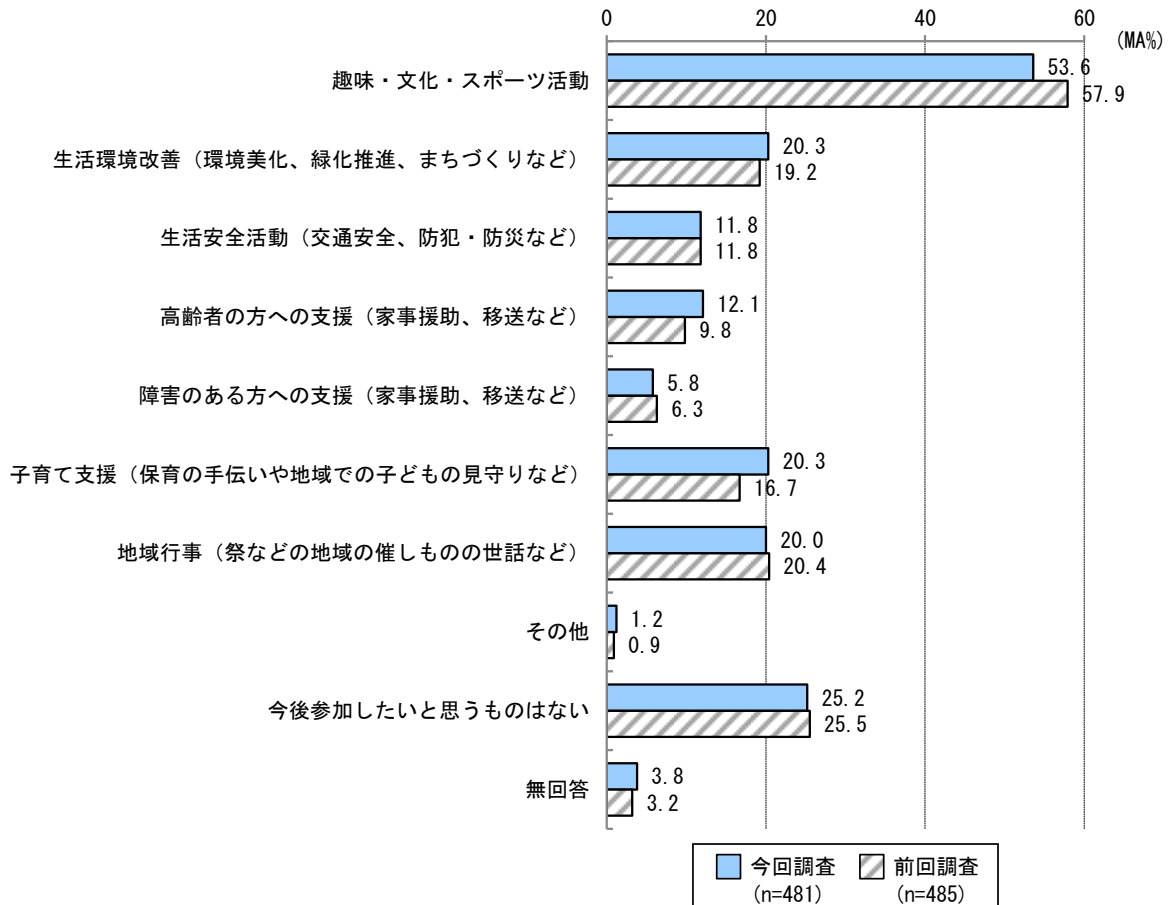
【図4-2⑤-2 家族への介護有無別 収入のある仕事の頻度】



(3) 今後参加したい自主活動

問4 Q3 あなたは、個人又は友人、あるいはグループで自主的に行われている次のような活動に、今後参加したいと思うものはありますか。〈あてはまるものすべてに○〉

【図 4-3 今後参加したい自主活動】

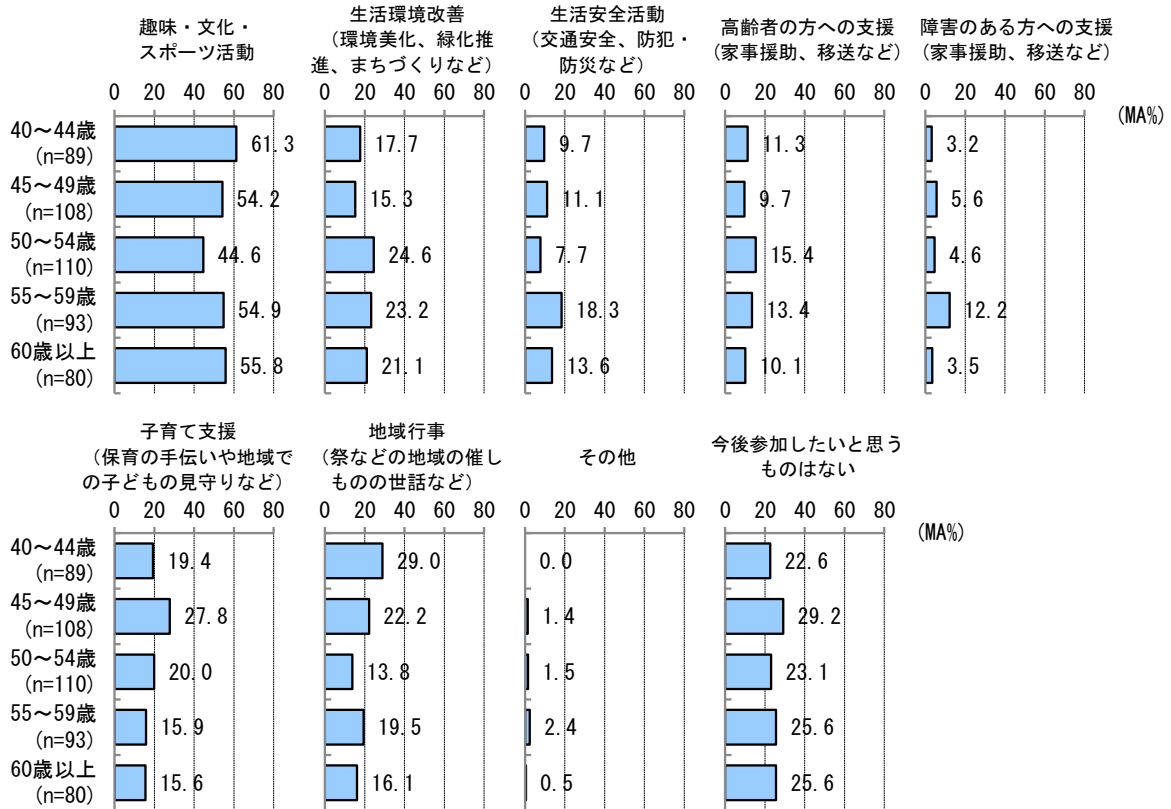


今後参加したい自主活動については、「趣味・文化・スポーツ活動」が 53.6%で最も多く、次いで「今後参加したいと思うものはない」が 25.2%、「生活環境改善（環境美化、緑化推進、まちづくりなど）」と「子育て支援（保育の手伝いや地域での子どもの見守りなど）」がともに 20.3% となっています。

前回調査と比較すると、「子育て支援（保育の手伝いや地域での子どもの見守りなど）」が 3.6 ポイント、「高齢者の方への支援（家事援助、移送など）」が 2.3 ポイント高くなっています。（図 4-3）

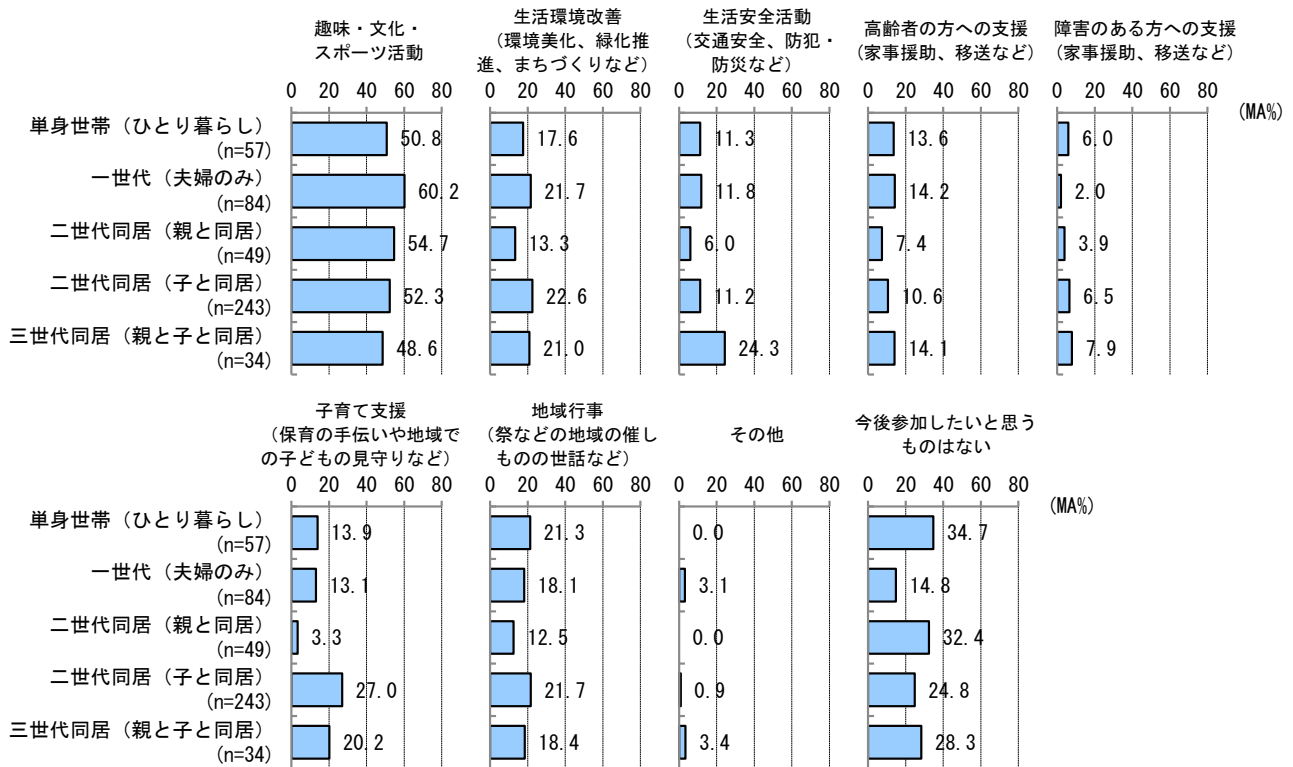
年齢別でみると、いずれの年代も「趣味・文化・スポーツ活動」が最も多く、これに次いで、40～44歳は「地域行事（祭などの地域の催しものの世話など）」（29.0%）、45～49歳は「子育て支援（保育の手伝いや地域での子どもの見守りなど）」（27.8%）、50歳以降の各年代では「生活環境改善（環境美化、緑化推進、まちづくりなど）」（50～54歳 24.6%、55～59歳 23.2%、60歳以上 21.1%）が、それぞれ多くなっています。（図 4-3-1）

【図 4-3-1 年齢別 今後参加したい自主活動】



家族構成別でみると、いずれの世帯も「趣味・文化・スポーツ活動」が最も多く、これに次いで、単身世帯（ひとり暮らし）は「地域行事（祭などの地域の催しものの世話など）」（21.3%）、一世代（夫婦のみ）と二世世代同居（親と同居）は「生活環境改善（環境美化、緑化推進、まちづくりなど）」（夫婦のみ 21.7%、親と同居 13.3%）、二世世代同居（子と同居）は「子育て支援（保育の手伝いや地域での子どもの見守りなど）」（27.0%）、三世世代同居（親と子と同居）は「生活安全活動（交通安全、防犯・防災など）」（24.3%）が、それぞれ多くなっています。（図 4-3-2）

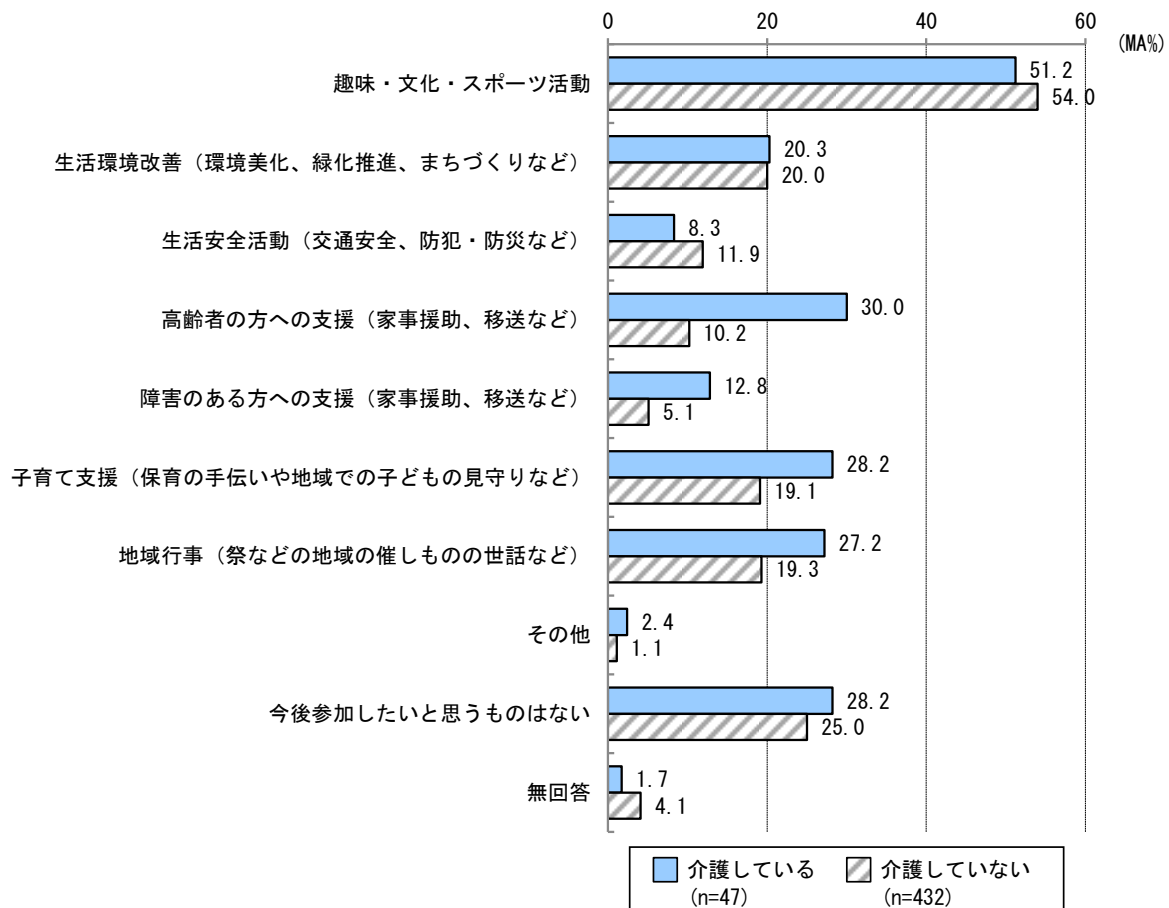
【図 4-3-2 家族構成別 今後参加したい自主活動】



※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世世代同居（子と孫と同居）」「その他」の母数(n=10未満)は少ないので割愛します。

家族への介護有無別でみると、介護している人では「趣味・文化・スポーツ活動」が 51.2%で最も多く、次いで「高齢者の方への支援（家事援助、移送など）」が 30.0%、「子育て支援（保育の手伝いや地域での子どもの見守りなど）」が 28.2%となっています。また、介護していない人と比べると、「高齢者の方への支援（家事援助、移送など）」で 19.8 ポイント、「子育て支援（保育の手伝いや地域での子どもの見守りなど）」で 9.1 ポイント、「地域行事（祭などの地域の催しものの世話など）」で 7.9 ポイント、「障害のある方への支援（家事援助、移送など）」で 7.7 ポイントの高い割合になっています。（図 4-3-3）

【図 4-3-3 家族への介護有無別 今後参加したい自主活動】

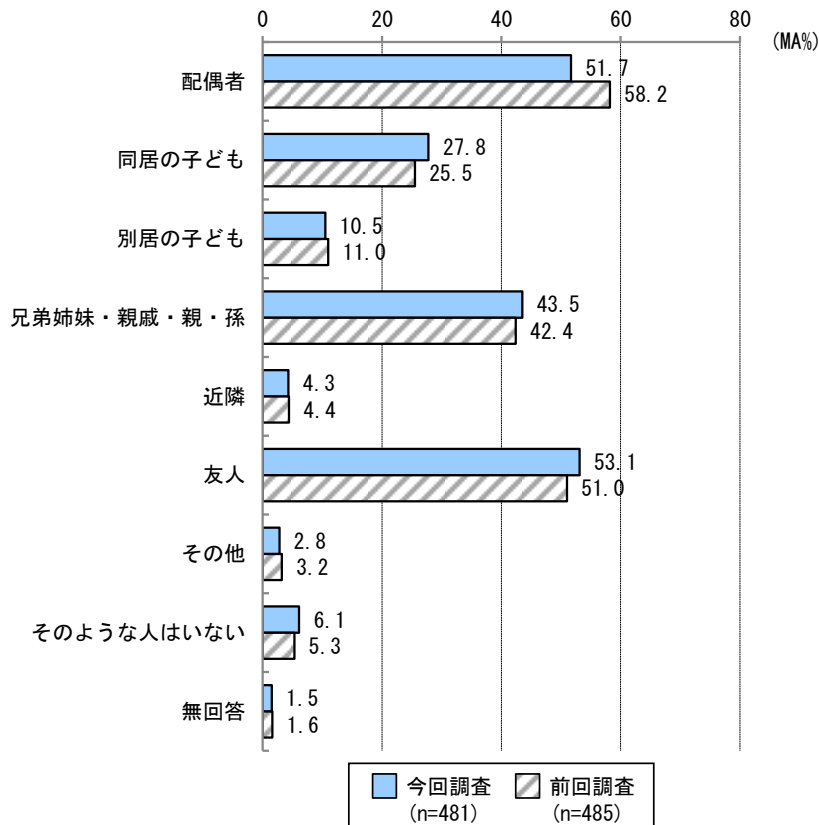


(4) たすけあいの状況

問4 Q4 あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします。
<(1)から(4)までそれぞれあてはまるものすべてに○>

① あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人

【図 4-4① 心配事や愚痴を聞いてくれる人】



心配事や愚痴を聞いてくれる人については、「友人」が 53.1%で最も多く、次いで「配偶者」が 51.7%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 43.5%となっています。

前回調査と比較すると、「配偶者」が 6.5 ポイント低くなっています。(図 4-4①)

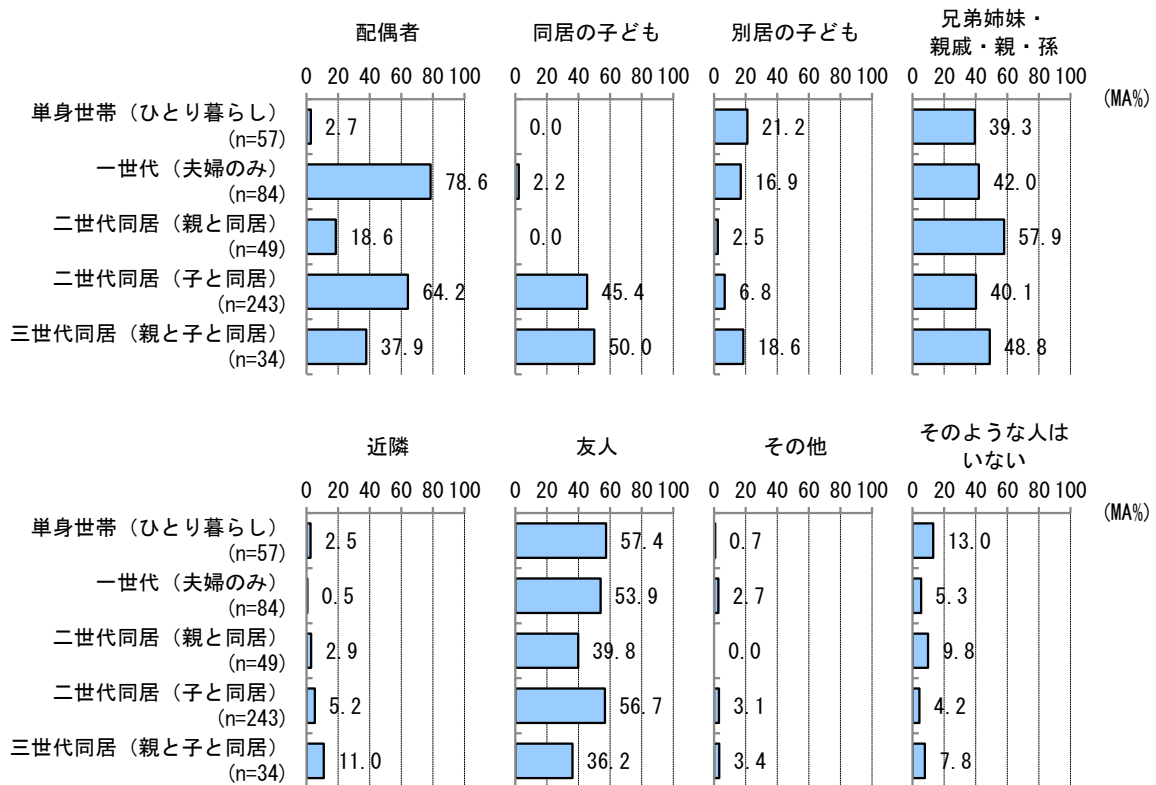
家族構成別でみると、単身世帯（ひとり暮らし）は「友人」が57.4%で最も多く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が39.3%となっています。

一世代（夫婦のみ）と二世代同居（子と同居）では、「配偶者」（夫婦のみ 78.6%、子と同居 64.2%）が最も多く、これに次いで「友人」（夫婦のみ 53.9%、子と同居 56.7%）となっています。

二世代同居（親と同居）は「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が57.9%で最も多く、次いで「友人」が39.8%となっています。

三世代同居（親と子と同居）は「同居の子ども」が50.0%で最も多く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が48.8%となっています。（図 4-4①-1）

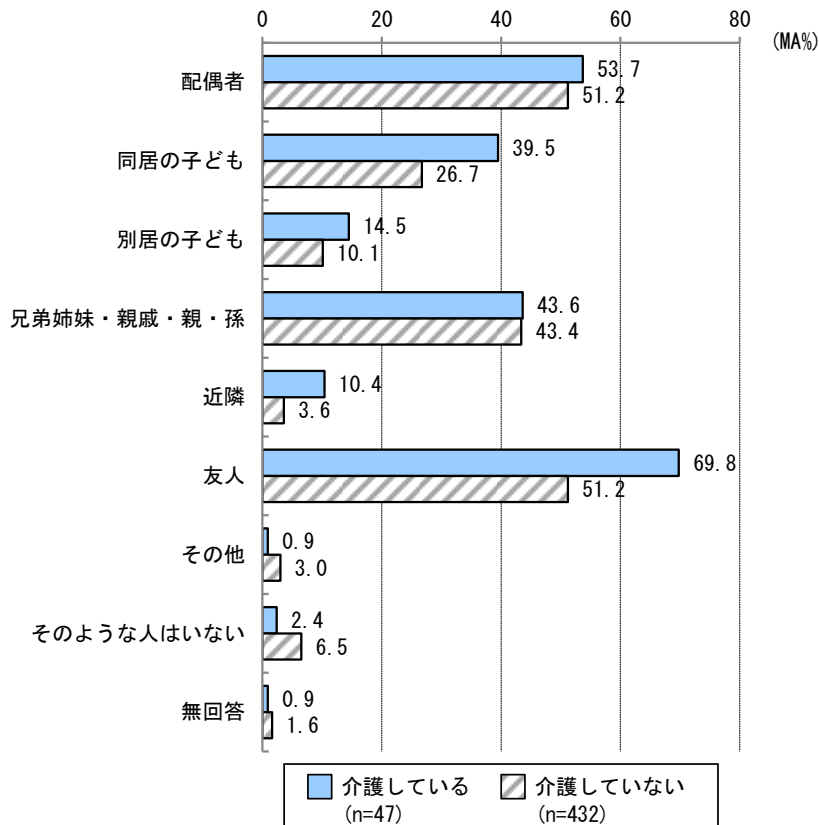
【図 4-4①-1 家族構成別 心配事や愚痴を聞いてくれる人】



※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世代同居（子と孫と同居）」「その他」の母数(n=10未満)は少ないので割愛します。

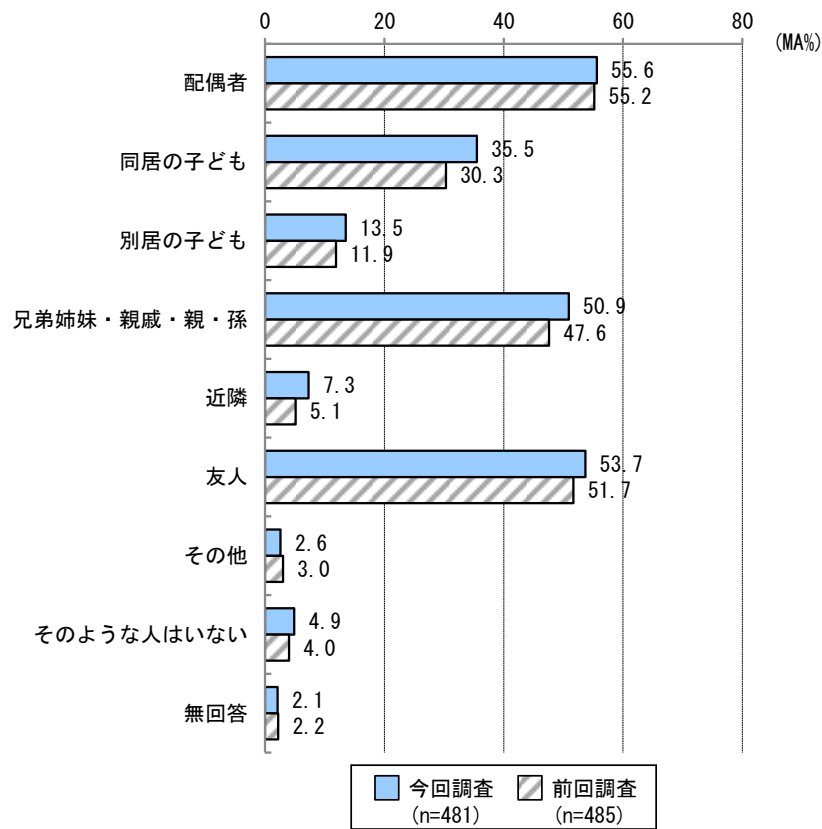
家族への介護有無別でみると、介護している人では、「友人」が69.8%で最も多く、次いで「配偶者」が53.7%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が43.6%となっています。また、介護していない人と比べて、「友人」は18.6ポイント、「同居の子ども」は12.8ポイント、「近隣」は6.8ポイント高くなっています。(図4-4①-2)

【図4-4①-2 家族への介護有無別 心配事や愚痴を聞いてくれる人】



② 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人

【図 4-4② 心配事や愚痴を聞いてあげる人】

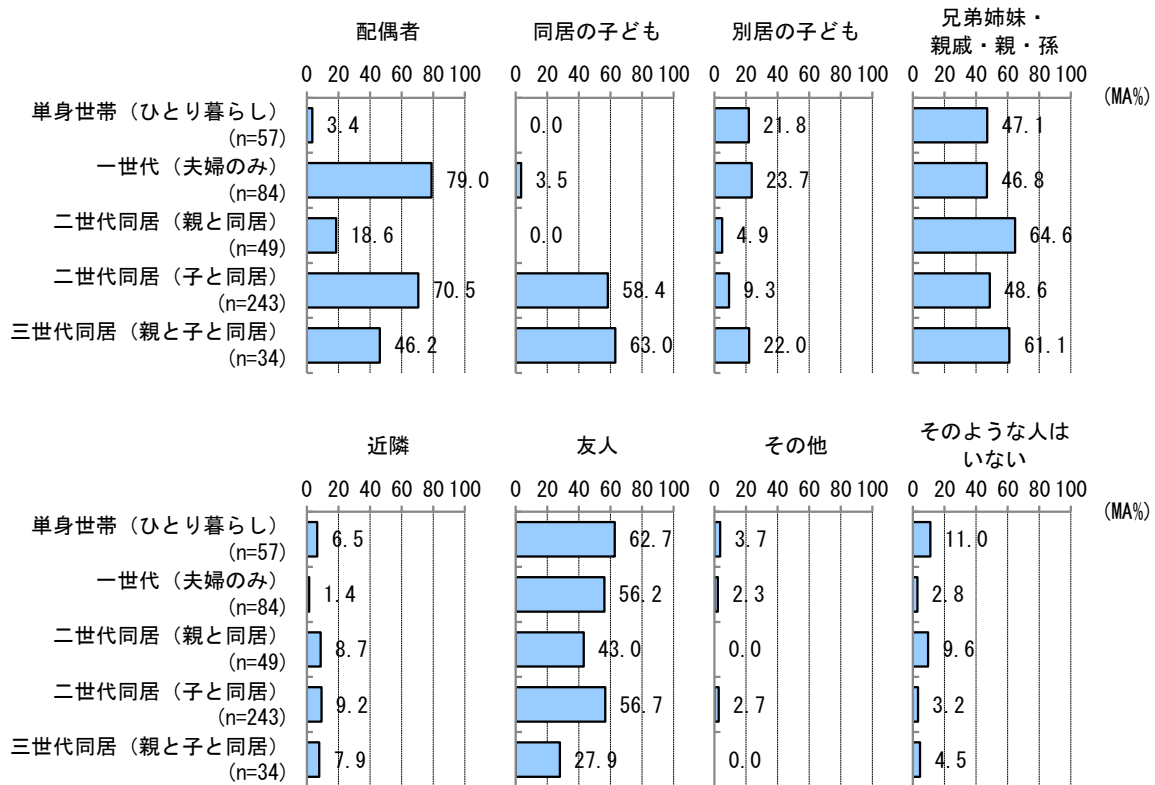


心配事や愚痴を聞いてあげる人については、「配偶者」が 55.6%で最も多く、次いで「友人」が 53.7%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 50.9%となっています。

前回調査と比較すると、「同居の子ども」が 5.2 ポイント、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 3.3 ポイント高くなっています。(図 4-4②)

家族構成別でみると、【心配事や愚痴を聞いてくれる人（図 4-4①-1）】とほぼ同様の傾向がみられ、単身世帯（ひとり暮らし）は「友人」が 62.7%で最も多く、一世代（夫婦のみ）と二世帯同居（子と同居）は「配偶者」が、それぞれ 79.0%、70.5%となっており、二世帯同居（親と同居）は「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 64.6%、三世帯同居（親と子と同居）は「同居の子ども」が 63.0%で、それぞれ最も多くなっています。（図 4-4②-1）

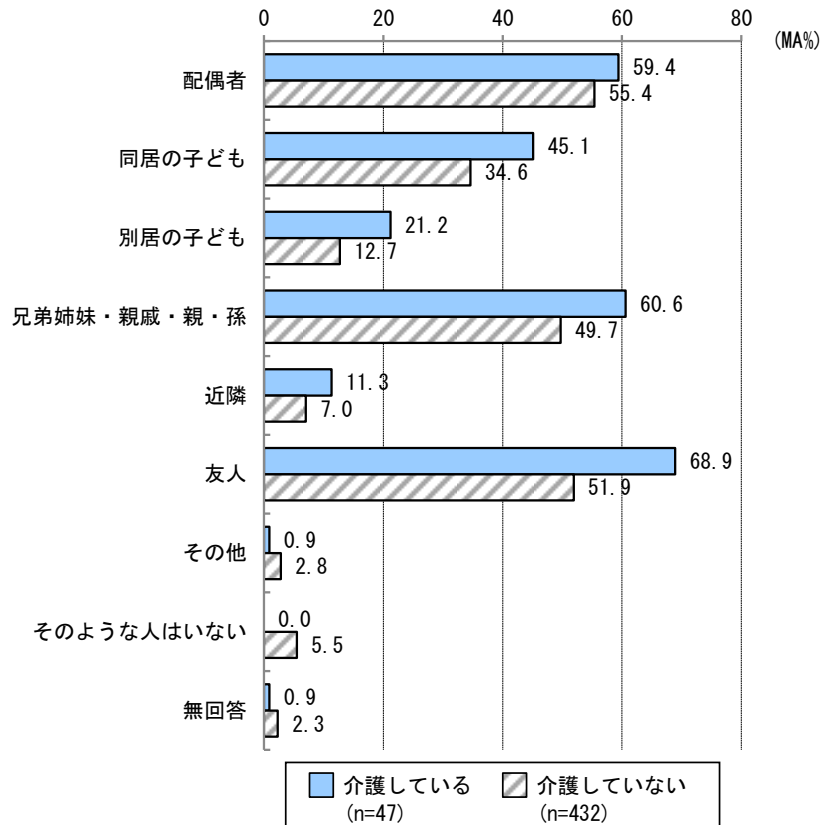
【図 4-4②-1 家族構成別 心配事や愚痴を聞いてあげる人】



※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世帯同居（子と孫と同居）」「その他」の母数(n=10未満)は少ないので割愛します。

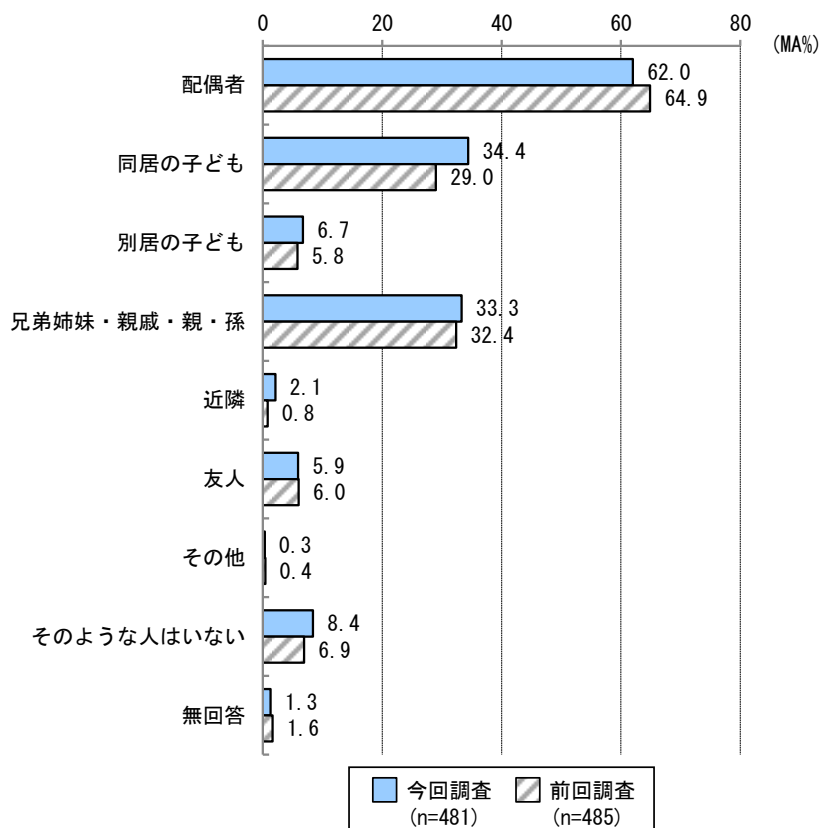
家族への介護有無別でみると、介護している人では、「友人」が68.9%で最も多く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が60.6%、「配偶者」が59.4%となっています。また、介護していない人と比べて、「友人」は17.0ポイント、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」は10.9ポイント、「同居の子ども」は10.5ポイント、「別居の子ども」は8.5ポイント高くなっています。(図4-4②-2)

【図4-4②-2 家族への介護有無別 心配事や愚痴を聞いてあげる人】



③ あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人

【図 4-4③ 看病や世話をしてくれる人】



病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人については、「配偶者」が 62.0%で最も多く、次いで「同居の子ども」が 34.4%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 33.3%となっています。

前回調査と比較すると、「同居の子ども」が 5.4 ポイント高くなっています。(図 4-4③)

家族構成別でみると、単身世帯（ひとり暮らし）は「そのような人はいない」が42.5%で最も多く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が36.7%、「別居の子ども」が16.5%となっています。

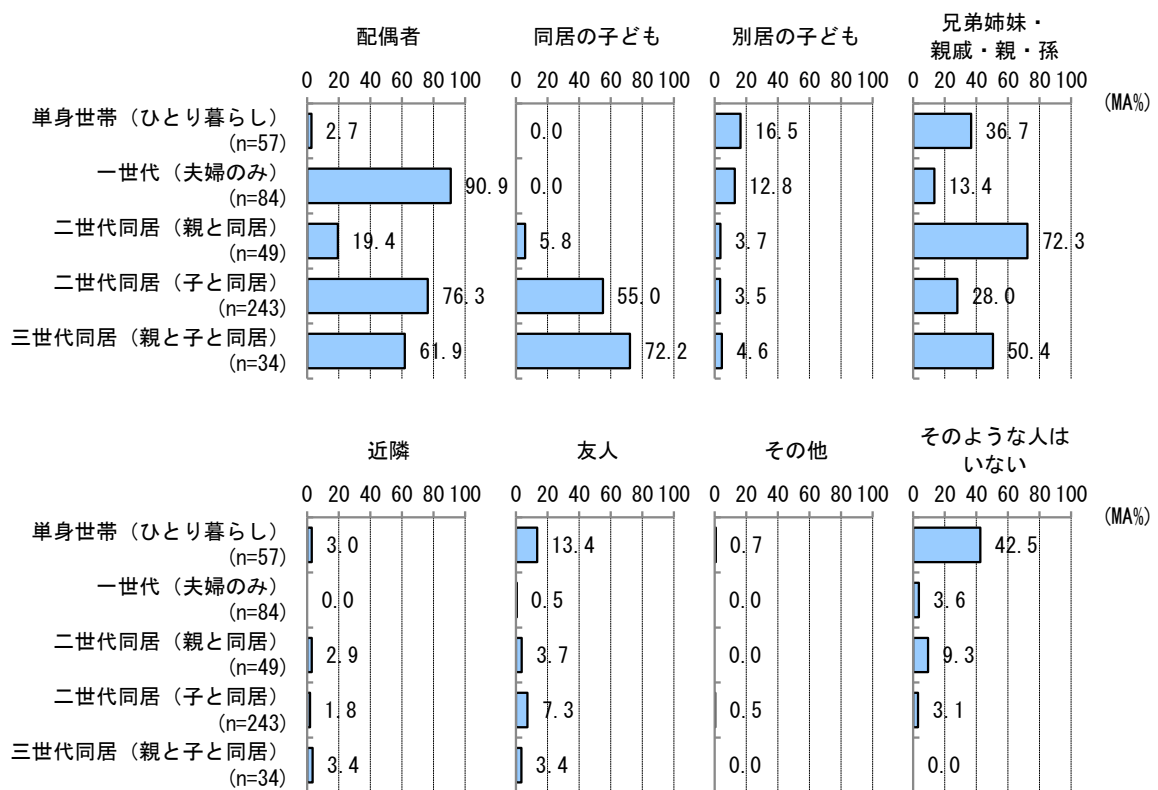
一世代（夫婦のみ）は「配偶者」が90.9%で最も多く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が13.4%、「別居の子ども」が12.8%となっています。

二世世代同居世代（親と同居）は「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が72.3%で最も多く、次いで「配偶者」が19.4%、「同居の子ども」が5.8%となっています。

二世世代同居（子と同居）は「配偶者」が76.3%で最も多く、次いで「同居の子ども」が55.0%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が28.0%となっています。

三世世代同居（親と子と同居）は「同居の子ども」が72.2%で最も多く、次いで「配偶者」が61.9%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が50.4%となっています。（図4-4③-1）

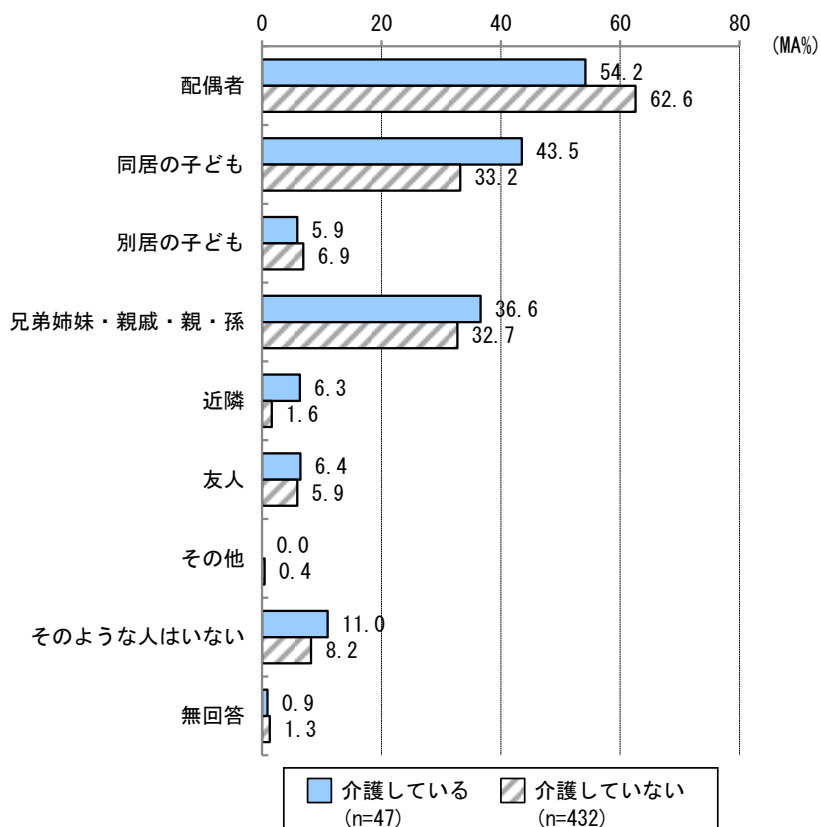
【図4-4③-1 家族構成別 看病や世話をしてくれる人】



※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世世代同居（子と孫と同居）」「その他」の母数(n=10未満)は少ないので割愛します。

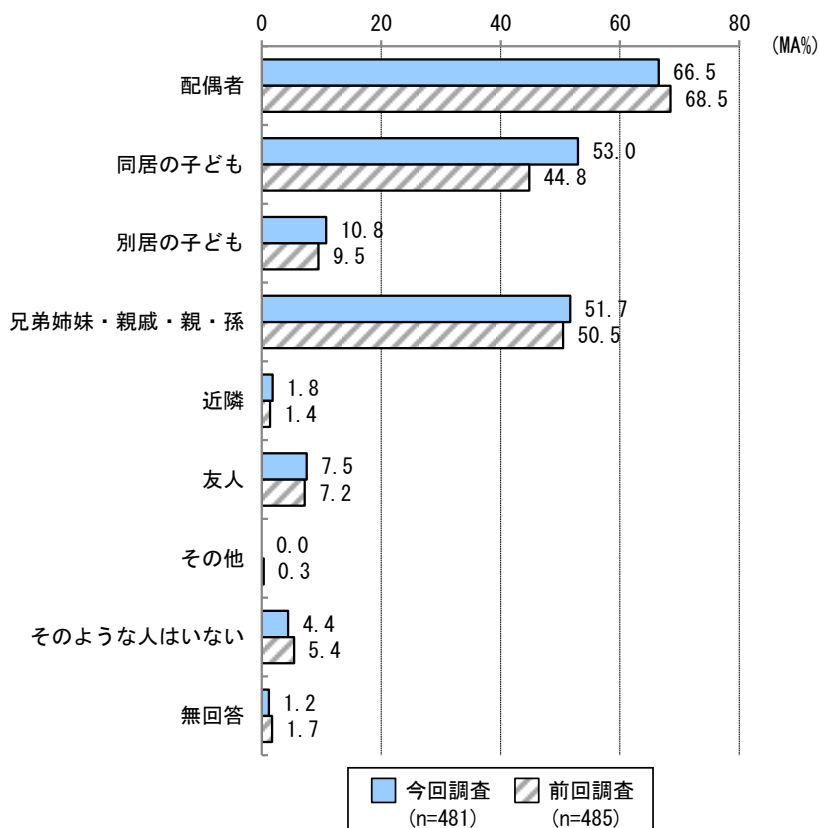
家族への介護有無別でみると、介護している人では、「配偶者」が 54.2%で最も多く、次いで「同居の子ども」が 43.5%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 36.6%となっています。また、介護していない人と比べて、「同居の子ども」は 10.3 ポイント高くなっていますが、「配偶者」が 8.4 ポイント低くなっています。(図 4-4③-2)

【図 4-4③-2 家族への介護有無別 看病や世話をしてくれる人】



④ 反対に、あなたが看病や世話をしあげる人

【図 4-4④ 看病や世話をしあげる人】



看病や世話をしあげる人については、「配偶者」が 66.5%で最も多く、次いで「同居の子ども」が 53.0%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 51.7%となっています。

前回調査と比較すると、「同居の子ども」が 8.2 ポイント高くなっています。(図 4-4④)

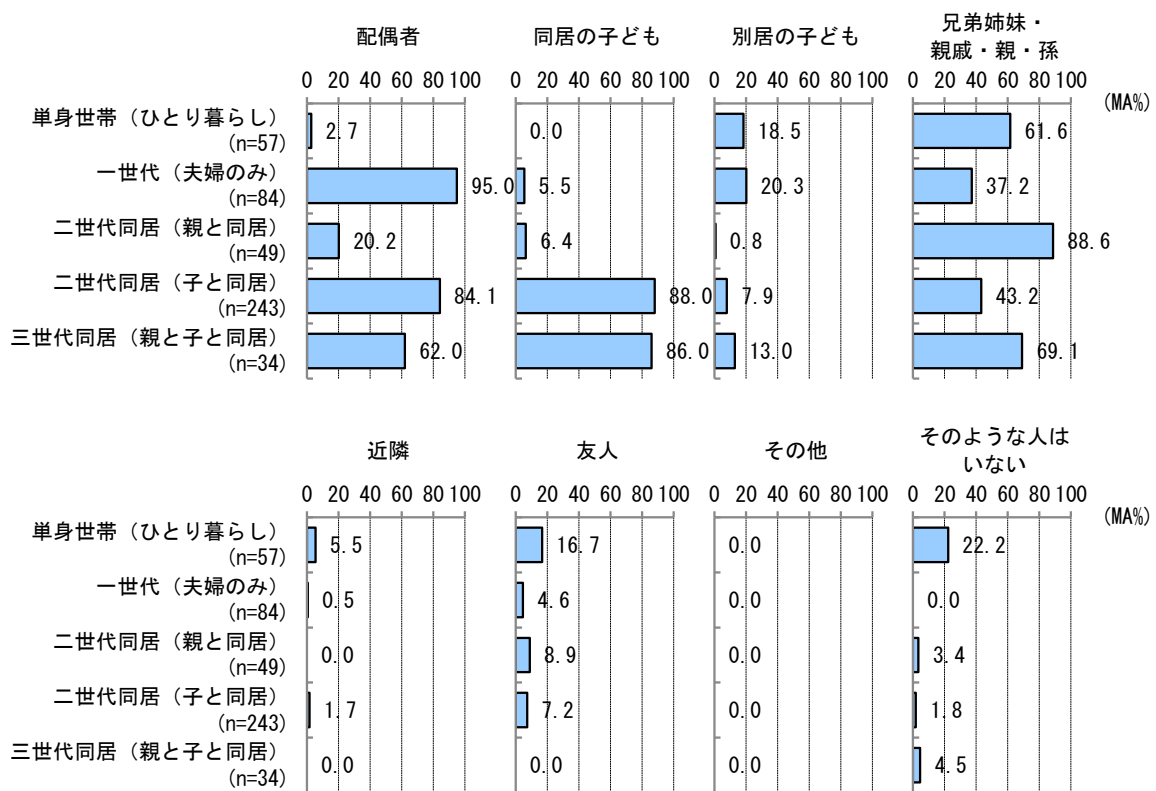
家族構成別でみると、単身世帯（ひとり暮らし）と二世世代同居（親と同居）は「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が、それぞれ 61.6%、88.6%で最も多くなっています。これに次いで、単身世帯（ひとり暮らし）は「そのような人はいない」が 22.2%、二世世代同居（親と同居）は「配偶者」が 20.2%となっています。

一世代（夫婦のみ）は「配偶者」が 95.0%で最も多く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 37.2%となっています。

二世世代同居（子と同居）と三世世代同居（親と子と同居）では、「同居の子ども」が、それぞれ 88.0%、86.0%で最も多くなっています。これに次いで、二世世代同居（子と同居）は「配偶者」が 84.1%、三世世代同居（親と子と同居）は「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 69.1%となっています。

（図 4-4④-1）

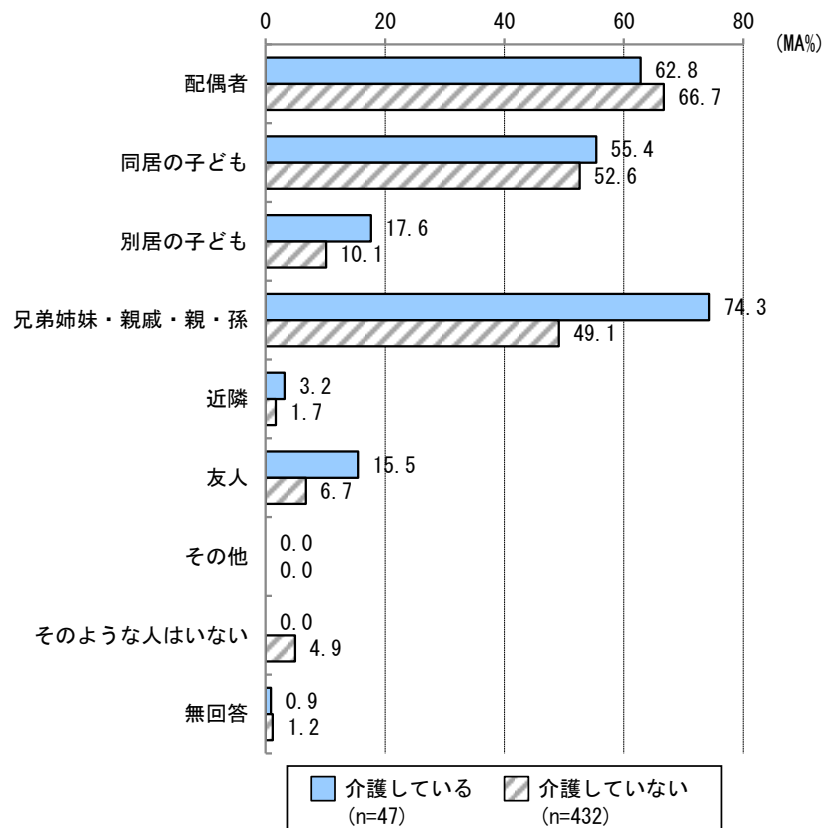
【図 4-4④-1 家族構成別 看病や世話をしあける人】



※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世世代同居（子と孫と同居）」「その他」の母数(n=10 未満)は少ないので割愛します。

家族への介護有無別でみると、介護している人では、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 74.3%で最も多く、次いで「配偶者」が 62.8%、「同居の子ども」が 55.4%となっています。また、介護していない人と比べて、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」は 25.2 ポイント、「友人」は 8.8 ポイント、「別居の子ども」は 7.5 ポイント高くなっています。(図 4-4④-2)

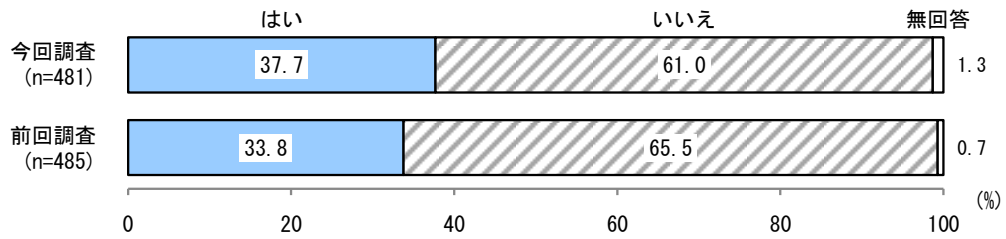
【図 4-4④-2 家族への介護有無別 看病や世話をしあける人】



（５）地域包括支援センターの認知度

問４Ｑ５ あなたは地域包括支援センター（愛称：高齢サポート）を知っていますか。＜○は１つ＞

【図 4-5 地域包括支援センターの認知度】

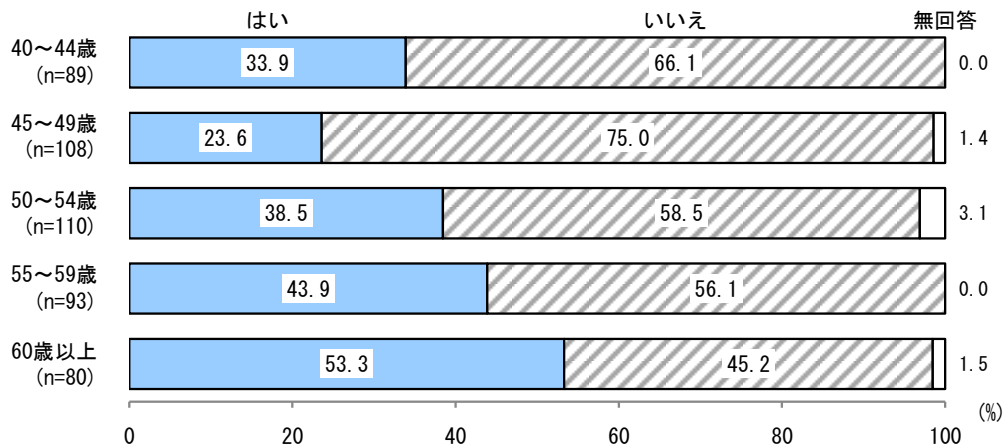


地域包括支援センターを知っているかについては、「はい」が 37.7%、「いいえ」が 61.0%となっています。

前回調査と比較すると、「はい」が 3.9 ポイント高くなっています。（図 4-5）

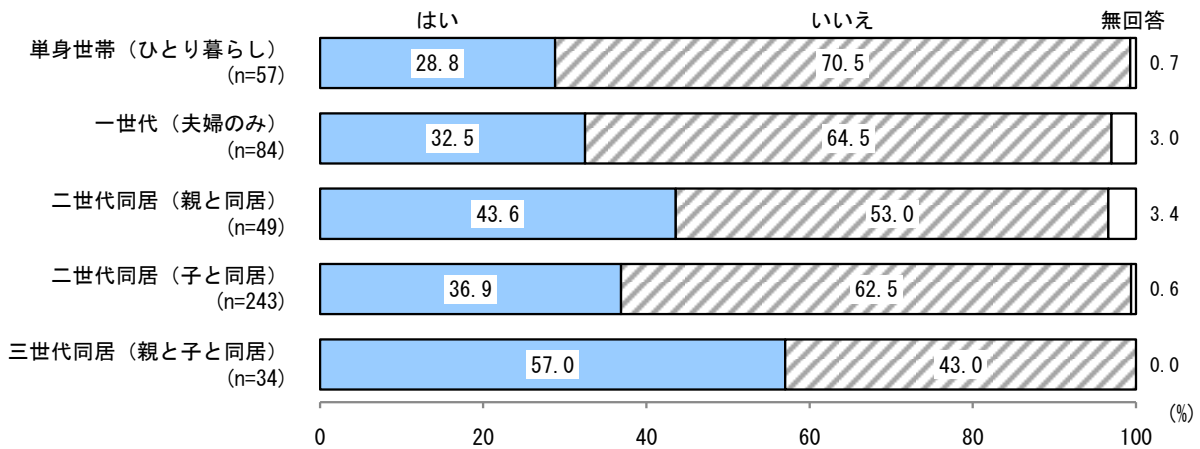
年齢別でみると、「はい（知っている）」の割合は、60 歳以上が 53.3%で最も高く、次いで 55～59 歳が 43.9%、50～54 歳が 38.5%となっていますが、45～49 歳は 23.6%と他の年代と比べて低い割合になっています。（図 4-5-1）

【図 4-5-1 年齢別 地域包括支援センターの認知度】



家族構成別でみると、「はい（知っている）」の割合は、三世代同居（親と子と同居）が 57.0% で最も高く、次いで二世代同居（親と同居）が 43.6% となっており、親と同居している世帯に認知度の高い傾向がみられます。（図 4-5-2）

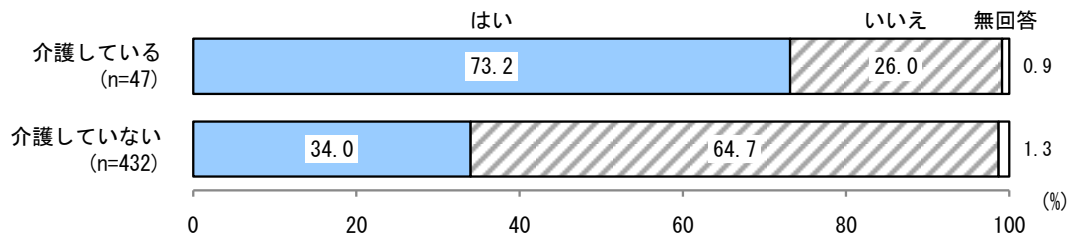
【図 4-5-2 家族構成別 地域包括支援センターの認知度】



※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世代同居（子と孫と同居）」「その他」の母数(n=10 未満)は少ないので割愛します。

家族への介護有無別でみると、「はい（知っている）」の割合は、介護している人が 73.2% に対し、介護していない人は 34.0% で、介護している人のほうが 39.2 ポイント高くなっています。（図 4-5-3）

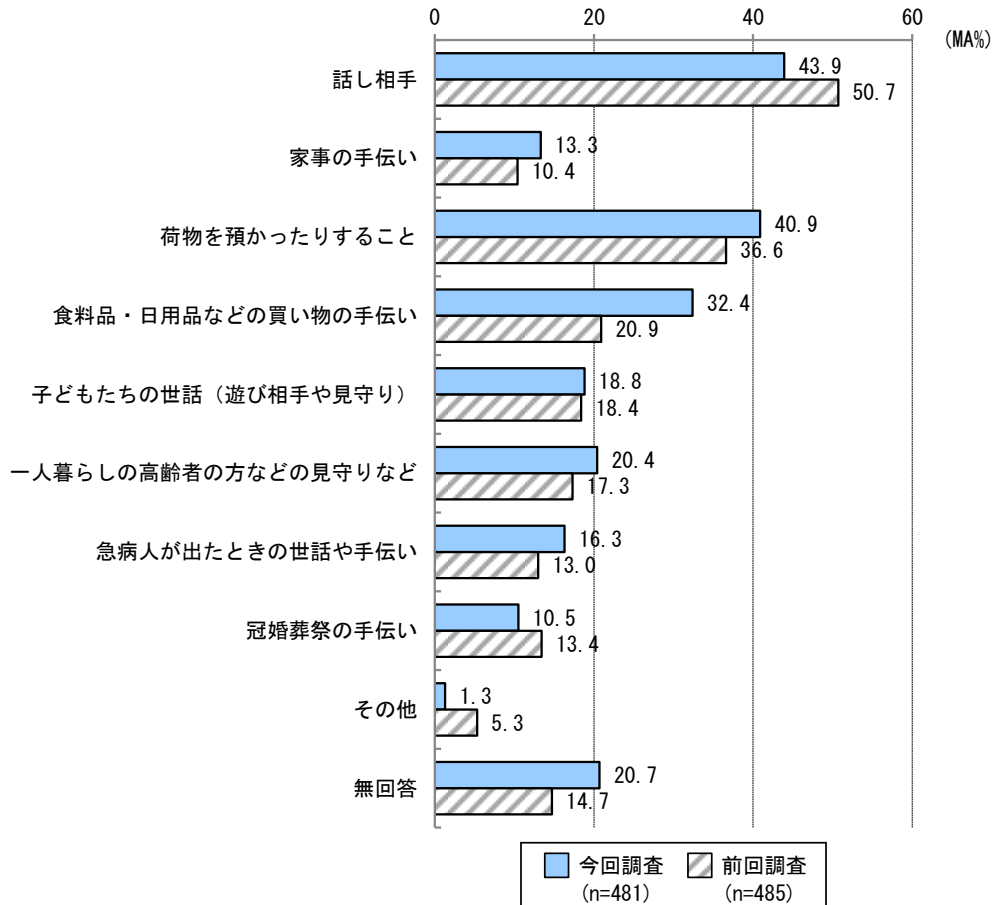
【図 4-5-3 家族への介護有無別 地域包括支援センターの認知度】



(6) 近所の人に手助けや協力ができること

問4 Q6 あなた自身のご近所で手助けや協力ができることがありますか。
＜あてはまるものすべてに○＞

【図 4-6 近所の人に手助けや協力ができること】

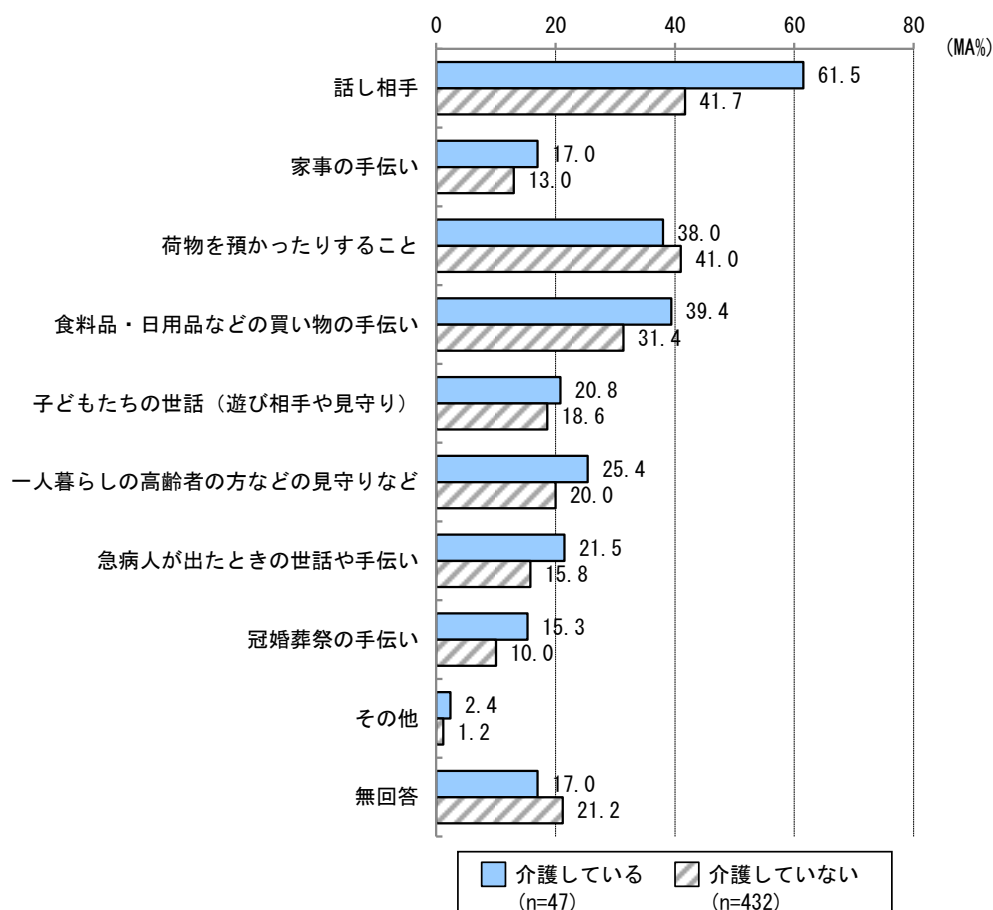


近所の人に手助けや協力ができることについては、「話し相手」が 43.9%で最も多く、次いで「荷物を預かったりすること」が 40.9%、「食料品・日用品などの買い物の手伝い」が 32.4%となっています。

前回調査と比較すると、「話し相手」が 6.8 ポイント低くなっており、「食料品・日用品などの買い物の手伝い」が 11.5 ポイント高くなっています。(図 4-6)

家族への介護有無別でみると、介護している人では、「話し相手」が61.5%で最も多く、次いで「食料品・日用品などの買い物の手伝い」が39.4%、「荷物を預かったりすること」が38.0%となっています。また、「話し相手」では、介護していない人（41.7%）と比べて19.8ポイント高い割合になっています。（図4-6-1）

【図 4-6-1 家族への介護有無別 近所の人に手助けや協力ができること】

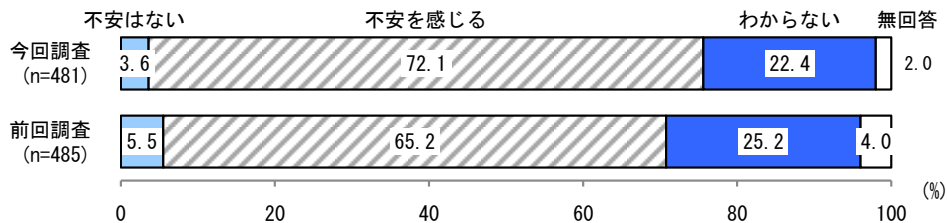


5 高齢期について

(1) 老後の生活に対する不安感

問5 Q1 あなたは、老後の生活に不安を感じていますか。＜○は1つ＞

【図 5-1 老後の生活に対する不安感】

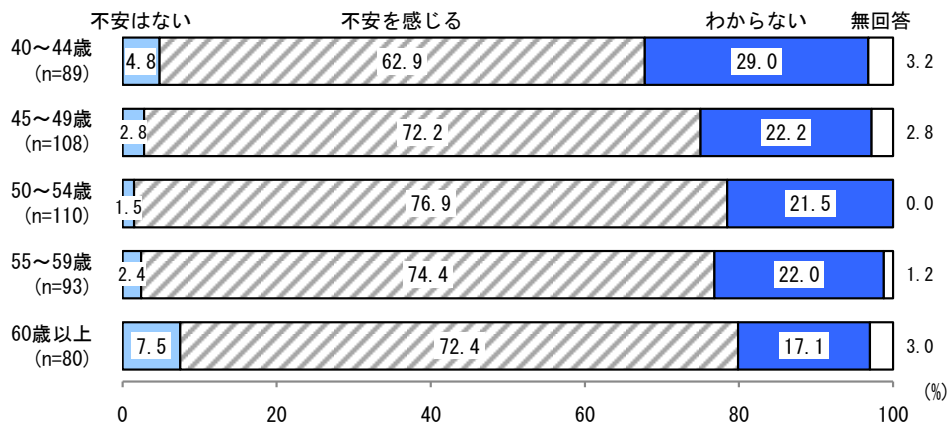


老後の生活に不安を感じているのかについては、「不安はない」が3.6%、「不安を感じる」が72.1%、「わからない」が22.4%となっています。

前回調査と比較すると、「不安を感じる」が6.9ポイント高くなっています。(図 5-1)

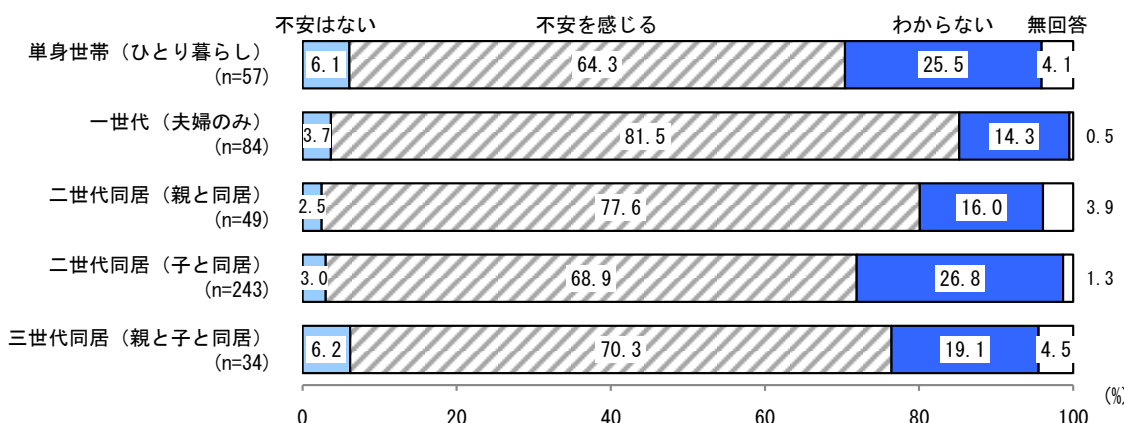
年齢別でみると、「不安を感じる」割合では、40～44歳が62.9%に対し、45歳以降になると約10ポイント高くなっています。(図5-1-1)

【図 5-1-1 年齢別 老後の生活に対する不安感】



家族構成別でみると、「不安を感じる」割合では、一世代（夫婦のみ）が81.5%で最も高く、次いで二世帯同居（親と同居）が77.6%となっています。また、単身世帯（ひとり暮らし）は64.3%と比較的低い割合になっています。(図 5-1-2)

【図 5-1-2 家族構成別 老後の生活に対する不安感】

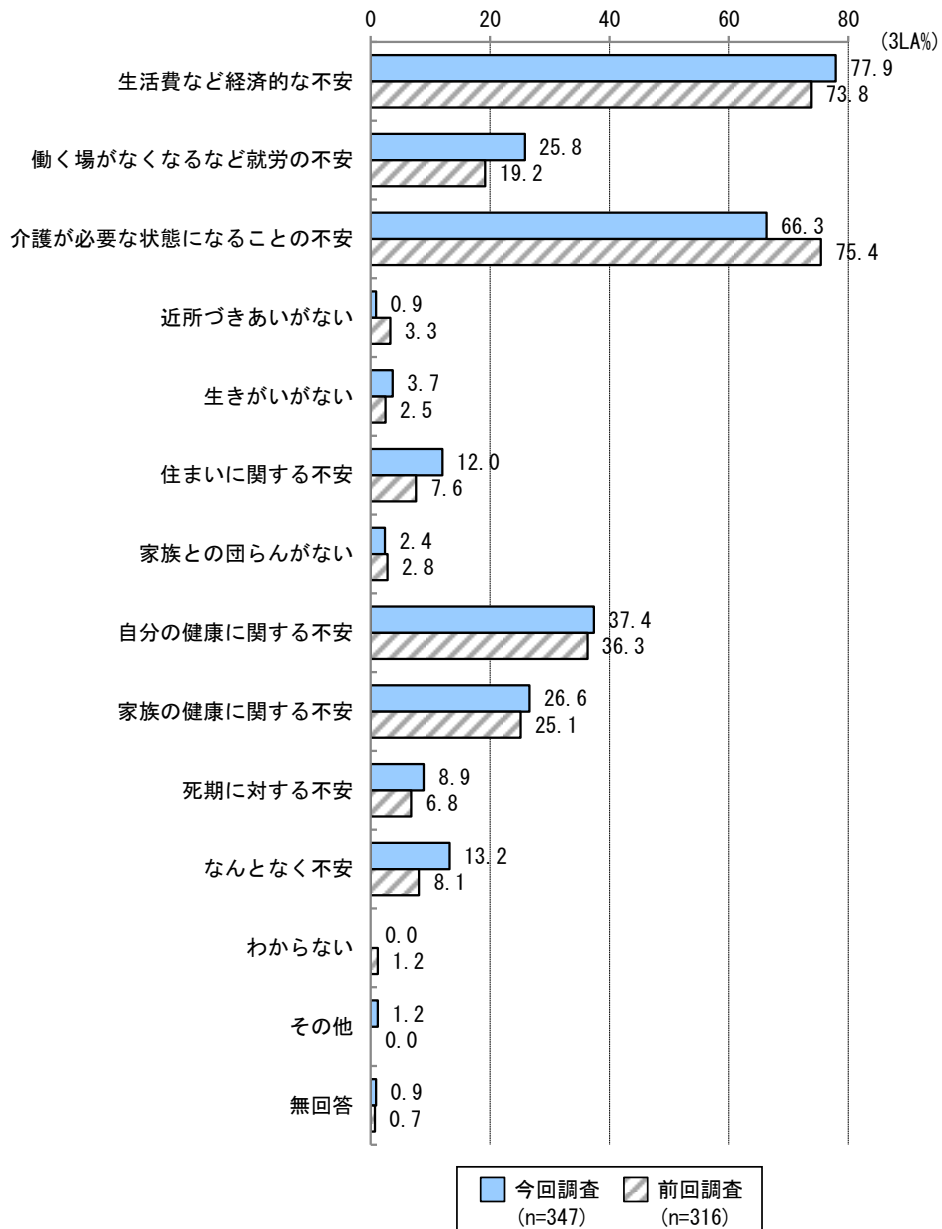


※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世帯同居（子と孫と同居）」「その他」の母数(n=10未満)は少ないので割愛します。

(2) 老後の生活に不安を感じること

問5 Q1-1 Q1で「不安を感じる」と回答した方にお聞きします。
どんなことに不安を感じますか。＜〇は3つまで＞

【図 5-2 老後の生活に不安を感じること】

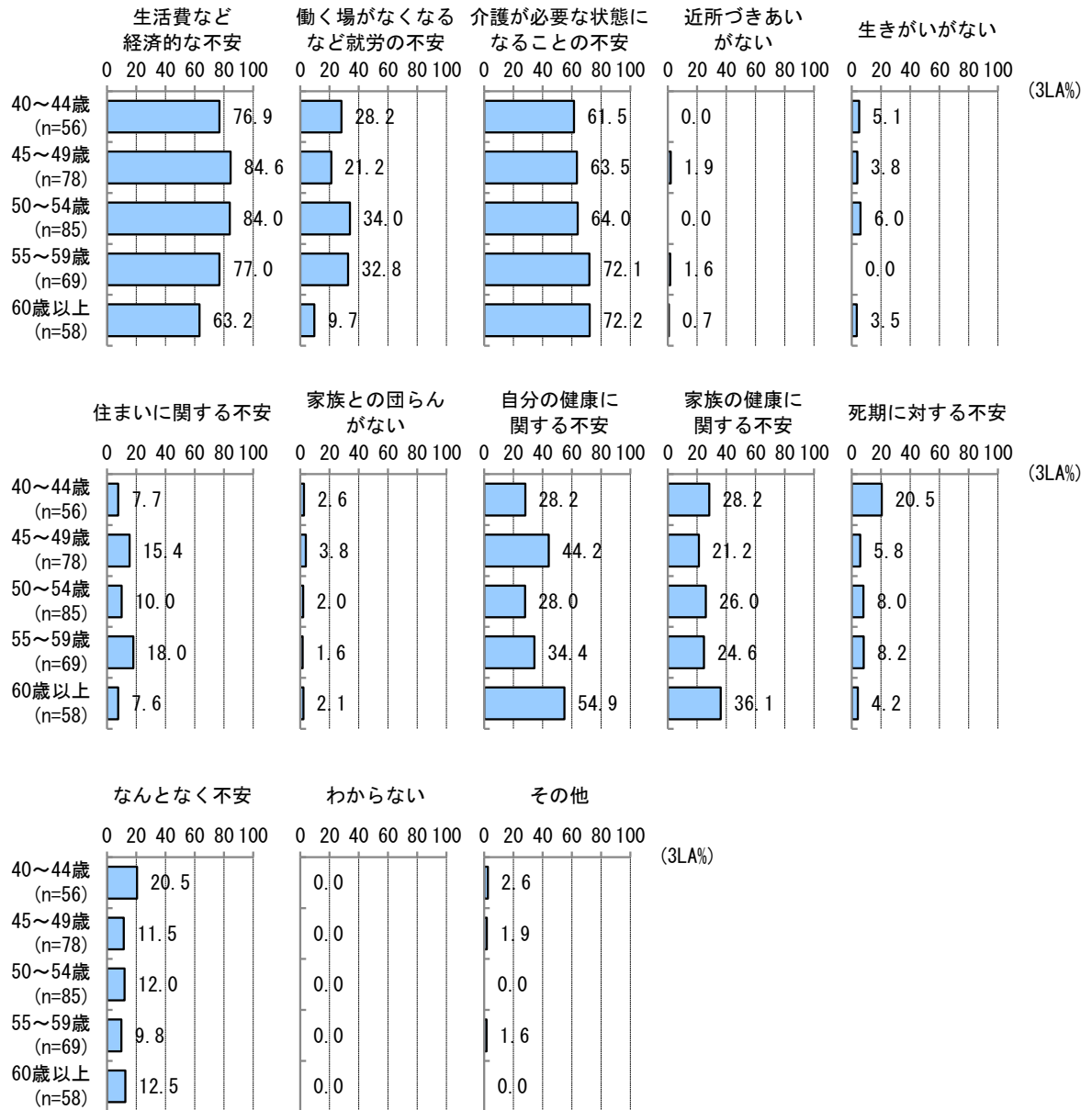


老後の生活に不安を感じると回答した人に、どんなことに不安を感じるかたずねたところ、「生活費など経済的な不安」が77.9%で最も多く、次いで「介護が必要な状態になることの不安」が66.3%、「自分の健康に関する不安」が37.4%となっています。

前回調査と比較すると、「働く場がなくなるなど就労の不安」が6.6ポイント、「なんとなく不安」が5.1ポイント、「住まいに関する不安」が4.4ポイント、「生活費など経済的な不安」が4.1ポイント高くなっています。(図 5-2)

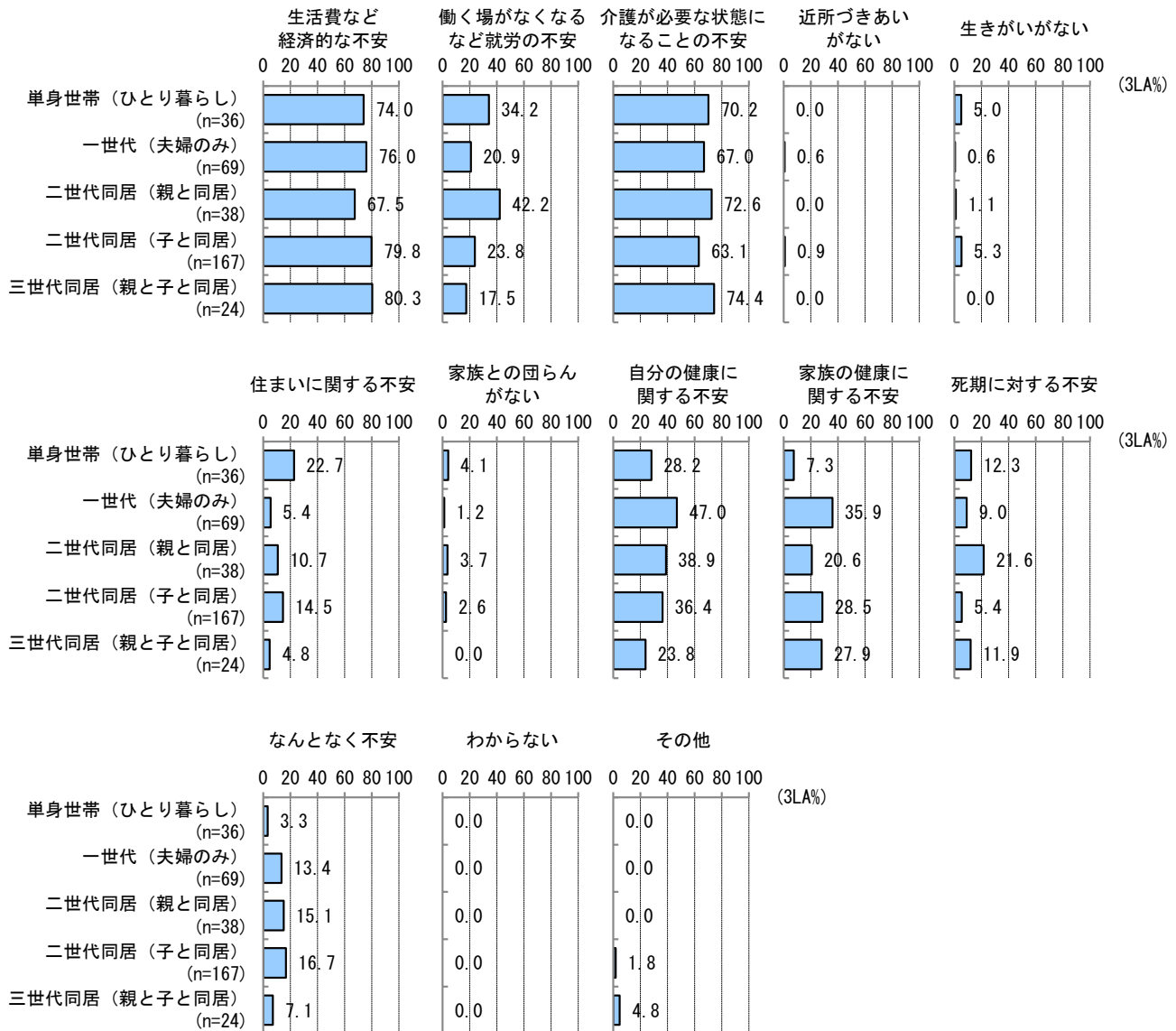
年齢別でみると、年代が上がるほど「介護が必要な状態になることの不安」が高くなっており、60歳以上になると「自分の健康に関する不安」が54.9%、「家族の健康に関する不安」が36.1%と比較的高い割合になっています。また、40～44歳は「死期に対する不安」が20.5%で他の年代と比べて高い割合になっています。また、50歳代では「働く場がなくなるなど就労の不安」が3割台となっており、他の年代と比べて高い割合になっています。(図5-2-1)

【図5-2-1 年齢別 老後の生活に不安を感じること】



家族構成別でみると、いずれの世帯でも「生活費など経済的な不安」、「介護が必要な状態になることの不安」が高い割合になっています。また、単身世帯では「働く場がなくなるなど就労の不安」(34.2%)、「住まいに関する不安」(22.7%)が、二世帯同居(親と同居)では「働く場がなくなるなど就労の不安」が、他の世帯と比べて高い割合になっています。(図 5-2-2)

【図 5-2-2 家族構成別 老後の生活に不安を感じること】

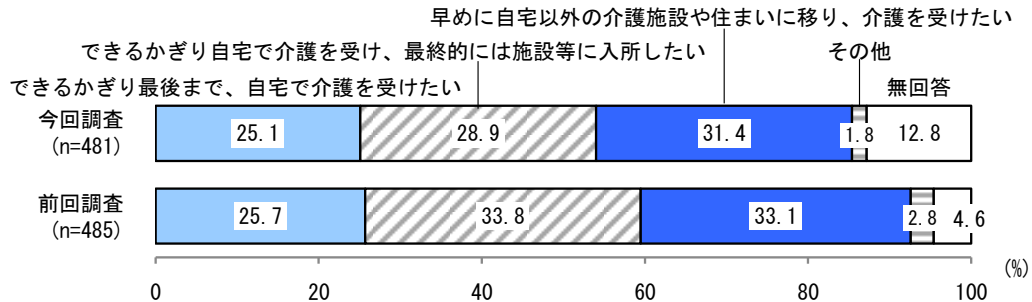


※「一世代 (兄弟姉妹のみ)」「三世帯同居 (子と孫と同居)」「その他」の母数(n=10 未満)は少ないので割愛します。

(3) 自身に介護が必要になった場合に介護を受けたい場所

問5 Q2 あなた自身に介護が必要になった時に、あなたはどこで介護を受けたいですか。
 <○は1つ>

【図 5-3 自身に介護が必要になった場合に介護を受けたい場所】

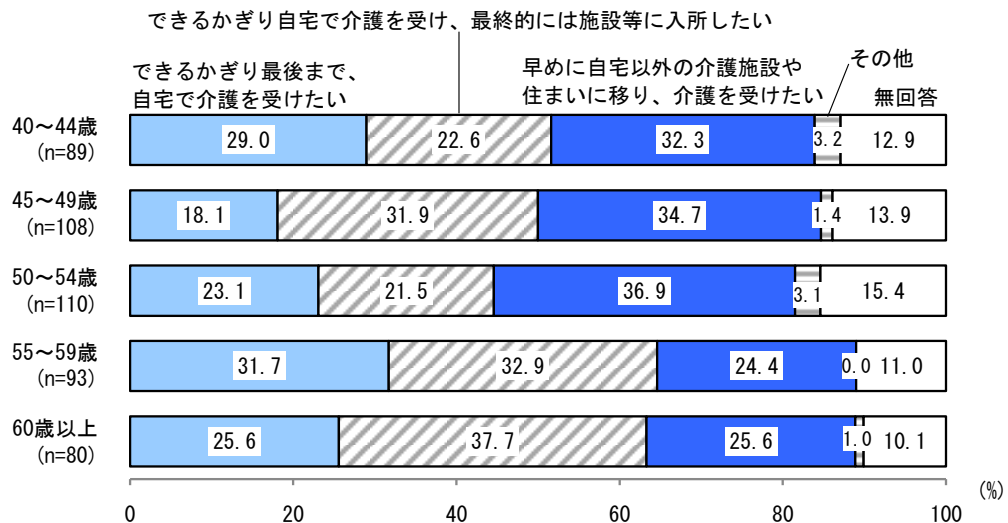


自身に介護が必要になった場合に介護を受けたい場所については、「早めに自宅以外の介護施設や住まいに移り、介護を受けたい」が31.4%で最も多く、次いで「できるかぎり自宅で介護を受け、最終的には施設等に入所したい」が28.9%、「できるかぎり最後まで、自宅で介護を受けたい」が25.1%となっています。

前回調査と比較すると、「できるかぎり自宅で介護を受け、最終的には施設等に入所したい」が4.9ポイント低くなっています。(図 5-3)

年齢別でみると、54歳以下の各年代では「早めに自宅以外の介護施設や住まいに移り、介護を受けたい」が最も多くなっていますが、55歳以降になると「できるかぎり自宅で介護を受け、最終的には施設等に入所したい」が最も多くなっています。(図 5-3-1)

【図 5-3-1 年齢別 自身に介護が必要になった場合に介護を受けたい場所】

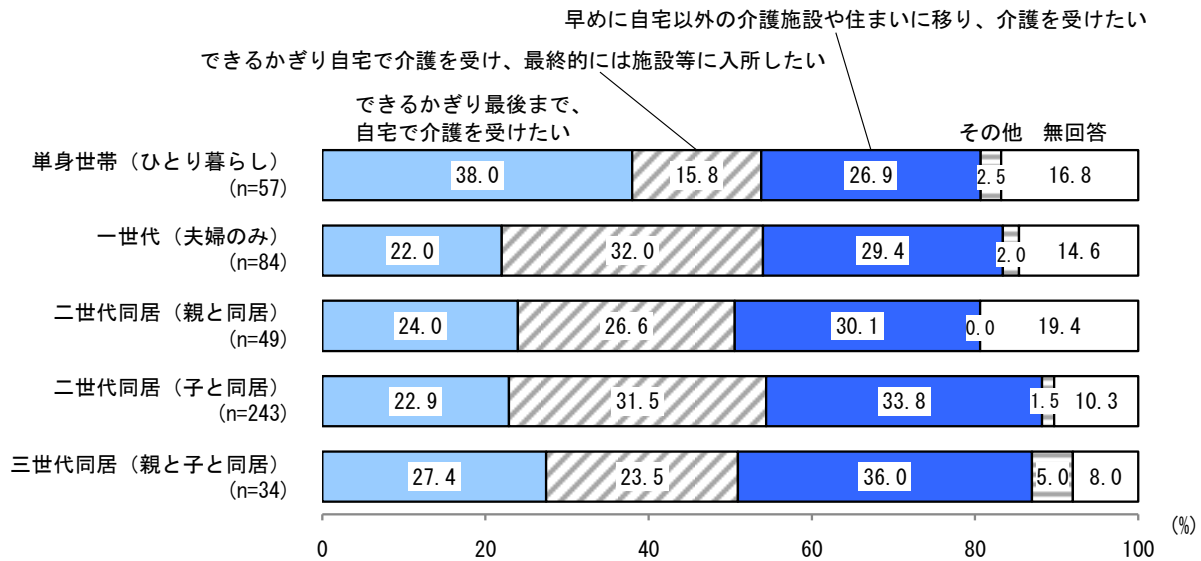


家族構成別でみると、単身世帯（ひとり暮らし）は「できるかぎり最後まで、自宅で介護を受けたい」が38.0%で最も多く、他の世帯と比べて高い割合になっています。

一世代（夫婦のみ）は「できるかぎり自宅で介護を受け、最終的には施設等に入所したい」が32.0%で最も多くなっています。

親や子と同居している二世世代同居・三世世代同居の世帯では「早めに自宅以外の介護施設や住まいに移り、介護を受けたい」（親と同居 30.1%、子と同居 33.8%、親と子と同居 36.0%）が最も多くなっています。（図 5-3-2）

【図 5-3-2 家族構成別 自身に介護が必要になった場合に介護を受けたい場所】

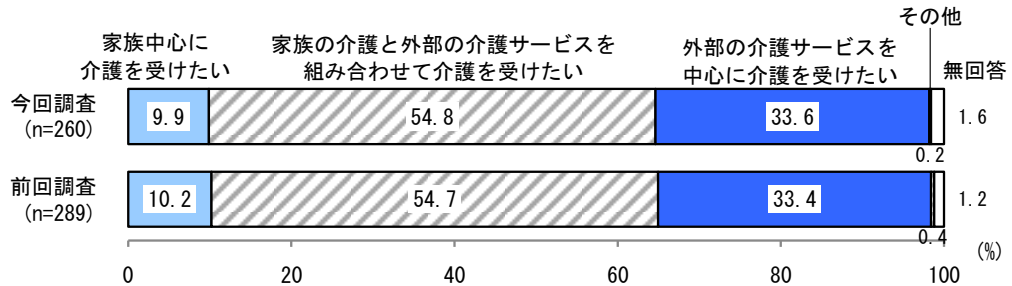


※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世世代同居（子と孫と同居）」「その他」の母数 (n=10 未満) は少ないので割愛します。

(4) 希望する在宅の介護方法

問5 Q2-1 Q2で「できるかぎり自宅で介護を受けたい」と回答した方にお聞きします。
どのような介護を希望しますか。〈〇は1つ〉

【図 5-4 希望する在宅の介護方法】

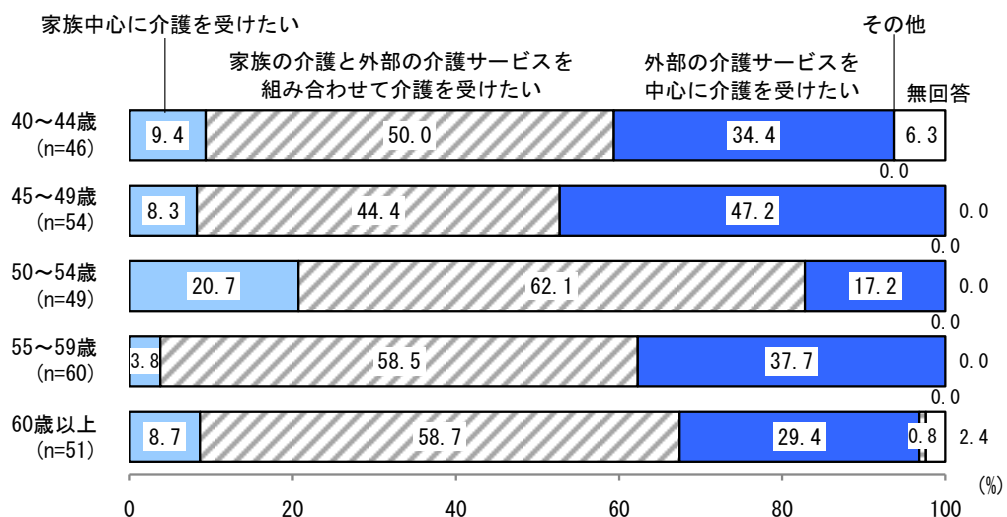


できるかぎり自宅で介護を受けたいと回答した人に、希望する在宅の介護方法をたずねたところ、「家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて介護を受けたい」が54.8%で最も多く、次いで「外部の介護サービスを中心に介護を受けたい」が33.6%、「家族中心に介護を受けたい」が9.9%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。(図 5-4)

年齢別でみると、40～44歳と50歳以降の各年代では「家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて介護を受けたい」が最も多く、特に50歳以降では6割前後になっています。しかし、50～54歳では「家族中心に介護を受けたい」が20.7%で、他の年代と比べて高い割合になっています。また、45～49歳では「外部の介護サービスを中心に介護を受けたい」が47.2%で最も多く、他の年代と比べて高い割合になっています。(図 5-4-1)

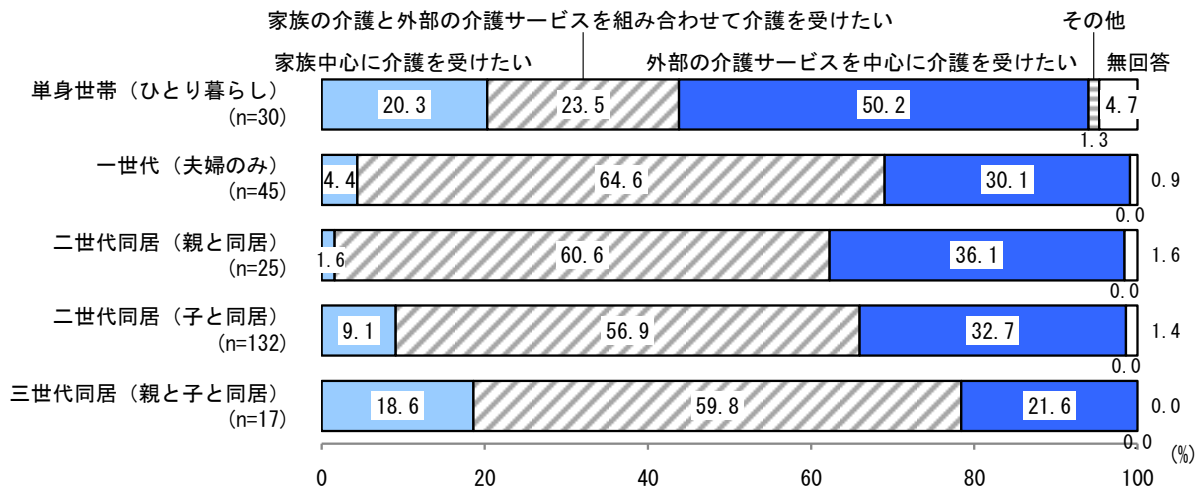
【図 5-4-1 年齢別 希望する在宅の介護方法】



家族構成別でみると、単身世帯（ひとり暮らし）は「外部の介護サービスを中心に介護を受けたい」が50.2%で最も多く、他の世帯と比べて高い割合になっています。また、「家族中心に介護を受けたい」は20.3%となっています。

同居者のいる世帯では「家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて介護を受けたい」が5割以上となっています。また、三世帯同居（親と子と同居）は母数が少ないので一概にはいえませんが、「家族中心に介護を受けたい」が18.6%と高い割合になっています。（図5-4-2）

【図5-4-2 家族構成別 希望する在宅の介護方法】



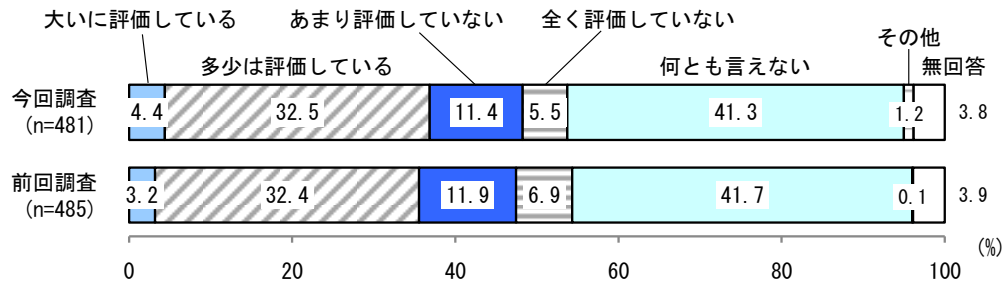
※「一世帯（兄弟姉妹のみ）」「三世帯同居（子と孫と同居）」「その他」の母数(n=10未満)は少ないので割愛します。

6 介護保険制度について

(1) 介護保険制度への評価

問6 Q1 あなたの介護保険制度への評価として、御自身の考えに近いものは次のどれですか。
<○は1つ>

【図 6-1 介護保険制度への評価】

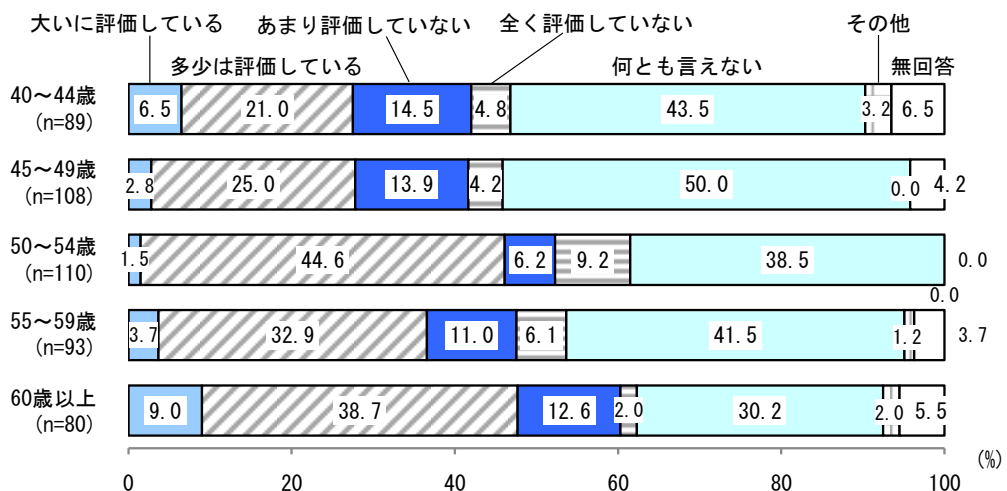


介護保険制度への評価については、「何とも言えない」が41.3%で最も多く、次いで「多少は評価している」が32.5%、「あまり評価していない」が11.4%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。(図 6-1)

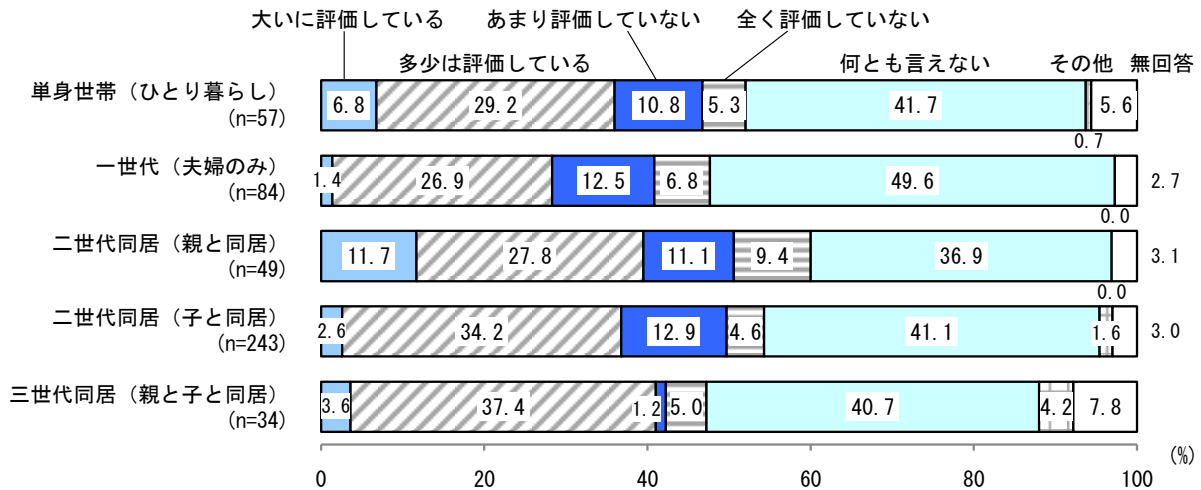
年齢別でみると、「大いに評価している」と「多少は評価している」を合わせた『評価している』割合では、60歳以上が47.7%で最も高く、次いで50～54歳が46.1%となっています。しかし、55～59歳は36.6%、45～49歳は27.8%、40～44歳は27.5%と、年齢が下がるほど低い割合になっています。(図 6-1-1)

【図 6-1-1 年齢別 介護保険制度への評価】



家族構成別でみると、『評価している』割合では、三世帯同居（親と子と同居）が 41.0%で最も高く、次いで二世帯同居（親と同居）が 39.5%、二世帯同居（子と同居）が 36.8%、単身世帯（ひとり暮らし）が 36.0%となっていますが、一世帯（夫婦のみ）は 28.3%と他の世帯と比べて低い割合になっています。（図 6-1-2）

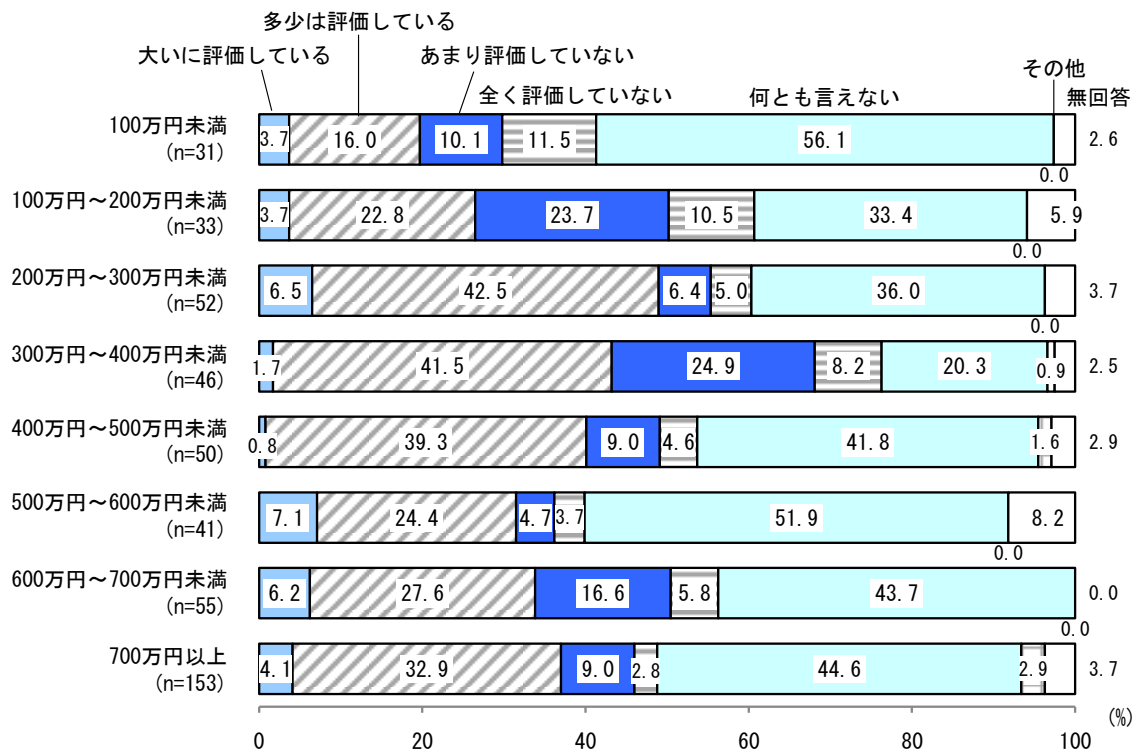
【図 6-1-2 家族構成別 介護保険制度への評価】



※「一世帯（兄弟姉妹のみ）」「三世帯同居（子と孫と同居）」「その他」の母数(n=10 未満)は少ないので割愛します。

世帯の年間総収入別でみると、『評価している』割合では、200 万円～300 万円未満の世帯が 49.0%で最も高く、次いで 300 万円～400 万円の世帯が 43.2%、400 万円～500 万円未満の世帯が 40.1%となっています。なお、200 万円～500 万円未満の世帯が 4 割台、500 万円以上の世帯が 3 割台、200 万円未満の世帯が 2 割台以下となっています。（図 6-1-3）

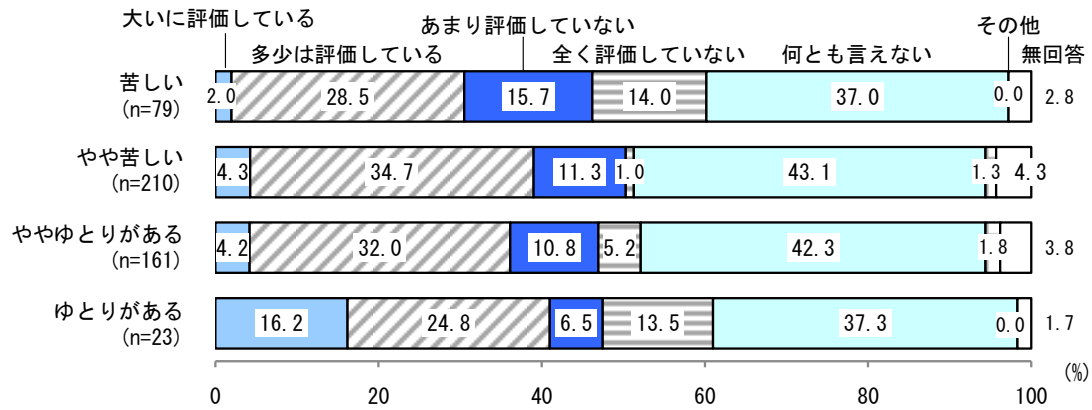
【図 6-1-3 世帯の年間総収入別 介護保険制度への評価】



※「50 万円未満」の母数(n=7)は少ないので、「50 万円～100 万円未満」と合わせて集計しています。

経済状況別でみると、経済的に苦しい人は『評価している』割合が 30.5%に対し、『評価していない（「あまり評価していない」＋「全く評価していない」）』割合は 29.7%と僅差になっています。また、『評価している』割合では、経済的にゆとりがある人が 41.0%で最も高く、次いでやや苦しい人が 39.0%、ややゆとりがある人が 36.2%となっています。（図 6-1-4）

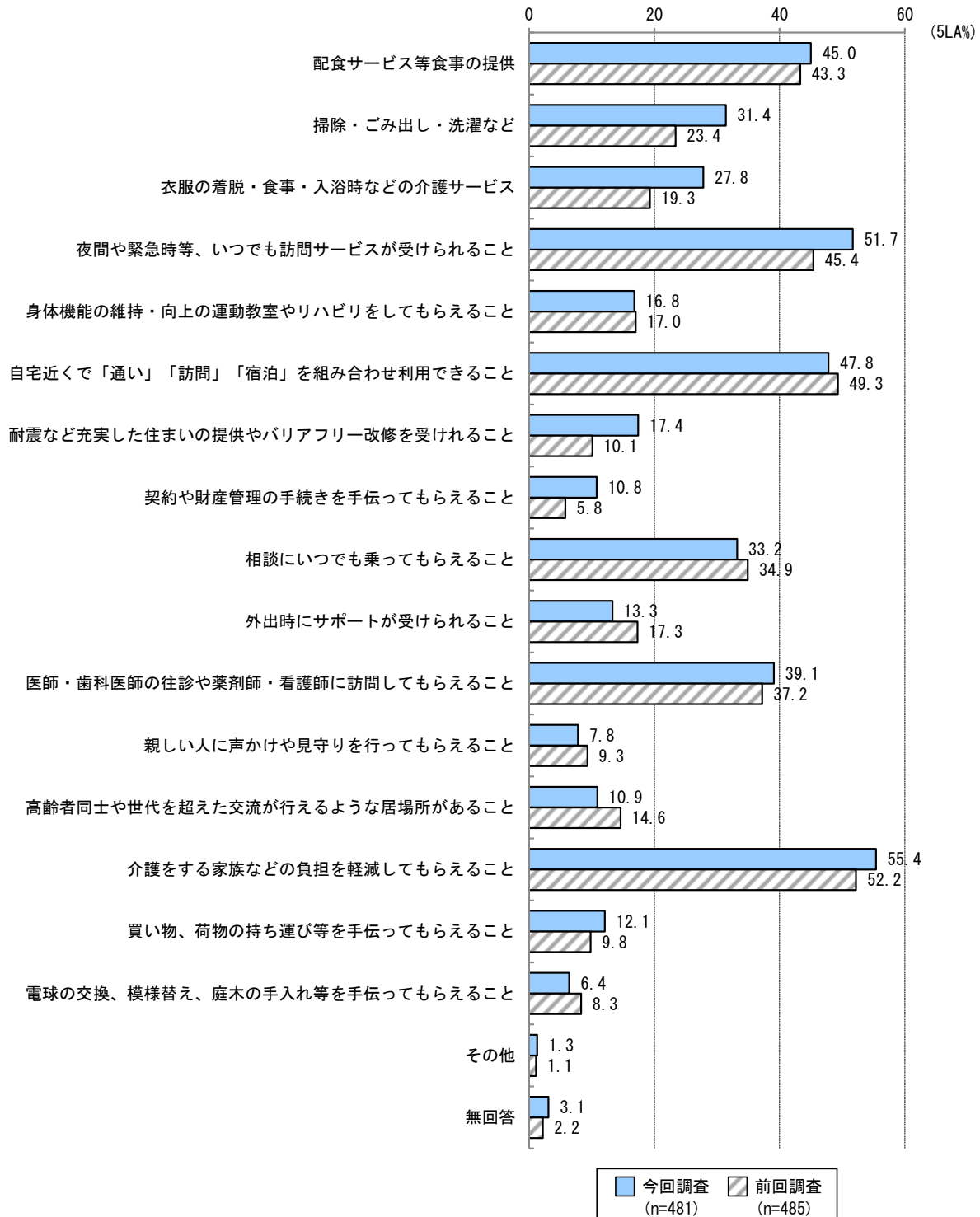
【図 6-1-4 経済状況別 介護保険制度への評価】



(2) 高齢期になって住み慣れた地域で生活続けるために充実すべき支援

問6 Q2 あなたは高齢期になって、住み慣れた地域で生活するには、どのような支援を充実すべきだと思いますか。〈〇は5つまで〉

【図 6-2 高齢期になって住み慣れた地域で生活続けるために充実すべき支援】

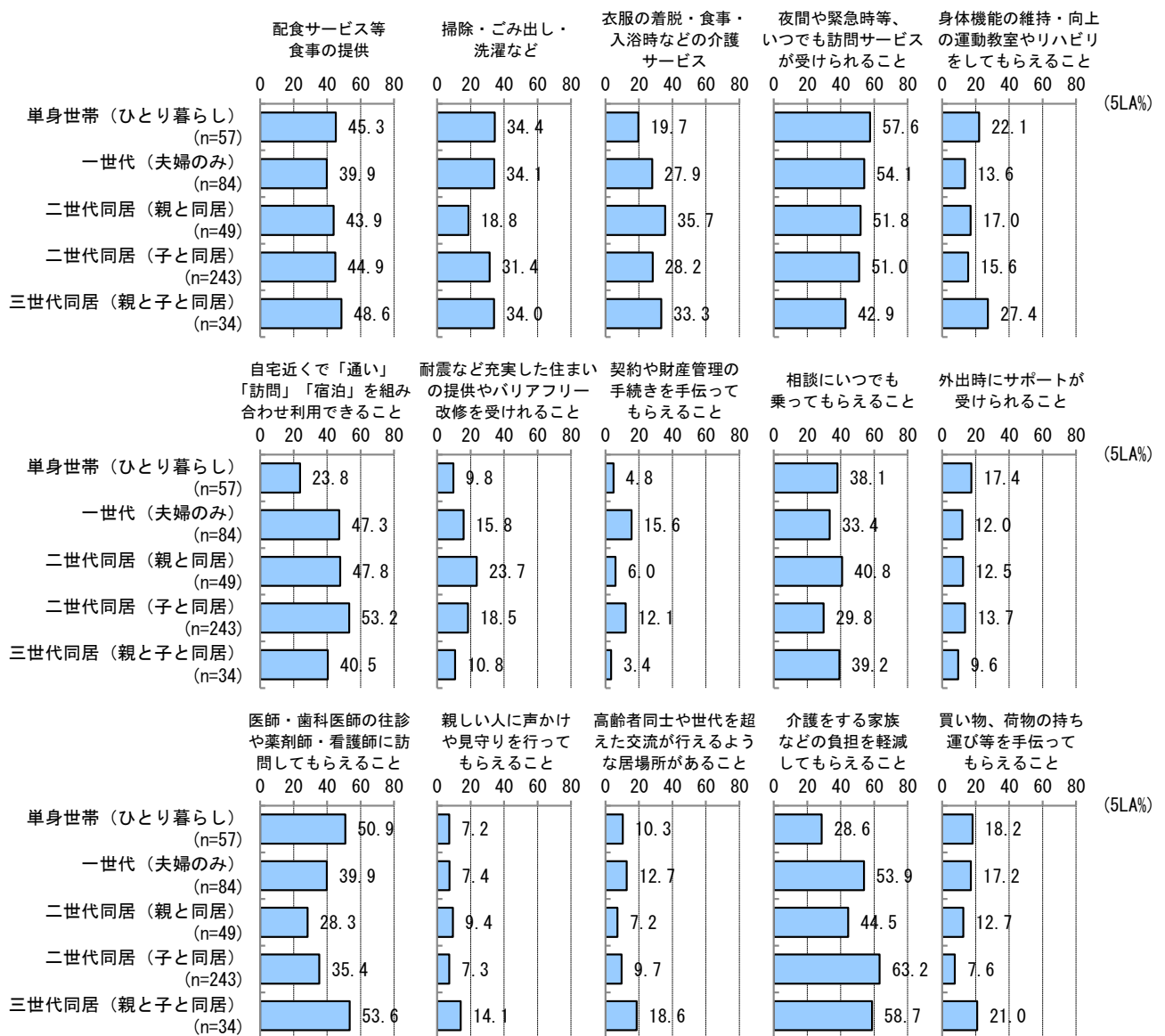


高齢期になって住み慣れた地域で生活続けるために充実すべき支援については、「介護をする家族などの負担を軽減してもらえること」が55.4%で最も多く、次いで「夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること」が51.7%、「自宅近くで「通い」「訪問」「宿泊」を組み合わせ利用できること」が47.8%となっています。

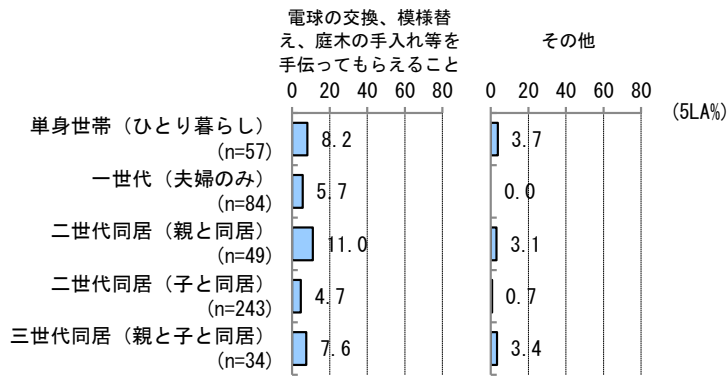
前回調査と比較すると、「衣服の着脱・食事・入浴時などの介護サービス」が 8.5 ポイント、「掃除・ごみ出し・洗濯など」が 8.0 ポイント、「耐震など充実した住まいの提供やバリアフリー改修を受けれること」が 7.3 ポイント、「夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること」が 6.3 ポイント、「契約や財産管理の手続きを手伝ってもらえること」が 5.0 ポイント高くなっています。(図 6-2)

家族構成別でみると、単身世帯（ひとり暮らし）や一世代（夫婦のみ）、二世世代同居（親と同居）は「夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること」（ひとり暮らし 57.6%、夫婦のみ 54.1%、親と同居 51.8%）が最も多く、二世世代同居（子と同居）と三世世代同居（親と子と同居）は「介護をする家族などの負担を軽減してもらえること」（子と同居 63.2%、親と子と同居 58.7%）が最も多くなっています。(図 6-2-1)

【図 6-2-1 家族構成別 高齢期になって住み慣れた地域で生活するために充実すべき支援①】



【図 6-2-1 家族構成別 高齢期になって住み慣れた地域で生活続けるために充実すべき支援②】

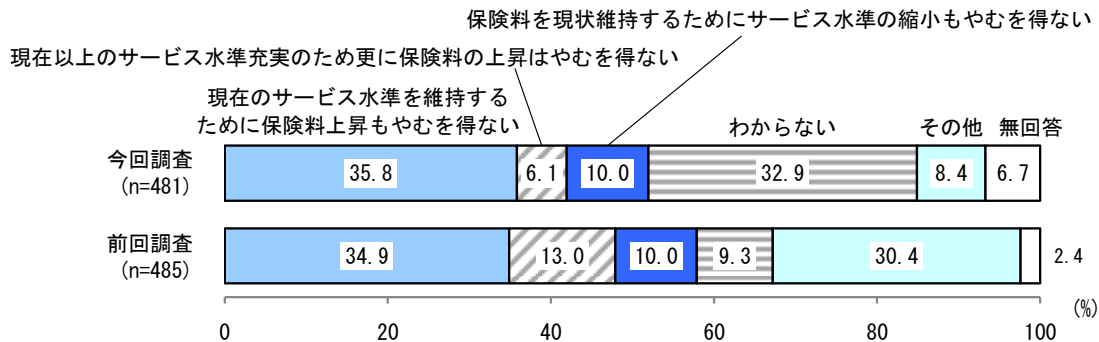


※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世帯同居（子と孫と同居）」「その他」の母数(n=10 未満)は少ないので割愛します。

（３）今後の介護保険料と介護サービスのあり方に対する考え方

問 6 Q 3 介護保険料は、介護サービス等の利用に必要な費用を基に算定しています。一人当たりが使う介護サービスが同じであっても、介護サービスを利用する高齢者数が増加すると、介護保険事業全体の総費用は増加し、保険料が上昇することとなります。あなたは、今後の介護保険料と介護サービスのあり方について、御自身の考え方に近いものは次のどれですか。＜○は１つ＞

【図 6-3 今後の介護保険料と介護サービスのあり方に対する考え方】



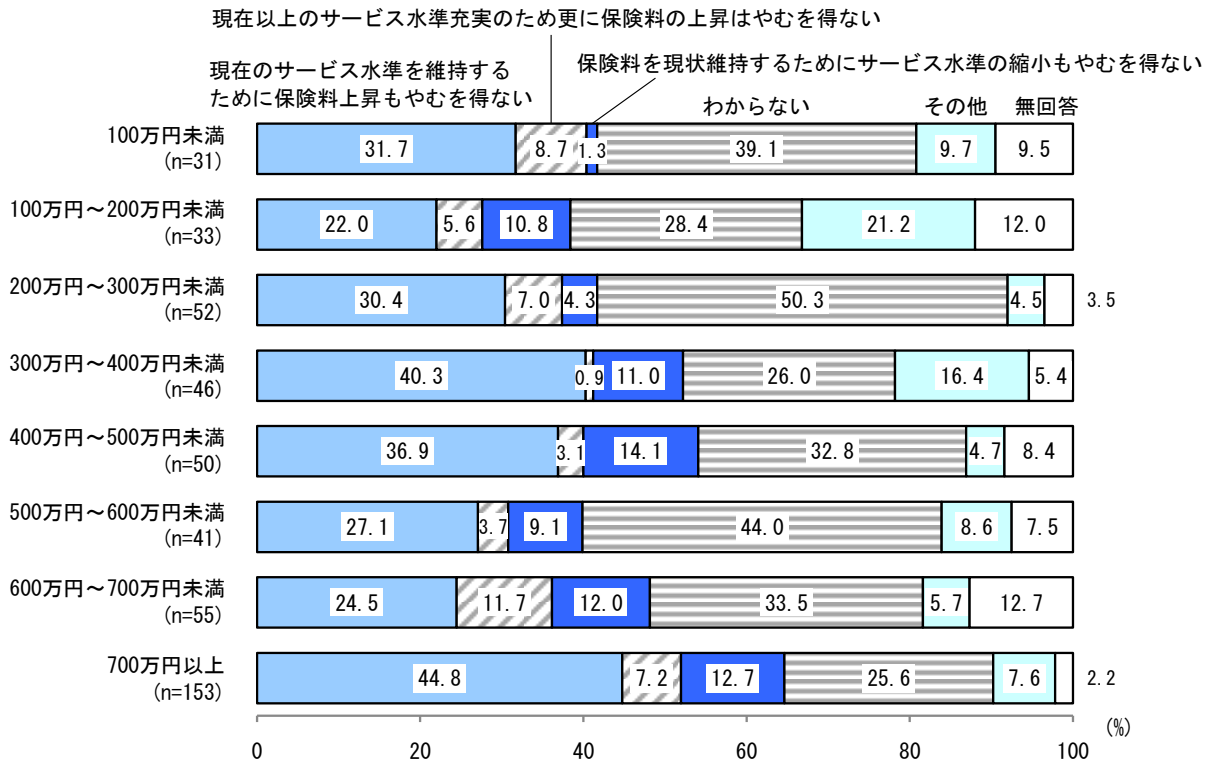
今後の介護保険料と介護サービスのあり方に対する考え方については、「現在のサービス水準を維持するために保険料上昇もやむを得ない」が 35.8%で最も多く、次いで「わからない」が 32.9%、「保険料を現状維持するためにサービス水準の縮小もやむを得ない」が 10.0%となっています。

前回調査と比較すると、「現在以上のサービス水準充実のため更に保険料の上昇はやむを得ない」が 6.9 ポイント低くなっています。（図 6-3）

世帯の年間総収入別でみると、「わからない」を除くと、年収額にかかわらず「現在のサービス水準を維持するために保険料上昇もやむを得ない」が最も多くなっています。なお、700 万円以上の世帯が 44.8%で最も高く、次いで 300 万円～400 万円未満の世帯が 40.3%、400 万円～500 万円未満の世帯が 36.9%となっています。

一方、「保険料を現状維持するためにサービス水準の縮小もやむを得ない」では、400 万円～500 万円未満の世帯が 14.1%で最も高く、次いで 700 万円以上の世帯が 12.7%、600 万円～700 万円未満の世帯が 12.0%となっています。（図 6-3-1）

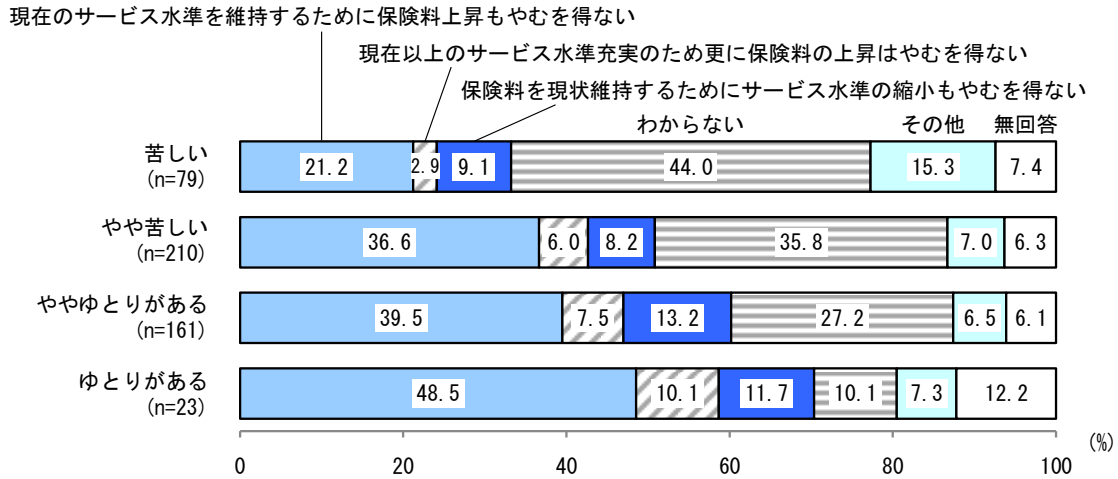
【図 6-3-1 世帯の年間総収入別 今後の介護保険料と介護サービスのあり方に対する考え方】



※「50 万円未満」の母数(n=7)は少ないので、「50 万円～100 万円未満」と合わせて集計しています。

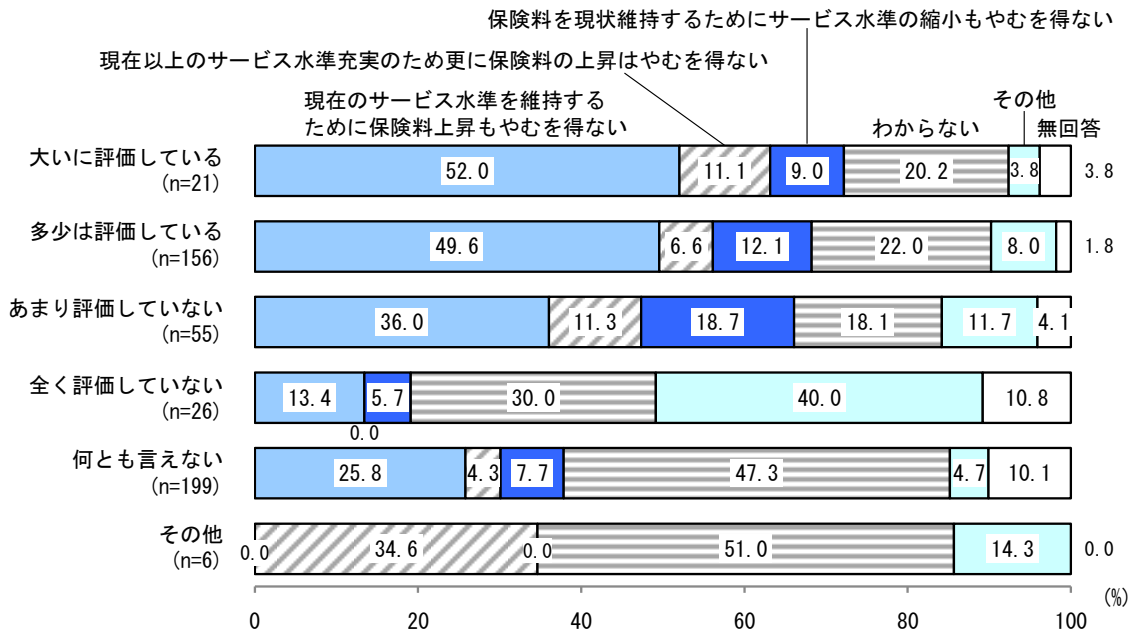
経済状況別でみると、経済的にゆとりのある人ほど「現在のサービス水準を維持するために保険料上昇もやむを得ない」と「現在以上のサービス水準充実のため更に保険料の上昇はやむを得ない」の割合が高くなる傾向にあります。(図 6-3-2)

【図 6-3-2 経済状況別 今後の介護保険料と介護サービスのあり方に対する考え方】



介護保険制度への評価別でみると、評価している人ほど「現在のサービス水準を維持するために保険料上昇もやむを得ない」が高い割合になっています。一方、「保険料を維持するためにサービス水準の縮小もやむを得ない」では、あまり評価していない人が 18.7%と比較的高い割合になっています。(図 6-3-3)

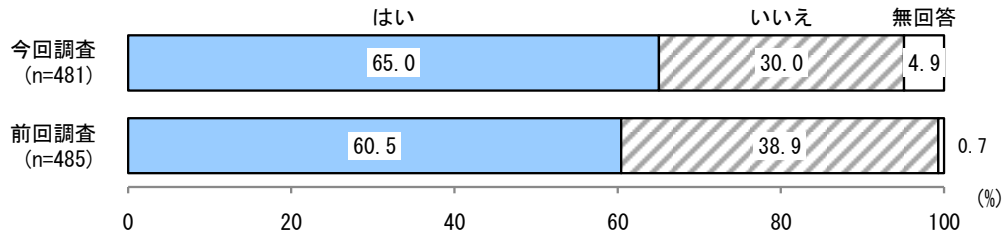
【図 6-3-3 介護保険制度への評価別 今後の介護保険料と介護サービスのあり方に対する考え方】



(4) 成年後見制度の認知度

問6 Q 4 成年後見制度とは、認知症や障害などの理由で判断能力の不十分な人に代わり、財産を管理したり、身のまわりの世話のために介護などのサービスや施設への入所に関する契約を結んだりする支援を行う制度です。あなたは成年後見制度を知っていますか。〈○は1つ〉

【図 6-4 成年後見制度の認知度】



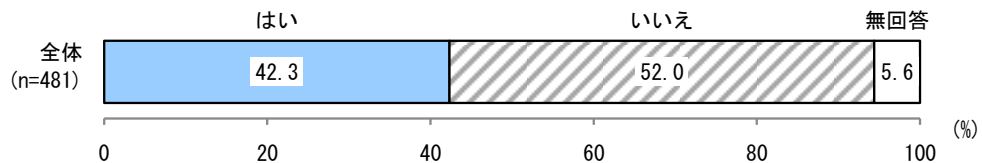
成年後見制度を知っているかについては、「はい」が 65.0%、「いいえ」が 30.0%となっています。

前回調査と比較すると、「はい」が 4.5 ポイント高くなっています。(図 6-4)

(5) 任意後見制度の認知度

問6 Q 5 任意後見制度とは、成年後見制度の1つで、判断能力がある間に、本人が選んだ任意後見人と公正証書で契約しておき、本人の判断能力が低下した後、契約に基づき、本人の契約行為や財産管理を支援する制度です。あなたは任意後見制度を知っていますか。〈○は1つ〉

【図 6-5 任意後見制度の認知度】



任意後見制度を知っているかについては、「はい」が 42.3%、「いいえ」が 52.0%となっています。(図 6-5)